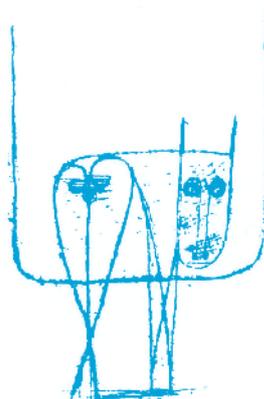

神奈川県立近代美術館

年2014報

ANNUAL REPORT



神奈川県立近代美術館

年2014報

ANNUAL REPORT

目次

あいさつ [水沢勉].....	3
展覧会活動	
2014年度展覧会 会期・観覧者数一覧.....	4
葉山館.....	5
鎌倉館.....	9
鎌倉別館.....	13
教育普及活動	
受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等).....	17
研修等受入プログラム(実習・研修・団体来館等)、視察受入状況.....	19
美術図書室.....	20
美術館紹介・広報掲載実績等.....	21
刊行物.....	22
2014年度の教育普及活動.....	23
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈状況.....	24
寄託状況.....	24
新収蔵作品一覧.....	24
館外貸出作品一覧.....	47
修復報告.....	50
修復作品一覧.....	53
調査研究活動	
研究・調査報告	
佐野繁次郎宛 金山康喜書簡 再考 [橋秀文].....	54
調査研究・執筆等の発表.....	59
外部資金の活用.....	59
講師派遣・外部委員等就任.....	59
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況).....	61
収入・支出の状況.....	61
関係法規.....	62
組織.....	63
職員一覧.....	64

あいさつ

神奈川県立近代美術館2014年度年報を刊行いたします。

年報は当該年度の美術館活動の報告書であり、それを編集出版することは、美術館の活動を対象化するために不可欠の作業であると同時に、それを館外へと発信するための重要な伝達行為でもあります。

当館は、2003年の葉山館開館以来、鎌倉館、鎌倉別館も含め、一組織三館体制で運営し、年間10本以上の展覧会を開催しています。

年報は存在としては地味ですが、多岐にわたる活動の記録としてたいせつな出版物であるのです。例えば、購入と寄贈による所蔵作品の推移も、年報を年代順に繰っていくことで正確に把握することができます。また、当館には、研究紀要に相当するものが存在しませんが、年報に記載される作品の基本データ、あるいは寄贈作品・資料の解説や紹介、そして、展覧会をきっかけとする美術史的な発見は、学術的役割を担っています。

今後、さらに刊行を継続することによって、情報の蓄積に努めるとともに、新たな美術館活動のヒントに結びつけばよいと願っております。

最後になりましたが、日ごろより、当館の活動にご理解、ご支援、ご協力いただいております関係各位に心より感謝の意を表したいと思います。

2016年3月

神奈川県立近代美術館
館長 水沢 勉

展覧会活動

2014年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料	観覧者数(人)				他館との 開催協力 など
					有料観 覧者数	無料観 覧者数	うち 中学生 以下	観覧者 数合計	
葉 山 館	立ちのぼる生命 宮崎進展	4/5～6/29	75日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生以下 900円 750円 450円 無料	4,616	3,011	318	7,627	
	いろ・うごき・かたち アートをめぐる夏の冒険	7/12～9/15	58日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 800円 650円 400円	5,576	3,407	2,143	8,983	
	東欧アニメをめぐる旅 ポーランド・チェコ・クロアチア	9/27～1/12	91日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,000円 850円 500円 100円	6,649	3,868	865	10,517	巡回： 三菱地所アルティアム (一部、内容を縮小)
	金山康喜のバリ -1950年代の日本人画家たち	1/24～3/22	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,000円 850円 500円 100円	5,421	2,267	257	7,688	巡回： 富山県立近代美術館 世田谷美術館
小計			274日		22,262	12,553	3,583	34,815	
鎌 倉 館	一原有徳 1910-2010 版-無限の可能性	4/5～6/8	57日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 700円 550円 350円 100円	3,121	2,374	1,039	5,495	
	フランスで活躍した画家 田淵安一 知られざる世界	7/5～9/15	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 700円 550円 350円 100円	4,839	2,678	1,533	7,517	
	コレクションの対話 近代美術の傑作	10/11～1/12	79日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 700円 550円 350円 100円	5,261	2,345	550	7,606	
	湘南の画家たち	1/24～3/22	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 700円 550円 350円 100円	4,875	1,797	715	6,672	
小計			250日		18,096	9,194	3,837	27,290	
鎌 倉 別 館	新収蔵作品展 併陳：小泉淳作デッサン展	4/5～6/22	69日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	1,789	859	140	2,648	
	ベン・シャーンと ジョルジュ・ルオー	7/5～9/15	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	4,073	1,359	681	5,432	
	美術と文学の交流 麻生三郎の装幀・挿画展	9/27～1/12	91日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	2,616	1,204	271	3,820	
	幻想の系譜 ゴヤから象徴派まで	1/24～3/22	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	2,630	656	133	3,286	
小計			274日		11,108	4,078	1,225	15,186	
合 計		12展覧会			51,466	25,825	8,645	77,291	

701

立ちのぼる生命 宮崎進展

BREATH OF LIFE: Shin MIYAZAKI

宮崎進(1922-)の創作の根底には、自らのシベリア抑留の経験を通してみた人間の生命に対する強い思いがある。1950年代に始まるその制作は、初期の写実的な油彩画から、布を用いたコラージュや、石膏やセメントなど様々な素材を取り込み、より抽象的で大規模な作風へと展開してきた。本展では、初期から近年の代表作《花咲く大地》や《泥土》を含む約70点の絵画と、《頭部》など約10点の立体作品、さらにスケッチ類や取材写真などを通して、激動の時代を生き抜いてきた作家に刻まれた歴史の影、そして再生への祈りを紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)

FMヨコハマ

後援：鎌倉市、鎌倉エフエム放送、FMブルー湘南78.5MHz

協力：湘南ビーチFM、かながわ信用金庫、湘南信用金庫、東日本旅客鉄道株式会社横浜支社

会期：2014年4月5日(土)～6月29日(日)

休館日：月曜日(ただし5月5日は開館)

開催日数：75日

出品総点数：111点

総観覧者数：7,627人

担当学芸員：榎山昌夫、土居由美

関連企画

- 1) 開催記念講演会「宮崎進の芸術」4月5日(土) 講師：辻惟雄氏(美術史家、MIHO MUSEUM館長)
- 2) 開催記念館長トーク 5月17日(土) 講師：水沢勉
- 3) ワークショップ「ドンゴロス鳥をつくろう」5月24日(土) 講師：仲田智氏(美術家)
- 4) 担当学芸員によるギャラリートーク 4月10日(木)、5月31日(土)、6月22日(日)
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 第2回(入門編) 6月7日(土)

カタログ

サイズ：22.8×22.1cm、148ページ、販売価格：2,400円(税込)

多色69図、単色18図

編集：神奈川県立近代美術館、神奈川新聞社

執筆：水沢勉、榎山昌夫、土居由美

デザイン：桑畑吉伸

制作：アイメックス・ファインアート

発行：神奈川新聞社

(書籍販売版：ISBN：978-4-87645-522-5)

目次

宮崎進 立ちのぼる生命(水沢勉)

Shin MIYAZAKI: BREATH OF LIFE [Tsutomu Mizusawa]

図版

宮崎進《祭りの夜》についての準備制作による考察(榎山昌夫)

Thoughts on Shin Miyazaki's Festival Night in Terms of Its Preparatory Studies [Masao Momiyama]

略年譜、参考文献(編：土居由美)

出品作品リスト List of Works



ポスター

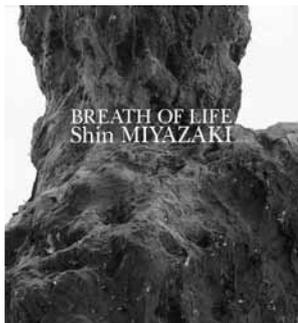
関連記事

▼展評・解説など

- ・水沢勉「立ちのぼる生命 宮崎進展 きょうから 県立近代美術館葉山 創作貫く強いメッセージ」『神奈川新聞』2014年4月5日、15面
- ・下野綾「絵画、彫刻に命寄せ 宮崎進さん個展始まる 近代美術館葉山」『神奈川新聞』2014年4月6日、21面
- ・窪田直子「見えないものが浮かび上がる 宮崎進展、一原有徳展」『日本経済新聞』2014年4月23日、48面
- ・石川健次「Art Scene 立ちのぼる生命 宮崎進展」『サンデー毎日』2014年4月27日、p.143
- ・大西若人「病に向き合い創作は続く 彫刻家・宮脇愛子 画家・宮崎進」『朝日新聞』2014年5月7日夕刊、4面
- ・水沢勉「立ちのぼる生命 宮崎進展 上 死の風景にとどまらず 生命のメッセージ」『神奈川新聞』2014年5月12日、7面
- ・榎山昌夫「立ちのぼる生命 宮崎進展 中 孤独を求め虚空に浮遊 格子の向こう」『神奈川新聞』2014年5月13日、11面
- ・土居由美「立ちのぼる生命 宮崎進展 下 レクイエムと生への讃歌 花咲く大地」『神奈川新聞』2014年5月16日、13面
- ・榎山昌夫「生きることの素晴らしさを謳い上げる——立ちのぼる生命 宮崎進展」『美術の窓』2014年5月20日、No.368、pp.118-121
- ・岸桂子「立ちのぼる生命 宮崎進展 麻袋に抑留者の涙」『毎日新聞』2014年5月28日夕刊、4面
- ・大津英敏「立ちのぼる生命 宮崎進展をみて 圧倒的な力強さ 奥深さと優しさ」と『新美術新聞』2014年6月1日、(No.1345)、p.2
- ・ワシオ・トシヒコ「評論の眼 魂の塊が無言で迫ってくる 宮崎進展 立ちのぼる生命」『ギャラリー』2014年8月1日、第352号、pp.64-65
- ・原田裕規「Reviews レセプタとしての大地 立ちのぼる生命 宮崎進展」『美術手帖』2014年8月1日(No.1108)、pp.224-226
- ・加藤賢亮「上半期最高の展覧会 立ちのぼる生命 宮崎進展」『中美 セントラル』2014年9月10日、通巻158号、p.15
- ・清水有「宮崎進展 立ちのぼる生命 生命の環」『美術運動』2015年3月、No.142、pp.8-9

▼展覧会紹介：7紙(12回)／10誌(11回)

▼情報掲載：6紙(24回)／17誌(24回)



カタログ表紙

702

いろ・うごき・かたち アートをめぐる夏の冒険

Color, Motion, Form : Summer Adventure in Art

本展では、所蔵品から「いろ」「うごき」「かたち」をキーワードに作品を選び、それぞれの特色をいかしながら構成した。マティスやカンディンスキーの版画、ピカソの陶器をはじめ、日本の戦後から現代美術を代表する鶴岡政男、村井正誠、渡辺豊重らの油彩、多田美波、西雅秋、河口龍夫らの彫刻などを出品。展覧会にあわせ、夏休みに来館する子どもたちや家族連れを主たる対象とした、ダンスや歌などのワークショップを企画したほか、遊びながら学べる作品カード付きのカタログを制作した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2014年7月12日(土)～9月15日(月・祝)

休館日：月曜日(ただし7月21日、9月15日は開館)

開催日数：58日

出品総点数：111点

総観覧者数：8,983人

担当学芸員：三本松倫代

カタログ

サイズ：19×19cm、2冊(作品解説：25ページ、作家解説：13ページ)+ポストカード20枚、

ケース付、販売価格：1,800円(税込)

多色44図、単色2図

執筆(作品・作家解説)：川人未来、三本松倫代、鈴木智香子、土居由美、長島彩音、橋秀文、松尾子水樹

デザイン：青木康子(PANGAEA)

制作：求龍堂

発行：神奈川県立近代美術館

関連企画

- 1)アーティスト・トーク 9月14日(日) 河口龍夫氏(美術家)
- 2)うごきで探るワークショップ 7月26日(土) 講師：島地保武氏(ダンサー、振付家)
- 3)パフォーマンス「He is turning into me」7月27日(日) 出演：島地保武氏
- 4)いろとかたちで探るワークショップ 8月10日(日) 講師：常田泰由氏(美術家)
- 5)うたで探るワークショップ 8月24日(日) 講師：高瀬makoring麻里子氏(歌手)
- 6)中高生のための鑑賞ワークショップ 8月1日(金)
- 7)親子のための鑑賞ワークショップ「あさっての美術館」8月3日(日)
- 8)親子でギャラリー・ツアー 7月31日(木)、8月19日(火)
- 9)担当学芸員によるギャラリー・トーク 9月13日(土)
- 10)先生のための特別鑑賞の時間 第4回(レベルアップ編) 7月19日(土)

関連記事

▼展覧会紹介：0紙(0回)/2誌(3回)

▼情報掲載：1紙(3回)/7誌(18回)



ポスター



カタログ表紙



カタログ中身

703

東欧アニメをめぐる旅 ポーランド・チェコ・クロアチア

Animation from East Europe: Creators in Poland, Czech, and Croatia

2度のアカデミー賞を獲得したアニメーション・スタジオ「セ・マ・フォル」の拠点、ポーランドの工業都市ウッチ。イジー・トゥルンカなど、人形アニメーションの伝統を誇るチェコの首都プラハと、カレル・ゼマンやヘルミーナ・ティールロヴァーが活躍した東部の都市ズリーン(旧ゴットヴァルドフ)。第二次世界大戦後に新聞漫画家や画家が集まってアニメーションを作り始めたクロアチアの首都ザグレブ。本展では、これら東欧の3カ国をとり上げ、それぞれの個性と伝統あるアニメーションを紹介するとともに、現代のアニメーション作品も展示した。

主催：神奈川県立近代美術館

後援：駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター、駐日

チェコ共和国大使館、チェコセンター、駐日クロアチア共和国大使館

協力：ポーランド映画製作者協会、ポーランド・アニメーション・プロデュ

ーサー協会、セ・マ・フォル、チェコ国立映画アーカイブ、バランドフ映画

撮影所、カレル・ゼマン・ミュージアム、ザグレブ・フィルム

企画協力：株式会社イデップ

助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団

会期：2014年9月27日(土)～2015年1月12日(月・祝)

休館日：月曜日(ただし10月13日、11月3日、11月24日、1月12日は開館)、

12月29日(月)～1月3日(土)

開催日数：91日

出品総点数：85点(アニメーションの点数)

総観覧者数：10,517人

担当学芸員：榎山昌夫、朝木由香

巡回情報：内容を縮小して三菱地所アルティウムに巡回

関連企画

- 1) オープニング記念講演会 9月27日(土) 講師：バウリナ・グラ氏(セ・マ・フォル プロジェクト・マネージャー)、ダニエル・シチェフラ氏(ポーランド・アニメーション作家)
- 2) 記念シンポジウム特別上映会 2015年1月12日(月・祝) ※「教育普及活動一覧」参照(p.17)
- 3) 記念シンポジウム「東欧アニメをめぐる旅」1月12日(月・祝) トーク：水沢勉、パネラー：越村勲氏(東京造形大学教授)、柴田勢津子氏(株式会社イデップ)、久堀由衣氏(ポーランド語翻訳家)、司会：榎山昌夫 ※ヴィトルト・ギェルシュ氏(ポーランド・アニメーション作家)は事情により欠席。
- 4) 東欧アニメーション特別上映会(全3回)
第1回 10月12日(日)、第2回 10月26日(日)、第3回 11月23日(日) ※「教育普及活動一覧」参照(p.18)
- 5) 県立機関活用講座「アニメの楽しさ・豊かさ」(全5回)
第1回 10月18日(土)「チェコ・アニメーションと音楽」講師：ジャン・ガスパール・パーレニーチェク氏(バリ・チェコセンター副館長)、ヴァーツラフ・トロヤン氏(同名の作曲家・ピアニストであるヴァーツラフ・トロヤンの子息)

第2回 11月1日(土)「立体(人形)アニメーションの考え方」講師：村田朋泰氏(アニメーション作家、女子美術大学准教授)

第3回 11月15日(土)「東欧のコマ撮りアニメーションの魅力」講師：峰岸裕和氏(ストップ

モーション・アニメーター)

第4回 12月6日(土)「かわいい・こわい ザグレブ派アニメーションの世界」講師：越村

勲氏(東京造形大学教授)

第5回 12月20日(土)「HU + ANIM(フ・アニメ)ーハンガリーで開花したアニメーション

文化と現状」講師：板橋晴子氏(ハンガリー・アニメーション研究者、イラストレーター

〈なぼちかはるこ〉)

6) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 10月13日(月・祝)、11月22日(土)、12月21日(日)

7) 先生のための特別鑑賞の時間 第5回(入門編) 11月8日(土)

カタログ

サイズ：23×21.5 cm、147ページ、販売価格：2,700円(税込)

多色194図、単色78図

執筆：ミハエラ・メルトヴァー(チェコ国立映画アーカイヴ・キュレーター)、ジャン・ガス

パール・パーレニーチェク、越村勲、榎山昌夫、朝木由香、宮崎淳史(チェコ美術研究家)、門

間卓也(東京大学大学院総合文化研究科博士課程)

編集：榎山昌夫、朝木由香、柴田勢津子

翻訳：平岩理恵(ポーランド語訳)、久堀由衣(ポーランド語訳)、吉田和泉(ポーランド語

訳)、宮崎淳史、高松・パーレニーチェク美織

制作協力：イデップ

制作・デザイン：求龍堂

印刷・製本：光村印刷

発行：求龍堂

ISBN：978-4-7630-1446-7 C0071

目次

まえがき(水沢勉)

図版

ポーランド共和国のアニメーション(朝木由香)

ポーランド・アニメーションの歴史(『ポーランド・アニメの60年』ウッチ・フィルム・ミュージ

アム、2008年より再録)

チェコ共和国のアニメーション(榎山昌夫、宮崎淳史)

チェコのアニメーション映画(ミハエラ・メルトヴァー)

クロアチア共和国のアニメーション(榎山昌夫、門間卓也)

かわいい・こわい? / クロアチアのアニメーション(越村勲)

東欧アニメをめぐる旅 年譜(朝木由香、榎山昌夫)

主要参考文献

あとがき(榎山昌夫)

関連記事

▼展評・解説など

・下野綾「県立近代美術館葉山 クロアチア、ポーランド、チェコ 東欧アニメの歩み紹介」

『神奈川新聞』2014年12月2日、13面

▼展覧会紹介：2紙(3回) / 3誌(3回)

▼情報掲載：5紙(42回) / 14誌(28回)



ポスター



カタログ表紙

704

金山康喜のパリ—1950年代の日本人画家たち

KANAYAMA Yasuki in Paris-Japanese Painters in the 1950s

金山康喜(1926-1959)は1951年に経済学を学ぶために留学したフランスで絵画制作を始めた。具象、半具象、抽象といったさまざまな画風が熱気を帯びて展開した1950年代のフランス画壇で、彼の具象画は新鮮さを放ち、注目を浴びたが、惜しくも1959年、33歳の若さで急逝した。本展では、金山の作品約70点を、野見山暁治や佐野繁次郎、田淵安一といった友人らの作品約70点と合わせて展覧し、1950年代パリの熱い絵画思潮を回顧した。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞

会期：2015年 1月24日(土)～3月22日(日)

休館日：月曜日

開催日数：50日

出品総点数：141点、資料12点(巡回展共通)

総観覧者数：7,688人

担当学芸員：橋秀文、西澤晴美

巡回情報：富山県立近代美術館、世田谷美術館

目次

カナヤマ(野見山暁治)

金山康喜のパリと1950年代の日本人画家たち(橋秀文)

図版

未完の風景画／未完の金山康喜(杉野秀樹)

金山康喜の遺品調査を終えて(渡辺希利子)

田淵安一の東京とパリ 渡仏前後の作風の変遷をたどる(西澤晴美)

金山康喜年譜、用語解説

関連地図

1950年代渡仏芸術家・文化人フランス滞在時期一覧

主要文献目録

出品リスト

関連企画

- 1) 記念講演会「金山康喜と私」 1月24日(土) 講師：野見山暁治氏(画家)
- 2) 美術とダンスのワークショップ 3月14日(土) 講師：ほうほう堂(新舗美佳氏&福留麻里氏、ダンサー)
- 3) 家族のための鑑賞ワークショップ 3月1日(日)
- 4) カフェ・トーク 2月1日(土) 講師：橋秀文
- 5) 担当学芸員によるギャラリートーク 2月28日(土)、3月21日(土)
- 6) 先生のための特別鑑賞の時間 第8回(入門編) 1月31日(土)

カタログ

サイズ：26.5×19.5 cm、205ページ、販売価格：2,300円(税込)

多色138図、単色62図

執筆：野見山暁治、橋秀文、西澤晴美、杉野秀樹(富山県立近代美術館)、渡辺希利子(富山県立近代美術館)、遠藤望(世田谷美術館)

編集：神奈川県立近代美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館、東京新聞

翻訳：マーサ・マクリントク

デザイン：桑畑吉伸

制作：リーヴル

発行：東京新聞

関連記事

▼展評・解説など

- ・ 草間俊介「パリで磨かれた繊細な青 葉山 画家・金山康喜作品70点を展示」『東京新聞』2015年1月24日、24面
- ・ 岸桂子「評 美術 金山康喜のパリ—1950年代の日本人画家たち 静物に託す世界観」『毎日新聞』2015年2月4日、5面
- ・ 原田光「金山康喜のパリ 1950年代の日本人画家たち 上 惹かれる深い青」『東京新聞』2015年2月12日夕刊、8面
- ・ 志村節子「金山康喜のパリ 1950年代の日本人画家たち 中 色彩で調和保つ」『東京新聞』2015年2月13日夕刊、8面
- ・ 野見山暁治「金山康喜のパリ 1950年代の日本人画家たち 下 清冽虚構の世界」『東京新聞』2015年2月14日夕刊、8面
- ・ 渡辺希利子「必見!!今年の展覧会BEST200 金山康喜のパリ 1950年代の日本人画家たち 夭折の画家・金山康喜とパリの日本人画家たち」『美術の窓』2015年2月20日、No.397、p.86
- ・ 下野綾「パリの熱漂う叙情性 交流画家の作品展示も 葉山で金山康喜展 県立近代美術館」『神奈川新聞』2015年3月3日、17面
- ・ 大西若人「美の履歴書 394 なぜ揺らいでいるのか 『食前の祈り』 金山康喜」『朝日新聞』2015年3月4日夕刊、3面
- ・ 西澤晴美「アート・トーキング 金山康喜『食前の祈り』(1950年)」『日本経済新聞』2015年3月12日、37面

▼展覧会紹介：5紙(11回)／2誌(2回)

▼情報掲載：6紙(19回)／8誌(12回)



ポスター



カタログ表紙

705

一原有徳 1910-2010 版 — 無限の可能性

ICHIHARA Arinori 1910-2010: A Retrospective

一原有徳(1910-2010)は、北海道、小樽を拠点に活躍した版画家である。1950年代後半、石版石を用いたモノタイプに着手して以来、一貫してモノタイプと金属凹版による表現を追求した。銅、鉄、亜鉛、アルミニウム、ステンレス、あるいは廃車の金属の表面を、叩き、削り、腐蝕させた版による抽象表現は、既存の常識を超え、版画の可能性を拡張し続けた。本展ではその実験的な版画制作を、所蔵作品から紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2014年4月5日(土)～6月8日(日)

休館日：月曜日(ただし5月5日は開館)

開催日数：57日

出品総点数：108点

総観覧者数：5,495人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月12日(土)、5月24日(土)

2) 先生のための特別鑑賞の時間 第1回(入門編) 5月10日(土)

関連記事

- ・ 窪田直子「見えないものが浮かび上がる 宮崎進展、一原有徳展」『日本経済新聞』2014年4月23日、48面
- ・ 岩本茂之「神奈川県立近代美術館鎌倉館で一原展 銅の深み多様に表現」『北海道新聞』(夕刊) 2014年4月30日、5面

▼ 展覧会紹介：2紙(2回)／0誌(0回)

▼ 情報掲載：3紙(8回)／12誌(20回)



ポスター

706

フランスで活躍した画家 田淵安一 知られざる世界
The Unknown World of Yasse TABUCHI

田淵安一(1921-2009)は、復員後、新制作派協会で活動し、1951年に渡仏。以後約60年にわたり、異国で制作しながら西欧と日本という、根源的なテーマを自問し続けた。その作風は、初期の具象画から、同時代の抽象表現に触発された厚塗りのマチエールへと変化し、奔放な色彩の中に、理知的な思索を秘めた独自の絵画世界を生み出した。本展は、1996年の鎌倉館、2006年の葉山館で開催された個展に次ぐもので、作家没後、ご遺族より寄贈された初期から90年代の水彩、版画約100点を中心に、当館が所蔵する代表作の油彩画、資料とあわせて紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2014年7月5日(土)～9月15日(月・祝)
休館日：月曜日(ただし7月21日、9月15日は開館)
開催日数：64日
出品総点数：101点
総観覧者数：7,517人
担当学芸員：西澤晴美、橋秀文

関連記事

▼展評・解説など

- ・石川健次「Art Scene 田淵安一 知られざる世界」『サンデー毎日』2014年8月10日、p.123
- ・下野綾「創作の軌跡をたどる 田淵安一 知られざる世界」『神奈川新聞』2014年9月2日、7面

▼展覧会紹介：1紙(1回)／3誌(3回)

▼情報掲載：6紙(19回)／8誌(12回)

関連企画

- 1)担当学芸員によるギャラリートーク 8月2日(土)、9月6日(土)
- 2)先生のための特別鑑賞の時間 第3回(入門編) 7月12日(土)

カタログ

サイズ：25.7×19.3cm、92ページ、販売価格：1,600円(税込)

多色73図、単色25図

編集：神奈川県立近代美術館

デザイン：馬面俊之

制作：求龍堂

発行：神奈川県立近代美術館

目次

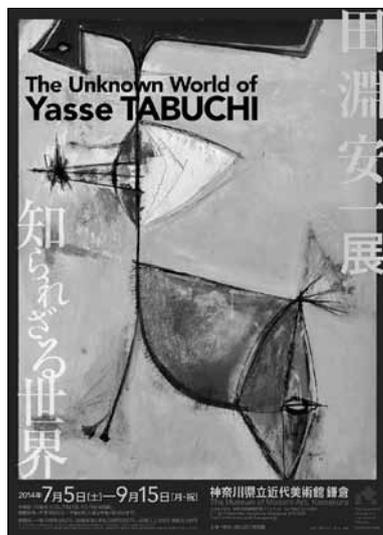
あいさつ(水沢勉)

現代の文人画家田淵安一の知られざる世界—グローバルに展開した画家の軌跡—(橋秀文)

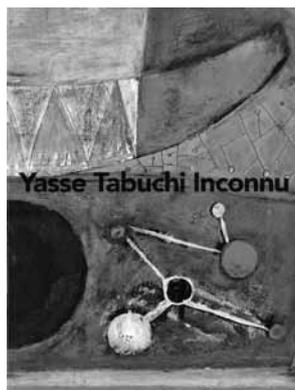
図版(解説：西澤晴美)

田淵安一 年譜(編：西澤晴美、菊池真央)

作品リスト



ポスター



カタログ表紙

707

コレクションの対話 近代美術の傑作

Conversations between Collections: Masterpieces of The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

2008年以降、美術愛好家の北川原夫妻より寄贈された「北川原コレクション」を中心に、当館の日本近代美術の選りすぐりの所蔵品と併せて紹介した。同コレクションの代表作、藤田嗣治《横たわる裸婦》や海老原喜之助《川辺にて》を、当館所蔵の藤田の《二人裸婦》や、海老原の《友よさらば》と並べると同時に、同コレクションの、アンドレ・ドランやジョージ・グロスなどの油彩画や水彩画を展示した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2014年10月11日（土）～2015年1月12日（月・祝）

休館日：月曜日（ただし10月13日、11月3日、11月24日、1月12日は開館）、
12月29日（月）～1月3日（土）

開催日数：79日

出品総点数：98点

総観覧者数：7,606人

担当学芸員：土居由美、橋秀文

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 10月11日（土）、12月13日（土）
- 2) 先生のための特別鑑賞の時間 第6回（入門編） 11月15日（土）

関連記事

▼ 展覧会紹介：1紙（1回）／0誌（0回）

▼ 情報掲載：4紙（26回）／7誌（9回）



ポスター

708

湘南の画家たち

Artists in Shonan

明治期以降、別荘地として独特の文化が生まれた相模湾一帯。大正期に岸田劉生や萬鉄五郎が療養生活を送り、彼らの創作熱は鳥海青児や原精一へと受け継がれた。富士や箱根を望む海の光は、黒田清輝や有島生馬、朝井閑右衛門などの洋画家を惹きつけ、また、竈木清方や山口蓬春をはじめ、前田青邨や片岡球子など日本画家が画室を構えたことで知られる。本展では、鎌倉と葉山に立ち、その文化的気風のもとで活動を重ねてきた当館のコレクションから、湘南を描いたり、制作の場とした画家たちの仕事を、近代洋画と日本画から現代美術まで約60点で紹介し、併せて彫刻室を中心に湘南の彫刻家たちも小特集した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2015年 1月24日(土)～3月22日(日)

休館日：月曜日

開催日数：50日

出品総点数：62点

総観覧者数：6,672人

担当学芸員：三本松倫代

関連企画

1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 2月7日(土)、3月7日(土)

2) 先生のための特別鑑賞の時間 第9回(レベルアップ編) 2月7日(土)

関連記事

・ 三本松倫代「湘南-その芸術的地勢 神奈川県立近代美術館 鎌倉 コレクション展を巡って 岸田劉生・萬鉄五郎ら 創造的土壌で多様な個性を発揮」『聖教新聞』2015年1月28日、6面

・ 下野綾「近代美術館と鎌倉別館 湘南ゆかりの画家たち 幻想切り口に版画展」『神奈川新聞』2015年1月28日、6面

▼ 展覧会紹介：2紙(2回)／3誌(3回)

▼ 情報掲載：3紙(15回)／15誌(23回)



ポスター

709

新収蔵作品展 併陳：小泉淳作デッサン展

New Acquisitions of 2013 & Drawings by KOIZUMI Junsaku

本展では2013年度の収蔵作品を紹介した。加納光於の《セルペンティナータ》やジゼル・ツェラン＝レトランジュとパウル・ツェランによる詩画集『息の結晶』などの購入作品や、村山知義の《ヘルタ・ハインツェ像》、青山義雄の《家鴨の葬式》の習作、鳥海青児の《ノートルダム》や井上長三郎の《静物》、《ドン・キホーテ》などの絵画、また彫刻では、浜田知明の《飄々》や木内克の《裸婦》、さらに斎藤清、吹田文明などの版画を出品した。また、新収蔵作品から、小泉淳作(1924-2012)が、1950年代から80年代に制作した人物、風景などのデッサン約30点を特集展示した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2014年4月5日(土)～6月22日(日)

休館日：月曜日(ただし5月5日は開館)

開催日数：69日

出品総点数：93点

総観覧者数：2,648人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月26日(土)、6月8日(日)

2) 先生のための特別鑑賞の時間 第1回(入門編) 5月10日(土)

▼展覧会紹介：0紙(0回)／0誌(0回)

▼情報掲載：2紙(6回)／9誌(11回)



チラシ

710

ベン・シャーンとジョルジュ・ルオー
Ben Shahn and Georges Rouault

ベン・シャーン(1898-1969)とジョルジュ・ルオー(1871-1958)。人間に対する深い洞察力によって描かれた彼らの作品は、今なお人々を魅了し続けている。それぞれニューヨーク、パリを拠点に活動し、直接の交流や影響関係はないと言える。しかし、絵画だけでなく版画、デザインに及ぶ多彩な制作や、輪郭線や、黒を基調とした表現上の特徴においていくつかの共通点が指摘できるだろう。本展では、ルオーの版画集「ミセレーレ」とシャーンの版画集「一行の詩のためには…：リルケ『マルテの手記』より」をそれぞれ全点展示した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2014年7月5日(土)～9月15日(月・祝)

休館日：月曜日(ただし7月21日、9月15日は開館)

開催日数：64日

出品総点数：102点(会期中に版画集のページ替あり)

総観覧者数：5,432人

担当学芸員：李美那

関連企画

1)担当学芸員によるギャラリートーク 7月19日(土)、8月16日(土)

2)先生のための特別鑑賞の時間 第3回(入門編) 7月12日(土)

関連記事

▼展覧会紹介：0紙(0回)／0誌(0回)

▼情報掲載：4紙(16回)／11誌(18回)



ポスター

711

美術と文学の交流 麻生三郎の装幀・挿画展

Book Designs and Illustrations by ASO Saburo

洋画家・麻生三郎(1913-2000)は、絵画制作のかたわら、文章家としても知られるが、装幀・挿画も手がけた。季刊誌『帖面』(1958-82)では、装幀や挿画ばかりでなく編集にも携わり、小さな冊子のなかに文学や美術に対する真摯さと遊び心をあわせもつ豊かな世界を生み出した。本展では、『帖面』のための表紙、カット、デッサンに加え、野間宏著『真空地帯』、椎名麟三著『永遠なる序章』、太宰治著『人間失格』の挿画や装幀の原画など約500点を通して、文学者や編集者たちとの交流によって生まれた麻生の新たな一面を紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2014年9月27日(土)～2015年1月12日(月・祝)

休館日：月曜日(ただし10月13日、11月3日、11月24日、1月12日は開館)、
12月29日(月)～1月3日(土)

開催日数：91日

出品総点数：作品170件294点、資料204点

総観覧者数：3,820人

担当学芸員：長門佐季

関連記事

▼展評・解説など

・「麻生三郎芸術の一側面」『新美術新聞』2014年10月1日、4面

・下野綾「日本近代洋画味わう 近美鎌倉 知られざる麻生三郎 鎌倉別館」『神奈川新聞』2014年12月9日、15面

▼展覧会紹介：2紙(3回)／1誌(1回)

▼情報掲載：2紙(16回)／9誌(20回)

関連企画

1)ワークショップ「愛読書からつくるフランス装仕立てのブックカバーとノート」11月23日(日)

講師：毛利彩乃氏(造本家)

2)担当学芸員によるギャラリー・トーク 10月25日(土)、11月22日(土)

3)先生のための特別鑑賞の時間 第7回(入門編) 11月22日(土)

カタログ

サイズ：19×19.1cm、120ページ、販売価格：1,500円(税込)

多色112図、単色110図

執筆：森登(学藝書院主)、水沢勉、橋秀文、長門佐季

編集：橋秀文、長門佐季

撮影：久保良

デザイン：馬面俊之

制作：朝日オフセット印刷

発行：神奈川県立近代美術館

目次

沈思と諧謔 あいさつにかえて(水沢勉)

麻生さんの本を制作して(森登)

図版

椎名麟三のための装幀・挿画(橋秀文)

野間宏のための装幀・挿画(橋秀文)

太宰治のための挿画(橋秀文)

麻生三郎と蓬萊屋印刷所(橋秀文)

書籍のための表紙・カバー(長門佐季)

雑誌のためのカット(長門佐季)

わが麻生三郎 [再録] (野間宏)

麻生三郎の画室 [再録] (近藤信行)

麻生三郎 略年譜(編：長門佐季)

装幀・挿画 作品目録(編：長門佐季)

装幀・挿画 文献目録(編：長門佐季)



ポスター



カタログ表紙

712

幻想の系譜 ゴヤからクリンガーまで

The Genealogy of Fantasy: From Goya to Klinger

フランス革命により従来の価値観が変化した近代ヨーロッパでは、現実世界の混乱、喪失を背景に、独自の想像世界へと向かう作家が現れた。理性や科学で解決できない、不可視なるものへの狂熱は、美術のみならず、文学、音楽などさまざまな分野でも、互いに共鳴しながら豊かな表現を生み出した。本展では18世紀末から19世紀末の西洋版画コレクションから、クリンガー(1857-1920)の『ブラムス幻想』を中心に、ゴヤ(1746-1828)から、ブレイク(1757-1827)、ドラクロワ(1798-1863)、ルドン(1840-1916)へと連なる幻想芸術の流れを辿り、その魅力を探った。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2015年1月24日(土)～3月22日(日)

休館日：月曜日

開催日数：50日

出品総点数：133点

総観覧者数：3,286人

担当学芸員：朝木由香

関連企画

1)担当学芸員によるギャラリートーク 2月8日(日)、3月8日(日)

2)先生のための特別鑑賞の時間 第9回(レベルアップ編) 2月7日(土)

リーフレット

サイズ：40×29.7cm

多色8図

執筆：朝木由香

(解説・作品リスト)

制作：ニューカラー写真印刷

発行：神奈川県立近代美術館

関連記事

・下野綾「近代美術館と鎌倉別館 湘南ゆかりの画家たち 幻想切り口に版画展」『神

奈川新聞』2015年1月28日、6面

・原圭介「人間の本性が『怪物』を生む 幻想の系譜 ゴヤからクリンガーまで」『EX

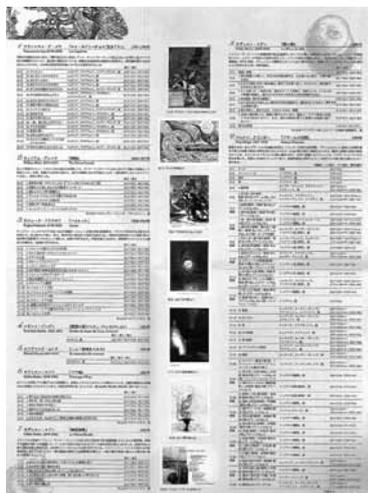
SANKEI EXPRESS』2015年3月2日、15面

▼展覧会紹介：2紙(2回)／1誌(1回)

▼情報掲載：4紙(12回)／11誌(21回)



リーフレット表紙



作品リスト

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等)

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	募集人数	受講人数	
講演会	「宮崎進展」開催記念講演会	「宮崎進の芸術」	辻惟雄氏(美術史家、MIHO MUSEUM館長)	H26.4.5	葉山館	70人	80人
	「東欧アニメ」展オープニング記念講演会	「東欧アニメ」展を記念した講演会	パウリナ・グラ氏(セ・マ・フォル プロジェクト・マネージャー)、ダニエル・シチエフラ氏(ポーランド、アニメーション作家)	H26.9.27	葉山館	70人	36人
	「東欧アニメ」展記念シンポジウム特別上映会	テレビアニメシリーズ『ゾウのドミニク』より、『おでかけ』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1968年/9分(ポーランド語音声あり))、『ポールド・カウボーイ』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1973年/8分/ポーランド、『ネオンのお話』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1959年/8分/ポーランド、『すばらしい行進』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1970年/16分(ポーランド語音声あり))、『歴史遺産』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1978年/7分/ポーランド、『待ちながら』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1962年/9分/ポーランド、『スタントマン』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1971年/8分(ポーランド語音声あり))、『レディース&ジェントルマン』(ヴィトルト・ギエルシュ監督/1965年/5分/ポーランド)		H27.1.12	葉山館	70人	25人
	「東欧アニメ」展記念シンポジウム「東欧アニメをめぐる旅」	「東欧アニメ」展を記念したシンポジウム	トーク「東欧アニメへの誘い」水沢勉(当館館長)、パネラー：越村勲氏(東京造形大学教授)、柴田勢津子氏(株式会社イデップ)、久堀由衣氏(ポーランド語翻訳家)、司会：榎山昌夫(当館主任学芸員)	H27.1.12	葉山館	70人	76人
アーティストトーク	「金山康喜のバリ」展記念講演会「金山康喜と私」	「金山康喜のバリ」展を記念した講演会	野見山暁治氏(画家)	H27.1.24	葉山館	70人	92人
	「いろ・うごき・かたち展」アーティスト・トーク	アーティストによる作品解説	河口龍夫氏(美術家)	H26.9.14	葉山館	自由参加	36人
ツアー	鎌倉館・鎌倉別館、建築ツアー	両館を巡りながら、建物の魅力や美術館建築としてのあり方について話す	松隈洋氏(京都工芸繊維大学教授)	H27.3.15	鎌倉館・鎌倉別館	30人	34人
ワークショップ	ワークショップ「ドンゴロス鳥をつくろう」	宮崎進展に関連し、ドンゴロス等を使ってイメージの鳥をつくるプログラム	中田智氏(美術家)	H26.5.24	葉山館	15人	16人
	うごきで探るワークショップ	体をつかって「いろ・うごき・かたち」を表現する	島地保武氏(ダンサー、振付家)	H26.7.26	葉山館	15人	11人
	パフォーマンス「He is turning into me」	パフォーマンス	島地保武氏(ダンサー、振付家)	H26.7.27	葉山館	自由参加	116人
	中高生のための鑑賞ワークショップ	「いろ・うごき・かたち」展を鑑賞 学芸員の仕事についても解説	松尾子水樹(当館学芸員)、川人未来(当館学芸員)	H26.8.1	葉山館	15人	11人
	親子のための鑑賞ワークショップ「あさつての美術館」	「いろ・うごき・かたち」展のギャラリー・ツアーと『宝箱』を使ったワークショップ	松尾子水樹	H26.8.3	葉山館	30人	28人
	いろとかたちで探るワークショップ	自分の好きな作品から色や形をとりいれてカラージュ作品をつくるプログラム	常田泰由氏(美術家)	H26.8.10	葉山館	20人	19人
	うたで探るワークショップ	作品をみながら出てきた言葉を、メロディにのせてうたをつくるプログラム	高瀬“makoring”麻里子氏(歌手)	H26.8.24	葉山館	20人	17人
	愛読書からつくる フランス装仕立てのブックカバーとノート	フランス装風の文庫本カバー、中綴じのノートを制作するプログラム	毛利彩乃氏(造本家)	H26.11.23	鎌倉館・鎌倉別館	15人	15人
	カフェ・トーク	「金山康喜のバリ」展について、担当学芸員と一緒に語り合うプログラム	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H27.2.1	葉山館	15人	22人
	家族のための鑑賞ワークショップ	親子・家族で「金山康喜のバリ」展を鑑賞するプログラム	松尾子水樹、川人未来	H27.3.1	葉山館	20人	9人
	美術とダンスのワークショップ	絵のなかの空間を、ものやダンサーの体を使って再現し関係性を考えるプログラム	ほうほう堂(新舗美佳氏&福留麻里氏)(ダンサー)	H27.3.14	葉山館	20人	13人
	ギャラリートーク	ギャラリー・トーク/宮崎進展	学芸員による作品解説	榎山昌夫	H26.4.10	葉山館	自由参加
ギャラリー・トーク/一原有徳展		学芸員による作品解説	橋秀文	H26.4.12	鎌倉館	自由参加	15人
ギャラリー・トーク/新収蔵作品展 併陳：小泉淳作デッサン展		学芸員による作品解説	橋秀文	H26.4.26	鎌倉別館	自由参加	14人
「宮崎進展」開催記念館長トーク		当館館長によるトーク	講師：水沢勉、司会：榎山昌夫	H26.5.17	葉山館	自由参加	110人
ギャラリー・トーク/一原有徳展		学芸員による作品解説	橋秀文	H26.5.24	鎌倉館	自由参加	23人
ギャラリー・トーク/宮崎進展		学芸員による作品解説	榎山昌夫	H26.5.31	葉山館	自由参加	15人
ギャラリー・トーク/新収蔵作品展 併陳：小泉淳作デッサン展		学芸員による作品解説	橋秀文	H26.6.8	鎌倉別館	自由参加	7人
ギャラリー・トーク/宮崎進展		学芸員による作品解説	榎山昌夫	H26.6.22	葉山館	自由参加	22人
ギャラリー・トーク/ベン・シャーンとジョルジュ・ルオー展		学芸員による作品解説	李美那(当館主任学芸員)	H26.7.19	鎌倉別館	自由参加	14人
親子でギャラリー・ツアー/いろ・うごき・かたち展		親子でおしゃべりしながら鑑賞し、学芸員が展示室を案内するプログラム	土居由美(当館学芸員)、松尾子水樹、鈴木智香子(当館学芸員)、川人未来	H26.7.31	葉山館	自由参加	26人
ギャラリー・トーク/田淵安一展		学芸員による作品解説	橋秀文	H26.8.2	鎌倉館	自由参加	19人
ギャラリー・トーク/ベン・シャーンとジョルジュ・ルオー展		学芸員による作品解説	李美那	H26.8.16	鎌倉別館	自由参加	35人
親子でギャラリー・ツアー/いろ・うごき・かたち展		親子でおしゃべりしながら鑑賞し、学芸員が展示室を案内するプログラム	土居由美、松尾子水樹、鈴木智香子	H26.8.19	葉山館	自由参加	11人
ギャラリー・トーク/田淵安一展		学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)	H26.9.6	鎌倉館	自由参加	22人
ギャラリー・トーク/いろ・うごき・かたち展		学芸員による作品解説	三本松倫代(当館主任学芸員)	H26.9.13	葉山館	自由参加	13人
ギャラリー・トーク/コレクションの対話展		学芸員による作品解説	橋秀文	H26.10.11	鎌倉館	自由参加	12人
ギャラリー・トーク/東欧アニメをめぐる旅展		学芸員による作品解説	榎山昌夫	H26.10.13	葉山館	自由参加	12人
ギャラリー・トーク/麻生三郎の装幀・挿画展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H26.10.25	鎌倉館	自由参加	14人	
ギャラリー・トーク/東欧アニメをめぐる旅展	学芸員による作品解説	榎山昌夫	H26.11.22	葉山館	自由参加	51人	

事業名		事業内容			事業実績		
		テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	募集人数	受講人数
ギャラリー・トーク	ギャラリー・トーク/麻生三郎の装幀・挿画展	学芸員による作品解説	長門佐季	H26.11.22	鎌倉館	自由参加	4人
	ギャラリー・トーク/コレクションの対話展	学芸員による作品解説	土居由美	H26.12.13	鎌倉館	自由参加	9人
	ギャラリー・トーク/東欧アニメをめぐる旅展	学芸員による作品解説	榎山昌夫	H26.12.21	葉山館	自由参加	8人
	ギャラリー・トーク/湘南の画家たち展	学芸員による作品解説	三本松倫代	H27.2.7	鎌倉館	自由参加	20人
	ギャラリー・トーク/幻想の系譜展	学芸員による作品解説	朝木由香(当館学芸員)、長島彩音(当館学芸員)	H27.2.8	鎌倉別館	自由参加	15人
	ギャラリー・トーク/金山康喜のバリ展	学芸員による作品解説	橋秀文	H27.2.28	葉山館	自由参加	23人
	ギャラリー・トーク/湘南の画家たち展	学芸員による作品解説	三本松倫代	H27.3.7	鎌倉館	自由参加	15人
	ギャラリー・トーク/幻想の系譜展	学芸員による作品解説	朝木由香	H27.3.8	鎌倉別館	自由参加	12人
	ギャラリー・トーク/金山康喜のバリ展	学芸員による作品解説	西澤晴美	H27.3.21	葉山館	自由参加	44人
県立機関活用講座	「東欧アニメをめぐる旅 ポーランド・チェコ・クロアチア」(全5回)	第1回「チェコ・アニメーションと音楽」	ジャン・ガスパール・パーレニー・チェク氏(パリ・チェコセンター副館長)、ヴァーツラフ・トロヤン氏(同名の作曲家・ピアニストであるヴァーツラフ・トロヤンの子息)	H26.10.18	葉山館	70人	19人
		第2回「立体(人形)アニメーションの考え方」	村田朋泰氏(アニメーション作家、女子美術大学准教授)	H26.11.1	葉山館	70人	15人
		第3回「東欧のコマ撮りアニメーションの魅力」	峰岸裕和氏(ストップモーション・アニメーター)	H26.11.15	葉山館	70人	23人
		第4回「かわいい・こわい ザグレブ派アニメーションの世界」	越村勲氏(東京造形大学教授)	H26.12.6	葉山館	70人	10人
		第5回「HU + ANIM(フ・アニメ)ーハンガリーで開花したアニメーション文化と現状」	板橋晴子氏(ハンガリー・アニメーション研究者、イラストレーター(なぼちかほるこ))	H26.12.20	葉山館	70人	11人
上映会	東欧アニメーション特別上映会(全3回)	第1回:『サティ・マニア』ズデンコ・ガシュパロヴィチ監督/1978年/14分/クロアチア、『興奮のラプストリー』ボリヴォイ・ドヴニコヴィチ監督/1989年/5分42秒/クロアチア、『対話の可能性』ヤン・シュヴァンクマイエル監督/1982年/12分/チェコ、『レベテ』ミハエラ・バヴラートヴァー監督/1995年/9分9秒/チェコ、『ホビー』ダニエル・シチェフ監督/1968年/7分20秒/ポーランド、『ピーターと狼』スズー・テンブルトン監督/2006年/32分/ポーランド		H26.10.12	葉山館	70人	67人
		第2回:『悪魔の発明』カレル・ゼマン監督/1958年/82分/チェコ/日本語字幕		H26.10.26	葉山館	70人	20人
		第3回:『チェコの四季』イジー・トゥルシカ監督/1947年/83分/チェコ/日本語字幕、『ベレロフォン』監督/脚本/美術:エドヴァルト・ストゥルリス/1959年/13分44秒/ポーランド		H26.11.23	葉山館	70人	45人
美術講座	第1回 先生のための特別鑑賞の時間「一原有徳展・新収蔵作品展 併陳:小泉淳作デッサン展」(入門編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	長島彩音	H26.5.10	鎌倉館・鎌倉別館	自由参加	13人
	第2回 先生のための特別鑑賞の時間「宮崎進展」(入門編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	土居由美、松尾子水樹、川人未来	H26.6.7	葉山館	自由参加	16人
	第3回 先生のための特別鑑賞の時間「田淵安一展、ベン・シャーンとジョルジュ・ルオー展」(入門編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	西澤晴美、長島彩音	H26.7.12	鎌倉館・鎌倉別館	自由参加	20人
	第4回 先生のための特別鑑賞の時間「いろ・うごき・かたち展」(レベルアップ編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	川人未来、松尾子水樹、鈴木智香子	H26.7.19	葉山館	自由参加	22人
	第5回 先生のための特別鑑賞の時間「東欧アニメをめぐる旅展」(入門編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	榎山昌夫、松尾子水樹、川人未来	H26.11.8	葉山館	自由参加	19人
	第6回 先生のための特別鑑賞の時間「コレクションの対話展」(入門編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	土居由美、長島彩音	H26.11.15	鎌倉館	自由参加	11人
	第7回 先生のための特別鑑賞の時間「麻生三郎の装幀・挿画展」(入門編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	長門佐季、長島彩音	H26.11.22	鎌倉別館	自由参加	9人
	第8回 先生のための特別鑑賞の時間「金山康喜のバリ展」(入門編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	橋秀文、川人未来、松尾子水樹	H26.1.31	葉山館	自由参加	10人
	第9回 先生のための特別鑑賞の時間「湘南の画家たち展・幻想の系譜展」(レベルアップ編)	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス	三本松倫代、朝木由香、鈴木智香子	H26.2.7	鎌倉館・鎌倉別館	自由参加	13人
	葉山芸術祭アートワーク	学芸員による作品解説	榎山昌夫	H26.5.7	葉山館	自由参加	6人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)「一原有徳展」	展覧会鑑賞及びワークショップ	長島彩音	H26.5.29	鎌倉館	受講者固定	15人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)「宮崎進展」	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹、川人未来	H26.6.12	葉山館	受講者固定	15人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)	ワークショップ	松尾子水樹、川人未来	H26.7.3	葉山館	受講者固定	16人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)「いろ・うごき・かたち展」	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹、川人未来	H26.9.4	葉山館	受講者固定	14人
	第45回 葉山特別見学会(山口逢春記念館、葉山しおさい公園共催事業)	学芸員による作品解説	松尾子水樹、川人未来	H26.9.12	葉山館	自由参加	27人
	第46回 葉山特別見学会(山口逢春記念館、葉山しおさい公園共催事業)	学芸員による作品解説	橋秀文	H27.2.27	葉山館	自由参加	37人

研修等受入プログラム(実習・研修・団体来館等)

プログラム	受入内容・件数等
博物館学芸員実習	3大学から7名
インターン研修	学芸部門：1名採用、0名に修了証を発行
高校生インターンシップ	9校／延べ23回15名
中学生職業体験	5校／延べ8回14名
教員研修	6校／延べ14回6名
出張授業	中学校：4校／延べ12回814名 小学校：3校／延べ4回247名
	貸出総回数：483回
	貸出先：29校と2団体
	貸出回数：延べ34回
	利用総人数：4305名
「Museum Box 宝箱」貸出	内訳概要：小学校：23校／延べ25回 中学校：2校／延べ2回 大学：4校／延べ6回 その他：2団体／延べ2回
	地域：横浜市20ヶ所、葉山町3ヶ所、東京都4ヶ所、小田原市2ヶ所、茅ヶ崎市、三浦市、横須賀市、北海道各1ヶ所
	幼稚園：2園／延べ2回96名
	小学校：8校／延べ10回573名
	中学校：28校／延べ32回957名
	高校：5校／延べ8回194名
	大学：7校／延べ11回355名
団体来館【※】	特別支援学校等：5校／延べ5回82名
	生涯学習センター等団体：14団体／延べ16回481名
	病院・福祉団体：3団体／延べ3回60名
	美術予備校等の団体：3団体／延べ3回54名
	他美術館からの団体：2団体／延べ2回38名
	旅行会社・観光等の団体：3団体／延べ3回301名

【※】

- ・団体受入については、観覧前に美術館ルールブックを送るなどして、美術館の紹介や、観覧マナーの説明などを行い、美術館に親しめるような工夫を行っている。
- ・上記データは事前申込による受入数である。事前申込のない団体は含まれない。
- ・団体来館受入時に、担当学芸員が行う展覧会紹介や、特別ワークショップの開催数は次の通り。学校教育機関等の団体来館：30校／延べ49回、一般の団体来館：16団体／延べ25回。

視察受入状況

年	月日	来館者	総数	来館場所
2014年	4月18日(金)	石原慎太郎衆議院議員・石原延啓氏(画家)ほか	4人	鎌倉館
	10月24日(金)	神奈川県議会 行財政改革・地方分権特別委員会ほか	10人	鎌倉館
	10月31日(土)	鳥取県議会議員	5人	鎌倉館
	11月18日(火)	鳥取県教育委員会	8人	葉山館・鎌倉館
	11月25日(火)	福岡県教育委員会	5人	葉山館
2015年	2月5日(日)	鳥取県商工会議所	15人	葉山館
	3月7日(土)	黒岩祐治神奈川県知事	2人	鎌倉館

美術図書室

当館司書 藤代知子

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録2015年3月末現在) 80,623冊
- ・2014年度新規図書・AV・図録登録数 6,792冊

2) 特別コレクション

- ・青木茂氏旧蔵資料の受入

3) 閲覧サービス

- ・年間入室者数 4,944名(開館日1日平均18名)
- ・年間複写枚数 1,467枚(開館日1日平均6枚)
- ・年間レファレンス受付件数 304件

・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会別で「いろ・うごき・かたち」が1日平均33名、「宮崎進展」が1日平均15名の利用があった。なお、展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は「いろ・うごき・かたち」が21%、「宮崎進展」が15%と高かった。

・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「宮崎進展」開催期間中が最も多く、105件であった。

当年度のレファレンスとして、同展に展示されていた「宮崎進の《13の言葉》」が載っている資料についての問い合わせが複数あった。そのほか、「兵馬俑に関する資料」「岩橋英遠の図録」「彫刻家のアトリエの写真が載っている資料」「森鷗外が書いた原田直次郎追悼記事が載っている雑誌」「篠田桃紅の図録」などの事例があった。

4) 展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。展覧会を見る前や後に、作家や作品の情報を得たり、更に知りたい内容を深めたりできると、来室者に好評を博している。

なお、展覧会関連資料の展示は鎌倉館・鎌倉別館での展覧会についても行っているが、スペースの関係上、葉山館での展覧会を主としているため、ここでは葉山館の展覧会のみを記す。

・立ちのぼる生命 宮崎進

宮崎進の著書『鳥のように シベリア 記憶の大地』(岩波書店、2007)、『旅芸人の手帖』(岩波書店、2009)や作品集『宮崎進の仕事』I～III(生活の友社、2001-2005)、『宮崎進作品集』(彌生画廊、1984)、展覧会図録『宮崎進展 よろこびの歌を唄いたい』(横浜美術館、2002)、『脇田和・野見山暁治・宮崎進 新作三人展』第1回～第5回(杏美術館、1984-1991)、『宮崎進展 シベリアからサンパウロまで』(酒田市美術館、2005)といった宮崎進についての資料と、宮崎進と同じくシベリア抑留画家だったオノサト・トシブ、香月泰男、佐藤忠良、横山操などの資料も展示した。

展覧会会場で展示された《13の言葉》の反響が大きく、会場で見た後に美術図書室へ来室し、所収されている資料をコピーしていく利用者が多かった。

・いろ・うごき・かたち アートをめぐる夏の冒険

教育普及の観点によるコレクション展であり、例年、夏休み期間になると来室する子どもたちがいるため、それぞれの出品作品の図版が掲載され、鑑賞の参考になりそうな資料をできるだけ集めた。

全点展示されたマティスの版画集『ジャズ』解説のため、エクベルト・バケ、カトリン・ヴィーテゲ著、長門佐季訳『アンリ・マティス ジャズ』(岩波書店、2009)をはじめ、損保ジャパン東郷青児美術財団編『佐野ぬい展 遠い様式・青の構図』(損保ジャパン東郷青児美術財団、2004)、彫刻の森美術館編『多田美波展 光を集める人』(彫刻の森美術館、2009)、東京都現代美術館/兵庫県立近代美術館編『菅井汲展』(菅井汲展実行委員

会、2000)といった図書や展覧会図録と、当館展覧会図録『村井正誠展』(1995)、『シルヴィア・ミニオ=パウルウエルロ・保田 遺作展「空の明るさ」』(2004)、『島山直哉HATAKEYAMA NAOYA: Draftsman's Pencil』(2007)、『伊庭靖子 まばゆさの在処』(2009)、『プライマリー・フィールドII』(2010)などを展示した。

・東欧アニメをめぐる旅 ポーランド・チェコ・クロアチア

井口壽乃編『アヴァンギャルド宣言 中東欧のモダニズム』(三元社、2005)、オタカル・ボジェヨフスキー・フォン・ラヴェノフ監修『東欧絵本の世界展』(エム・エ・エム、1999)、おかだえみこ『人形アニメーションの魅力』(河出書房新社、2003)、五味洋子『アニメーションの宝箱』(ふゅーじょんぷろだくと、2004)、『美術手帖』第862号 特集 動く絵画(アニメーション)(2005年3月号)、小野耕世『世界のアニメーション作家たち』(人文書院、2006)、イアン・コンドリー『アニメの魂 協働する創造の現場』(NTT出版、2014)といった東欧やアニメ全般が主題の資料をはじめ、出品作家が紹介されている資料、パヴラ・ペチンコヴァーほか『チェコ絵本とアニメーションの世界』(求龍堂、2006)、刈谷市美術館・I.D.F.編『チェコ・アニメの巨匠 イジー・トゥルンカ展』(I.D.F.2004)、神奈川県立近代美術館/イデップ編『シュヴァンクマイエル展 造形と映像の魔術師』(神奈川県立近代美術館、2005)などを展示した。

・金山康喜のパリ 1950年代の日本人画家たち

金山康喜と、1950年代パリに集った日本人画家たちの資料を展示した。金山康喜は『金山康喜』(金山康喜遺作展委員会、1960)、『金山康喜 菅井汲 田淵安一 野見山暁治展』(富山県立近代美術館、1984)、『金山康喜 青のリリズム』(富山県立近代美術館、2000)といった画集・展覧会図録をとりあげ、猪熊弦一郎は『猪熊弦一郎回顧展 生誕100周年記念』(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館ほか、2003)、今井俊満は『今井俊満の真実』(藝術出版社、2003)、岡本半三は『岡本半三画集』(かまくら春秋社、2003)、荻須高德は『生誕110年記念 荻須高德展: 憧れのパリ、煌めきのベネチア』(朝日新聞社、2011)、古茂田守介は『古茂田守介展 没後30年』(目黒区美術館、1990)、佐藤敬は『佐藤敬遺作展』(大分県立芸術会館、1979)、佐野繁次郎は『佐野繁次郎展』(東日本鉄道文化財団/常葉美術館、2005)、菅井汲は『菅井汲展』(菅井汲展実行委員会、2000)、関口俊吾は『関口俊吾回顧展 パリの詩情とロマン 色彩の巨匠』(神戸市立小磯記念美術館、1997)、田淵安一は『田淵安一 知られざる世界』(神奈川県立近代美術館、2014)、堂本尚郎は『堂本尚郎展』(京都国立近代美術館、2005)、野見山暁治は『野見山暁治展』(石橋美術館/ブリヂストン美術館、2011)、藤田嗣治は『藤田嗣治画集 1-3』(小学館、2014)など、各自の活躍をあらわす資料群を展示した。

また、1950年代風潮の一端を紹介する資料として、『1950年代 その暗黒と光芒 現代美術の動向I』(東京都美術館、1981)、『絵画の嵐 1950年代 アンフォルメル/具体美術/コブラ』(国立国際美術館、1985)、『青春は不定形 パリー日本 千九百五〇年代』(大原美術館、2004)をあわせて展示した。

美術館紹介・広報 掲載実績

1) 美術館紹介記事

- ・松永東久「保全求め署名活動 近代美術館鎌倉館 閉鎖方針に主婦ら」『毎日新聞』2014年5月21日、22面
 - ・高本雅通「[近美鎌倉は古都の象徴] 存続求め女性らが署名1万6千人」『神奈川新聞』2014年8月5日、22面
 - ・「[人間のための建築 建築資料にみる坂倉準三]展」『DOCOMOMO Japan News Letter』Summer 2014 (No.18)、p.7
 - ・宮田徹也「公立美術館とは何か 戦後美術の変容」『新かながわ』2014年9月7日、4面(連載。ほか2回)
 - ・「日本のBEST美術館 [建築部門] BEST3 神奈川県立近代美術館 鎌倉 設計:坂倉準三 鎌倉の自然と呼応する日本モダニズム建築の名作」『CASA BRUTUS』2014年11月号、2014年10月10日、p.56,84
 - ・ホンマタカシ(写真)「さよなら、神奈川県立近代美術館 鎌倉」『CASA BRUTUS』2014年11月号、2014年10月10日、pp.125-132
 - ・「よみうり寸評」『読売新聞』2014年10月18日夕刊、1面
 - ・「耕論 どうする歴史ある建築物 近代建築の寿命短すぎる 松隈洋さん 京都工芸繊維大学教授 共感の広がりを吟味して 土居丈朗さん 慶應義塾大学教授 長い目で残す価値考えて 菊川怜さん 女優(聞き手 高橋福子 古屋聡一 田嶋慶彦)」『朝日新聞』2014年11月21日、17面
 - ・神宮桃子・菅尾保「鎌近[補強なら存続は可能] 県が調査結果 工費は2億1000万円」『朝日新聞』2015年1月24日、29面
 - ・酒井忠康「編集者・山崎省三と土方定一(鎌倉館開館前年の山崎省三と土方定一の交流について一部記述あり)」『美術ペン』144号、2015年1月、p.4
 - ・河津啓介「知事 [耐震化工事が可能] 近代美術館・鎌倉館 保存に前向き」『毎日新聞』2015年1月28日、27面
- ほか計46件

2) 普及活動関連の紹介

- ・「1 Dayサマースクール in 鎌倉 鎌倉でアートの風を感じよう 参加者募集!」『フェーマス』第47巻5月号、2014年5月1日、p.11

3) 収蔵作品・作家紹介記事

- ・大西若人「美の履歴書 356 人々はなぜ急ぐのか 『みぞれ』佐藤哲三」『朝日新聞』2014年5月21日夕刊、3面
 - ・橋秀文「書評『小磯良平全作品集』を読む」『美術フォーラム21』第29号、2014年5月30日、pp.147-149
 - ・窪田直子「美の美 片岡球子 火の山のごとく ㊦ 教育も絵も人を見てこそ 異色の画風厚い情を宿す」『日本経済新聞』2014年6月29日、20-21面、「[連載]㊦ 自然の写生常に体当たり 躍動する色日本画に革新」2014年7月6日、20-21面
 - ・宇山卓栄「名画で読み解くさかのぼり世界史 第1回 二〇世紀・戦争の時代 巨匠が描き残した世界大戦の傷跡[松本竣介《立てる像》掲載]」『一枚の繪』No.517、2014年8月21日、p.43
 - ・向坂卓也「神奈川県立近代美術館所蔵 歓喜天曼荼羅について」『金澤文庫研究』第333号、2014年10月、pp.25-37
 - ・中村麗子「必見!!今年の展覧会BEST200 生誕110年 片岡球子展 片岡球子の強烈な画風の秘密に迫る「《幻想》[図版]」『美術の窓』No.397、2015年2月20日、p.75
 - ・村松和明「村山槐多《赤ダリア》—新発見の油彩画に見いだされた新たな表現 [村山槐多《風船をつく女》掲載]」『岡崎市美術博物館 研究紀要』第6号、2015年3月、pp.1-37
 - ・白井洋子「戦場の記憶、兵士の眼差し 浜田知明とW・D・エアハートの作品から」『日本女子大学 紀要 文学部』第64号、2015年3月、pp.33-53
 - ・土方明司「詩魂の画家十選 3 中川一政『静物(びん・白布)』」『日本経済新聞』2015年2月19日、40面
- ほか計25件

4) ホームページ(2014年4月~2015年3月)

総ページ閲覧数 1,181,763
訪問者数 468,112

刊行物

(1) わくわくゆったりセット引換券付チラシ

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 デザイン：fancomi
 21×29.7cm、多色
 無料配布
 2014年7月発行



(2) わくわくゆったりクーポン券

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 デザイン：fancomi
 11.2×18.2cm、多色
 無料配布
 2014年7月発行



(3) いろいろになるボール

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 企画・デザイン：青木康子(PANGAEA)
 設計・制作：株式会社野毛印刷社
 21×29.7cm、完成品：直径15cmの球、多色
 無料配布
 2014年7月発行



(4) 2015年度年間スケジュール

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：求龍堂
 22.5×10cm、三つ折1回・二つ折1回1枚、多色11図
 無料配布
 2015年3月発行



(5) 図書館案内パンフレット

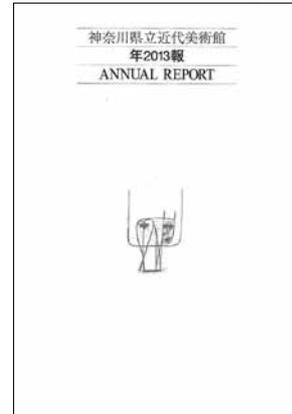
編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：リーヴル
 20.9×10cm、三つ折1枚、多色4図
 無料配布
 2015年3月発行



(6) 2013年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：求龍堂
 29.7×21cm、58ページ、多色1図、単色67図
 無料配布
 2015年3月20日発行

あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品
 蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



(7) 美術館たより『たいせつな風景』 20号

特集：鎌倉別館の30年
 編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：朝日オフセット印刷株式会社
 デザイン：飯村哲也デザイン事務所、追水ヒサ
 20.9×14.5cm、表紙含め36ページ、多色22図、単色2図
 無料配布
 2015年3月31日発行

おいちが30年になりました。～鎌倉別館開館30周年にあたって～(水沢勉)／大高正人と近美(野沢正光)／別館の彫刻—とりあえず小さな庭に(酒井忠康)／シャガールと『寓話』(荻野アンナ)／情熱を耕す(ホセイン・ゴルバ)／鎌倉別館展覧会一覧(1984～2014年度)／鶴岡二十五坊と鎌倉別館の裏八幡西谷遺跡(初山昌夫)



2014年度の教育普及活動

当館普及課兼企画課課長 橋秀文

2014年度も前年までと同様に、子どもから年配の方々まで幅広い年齢層の人々に美術鑑賞を身近なものとし、美術がもたらす精神的な豊かさを日常の生活に結びつけることを目標に、(1)啓発普及事業、(2)地域・学校との連携事業、(3)美術館情報誌等の発行による情報発信事業、を三つの柱として教育普及活動を展開した。

(1)の啓発普及事業では、展覧会ごとの学芸員による「ギャラリー・トーク」が活発に行われており、2014年度の回数は27回を数えている。通常、学芸員による「ギャラリー・トーク」は、展覧会を担当した学芸員が行っているが、この年の普及課の学芸員が総出で担当した展覧会「いろ・うごき・かたち アートをめぐる夏の冒険」展では、普及課の活動の特色が濃く出た「親子でギャラリーツアー」を2回開催した。通常のギャラリー・トークは、作品解説を行うものであるが、この時は、普及課の学芸員が4人参加し、会場内で親子におしゃべりしながら鑑賞していただき、さらに、4人の学芸員が各展示室を担当し、それぞれの展示を参加した親子に解説するというもの(図2)で、おおむね好評であった。また、作家自身が会場で語る「アーティスト・トーク」を開催し、美術作家の河口龍夫氏を招いて出品作品について語っていただいた(図3)。

「立ちのぼる生命 宮崎進展」では初日に美術史家の辻惟雄氏に記念講演を賜り、さらに5月17日のレセプションで「館長トーク」を行った。

また、各展覧会の関連企画として、講演会やワークショップを16回開催した。たとえば、葉山館で開催された「宮崎進展」に関連して、美術家の仲田智氏により、ドンゴロスなどを使ってイメージの鳥を制作するプログラムが行われ募集人数を上回る人気であった(図1)。続く「いろ・うごき・かたち展」では、美術家の常田泰由氏によって参加者が好きな作品から色や形を取り入れてコラージュ作品を作るプログラムが行われた。美術と音楽やダンスとの組み合わせによるプログラムも活発に行われ、同展では〈歌手〉の高瀬“makoring”麻里子氏を招き、うたで探るワークショップと称して、作品を見ながら出てきた言葉を、メロディにのせて歌を作るプログラムを企画。また、国内外で活躍するダンサーで振付家の島地保武氏がダンスのワークショップと展示室内でパフォーマンスを行った。さらに「金山康喜のパリ展」では、ダンスユニットほうほう堂(新舗美佳氏&福留麻里氏)による美術とダンスのワークショップを行い、絵の中の空間を、現実のモチーフやダンサーの身体で再現し相互の関連性を考えた。また、鎌倉別館で開催された「麻生三郎の装幀・挿画展」の関連企画として、造本家の毛利彩乃氏を招き、フランス装仕立ての文庫本カバーや中綴じのノートを制作。参加者それぞれが個性的な装幀作りに励んだ(図4)。

これらの企画を通じて、教育普及という意義や、作品の背景を探ることができ、展覧会の内容をより広く伝えながら、展覧会活動の重要な役割を担っている。

例年行われている県立機関活用講座では、「東欧アニメをめぐる旅 ポーランド・チェコ・クロアチア展」に合わせて、国内外のアニメ作家や、研究者による多様な講演会を行った。

また、2015年度で64年の歴史に幕を閉じる鎌倉館に注目を向けた企画として、建築史家の松隈洋氏を講師にむかえ、鎌倉館と鎌倉別館の建物見学ツアーを行いその魅力や美術館建築のあり方について考え直す機会を得た。

(2)の地域・学校との連携事業では、地域や学校による美術館の活用として、団体来館や教員研修、中・高校生による職業体験としての美術館の利用など、さまざまな形で事業を展開している。

毎夏好評を博している「わくわくゆったりセット」内のアート・ツールとして「いろいろなるボール」を制作し、夏休みの時期に18歳以下の来館者に配布した。また、『Museum Box宝箱』は、小・中学校のみならず、広く子どものための学習支援を目的とする団体などに、人と美術館を結ぶコミュニ

ケーション・ツールとして大いに活用し続けられている。この『宝箱』を使った館学芸員による出張授業なども活発に行われており、美術館を活用した教員対象の研修の際にも鑑賞学習の方法として、これらのアート・ツールの活用を促している。そうした教員研修として、美術館で開催されている「先生のための特別鑑賞の時間」は、教員や学校関係者の鑑賞学習での美術館利用を支援するプログラムであるが、各展覧会と連動する形で計9回行い、参加者の所属校との新たな連携につながっている。さらに葉山館における葉山芸術祭との連携や、鎌倉館とその近隣3館(鎌倉市竊木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉国宝館)で行っているスタンプラリーなど、地域と連携した事業も例年通り継続している。また、近隣地域の学校との連携も継続しており、美術館の学芸員が講師となる鎌倉市立第一中学校との授業「ミュージアム・トリップ」も行われた。さらに当館主催のイベントや学校連携授業以外の、2014年度の出張授業及び教員研修の受け入れ数は、13校で延べ1067名である。そのほかに対応した学校教育機関の団体来館数は55回で延べ2257名である。博物館学芸員実習生、インターン、高校生インターン、中学生職業体験は延べ24名を受け入れている。それぞれに当美術館への期待や要望の高さを示しているといえよう。

(3)の美術館情報誌の発行による情報発信事業では、A5判の小冊子『たいせつな風景』20号を2015年3月に発行した。「鎌倉別館の30年」の特集し、1984年に開館した鎌倉別館について、同館を設計した大高正人を回顧する建築家の野沢正光氏や当館元館長で現世田谷美術館長の酒井忠康氏の文章などを掲載した。



1. 「立ちのぼる生命 宮崎進展」関連企画「ドンゴロス鳥をつくろう」
2014年5月24日 葉山館
(講師：仲田智氏)



2. 「いろ・うごき・かたち展」関連企画「親子でギャラリーツアー」
2014年7月31日、8月19日 葉山館



3. 「いろ・うごき・かたち展」関連企画「アーティスト・トーク」
2014年9月14日 葉山館
(講師：河口龍夫氏)



4. 「麻生三郎の装幀・挿画展」関連企画「愛読書からつくるフランス装仕立てのブックカバーとノート」
2014年11月23日 鎌倉館
(講師：毛利彩乃氏)

作品蒐集管理活動

2014年度購入・寄贈状況 2015(平成27)年3月31日現在

(作品)		(資料)	
購入件数	4件	新規寄贈件数	63件
新規寄贈件数	1,079件		
取得総件数	1,083件		
収蔵総件数	14,090件		

2014年度寄託状況 2015(平成27)年3月31日現在

(作品)		(資料)	
解除件数	1件	新規寄託件数	118件
新規寄託件数	1件		
合計	69件		

2014年度 新収蔵作品一覧

凡例

- ・寸法について、単位はcmである。版画については、イメージ寸法と支持体寸法を「/」で区切って記載した。
- ・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。文字が判別できない場合は「□」で補った。
- ・作家による連番は()、編集上による連番は[]に括弧で記載した。
- ・詩画集、書籍うち洋書のタイトルは、原則として、欧文をイタリックで併記した。

購入

作家名	作品名	制作	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
彫刻・インスタレーション								
セカル、ズビニョク	仮面をつけた仮面	1990	ブロンズ	23.1	16.7	14.7	後：Z □ 2/6	
写真・印刷物								
安齋重男	宇佐見英治の手の上のアルベルト・ジャコメッティ	1981	ゼラチン・シルバー・プリント、紙	31.2 / 35.6	21.6 / 27.8		左下：Alberto Giacometti's work (Eiji Usami's hand) march 10.'81. 右下：Anzai. 4/15.	
神奈川県立近代美術館賞								
西崎晶子	室内 I	2014	油絵具、カンヴァス	162.0	130.3			第54回神奈川県女流美術家協会展
五十嵐恵子	境界にひそむ	2014	麻紙、胡粉、鉛筆	112.0	162.0		右下：K.Igarashi	第50回神奈川県美術展

寄贈

〈安達留美氏寄贈〉

素描・水彩画など

須田尅太	無限の会話	1957	水彩絵具、パステル、紙	38.4	26.0		左下：尅	
須田尅太	素材と無相の会話	1958	水彩絵具、パステル、鉛筆、紙	41.0	31.4		右下：尅	
須田尅太	百済観音	1965	水彩絵具、パステル、紙	54.2	38.6		右下：尅	
須田尅太	石仏	1967	水彩絵具、パステル、墨、色紙	33.4	24.2		右下：尅	
須田尅太	祝猿	1967	水彩絵具、色紙	27.3	24.3		左下：尅	
須田尅太	牡丹	不詳	水彩絵具、パステル、紙	50.6	31.2			
須田尅太	侍	不詳	水彩絵具、紙	44.0	31.6			
須田尅太	弥勒菩薩	不詳	岩絵具、パステル、墨、紙	42.6	33.1		左下：尅	
須田尅太	花	不詳	墨、パステル、紙	42.0	29.7		左下：尅印[尅太]	
須田尅太	ガクアゲサイ	不詳	水彩絵具、パステル、鉛筆、色紙	33.3	24.2		左下：尅	

〈麻生美智子氏寄贈〉

装幀・挿画資料

著：高橋新吉 装幀・挿画：麻生三郎	『猩猩』(高橋新吉短篇集)	1961	書籍	19.0	19.0		刊：帖面舎 限定1000部	
著：福原麟太郎 挿画：麻生三郎	『明日に新しく』	1962	書籍	15.0	10.2		刊：帖面舎	
制作：蓬萊屋印刷所 画：麻生三郎	「カレンダー」1962年、67-68年、70-78年、81-82年、84-87年	1962	印刷物	29.0-59.2	22.6-34.8			計18点

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
〈池田緑氏寄贈〉								
版画								
木村利三郎	City 165 UPTOWN. NYC	1971	シルクスクリーン、紙	40.4 / 43.2	32.8 / 35.2		左下：a.p. city 165 中央下：UPTOWN. NYC 右下：Risa Kimura '71	
木村利三郎	City 167 MANHATTAN	1971	シルクスクリーン、紙	32.7 / 35.2	40.7 / 43.2		左下：a.p. city 167 中央下：MANHATTAN 右下：Risa Kimura '71	
木村利三郎	City 207	1975	シルクスクリーン、紙	38.1 / 43.2	49.9 / 56.0		左下：a.p. city 207 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	1975 NEW YORK	1975	シルクスクリーン、紙	50.0 / 57.3	38.3 / 45.9		左下：10/50 中央下：1975 NEW YORK 右下：Risaburo Kimura 裏面左下：追伸 1975年 自由の女神の改修	
木村利三郎	City 399	1981	シルクスクリーン、紙	44.8 / 57.0	38.7 / 48.7		左下：40/60 中央下：city 399 右下：Risaburo Kimura 1981	
木村利三郎	2001.9.10	2001	エッチング、 水彩絵具、紙	22.1 / 47.0	18.4 / 34.4		下部：A.P. 2001.9.10 Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 171 MANHATTAN to NJ	不詳	シルクスクリーン、紙	32.5 / 35.2	40.5 / 43.2		左下：a.p. city 171 中央下：MANHATTAN to NJ. 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 206	不詳	シルクスクリーン、紙	41.7 / 45.8	52.1 / 56.1		左下：a.p. city 206 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 326 B	不詳	シルクスクリーン、紙	34.1 / 41.5	23.2 / 31.7		左下：24/40 中央下：city 326B 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 385 CHELSEA	不詳	シルクスクリーン、紙	37.4 / 48.7	48.1 / 57.4		左下：A.P. 中央下：city 385 CHELSEA 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 386 GROUND 0	不詳	シルクスクリーン、紙	37.3 / 48.7	48.2 / 57.3		左下：57/70 city 386 中央下：GROUND 0 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 389 WASHINGTON SQ	不詳	シルクスクリーン、紙	38.6 / 48.7	40.5 / 49.5		左下：A.P. 中央下：city 389 WASHINGTON SQ 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 391 SAKS 5th AVE.	不詳	シルクスクリーン、紙	47.5 / 57.4	43.4 / 50.7		左下：3/15 中央下：city 391 SAKS 5th AVE 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 420	不詳	シルクスクリーン、紙	50.2 / 57.0	38.7 / 46.0		左下：24/70 中央下：city 420 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 421	不詳	シルクスクリーン、紙	50.1 / 57.3	38.3 / 46.0		左下：18/70 city 421 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 422	不詳	シルクスクリーン、紙	50.3 / 57.5	38.6 / 46.0		左下：6/70 中央下：city 422 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 435	不詳	シルクスクリーン、紙	40.5 / 51.0	46.0 / 59.0		左下：19/70 city 435 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 437	不詳	シルクスクリーン、紙	43.0 / 51.0	52.0 / 59.2		左下：5/50 中央下：city 437 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 439	不詳	シルクスクリーン、紙	37.8 / 49.3	50.0 / 58.4		左下：53/70 中央下：city 439 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 440	不詳	シルクスクリーン、紙	39.5 / 49.4	51.0 / 58.5		左下：51/70 city 440 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 441 NIGHT AND DAY	不詳	シルクスクリーン、紙	35.7 / 45.8	51.1 / 58.9		左下：45/45 中央下：city 441 NIGHT AND DAY 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 443	不詳	シルクスクリーン、紙	38.0 / 49.1	48.7 / 58.8		左下：10/50 city 443 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 463 YOKOHAMA	不詳	シルクスクリーン、紙	47.3 / 58.4	36.8 / 44.7		左下：55/80 city 463 YOKOHAMA 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 467 MANHATTAN	不詳	シルクスクリーン、紙	53.0 / 61.0	45.0 / 50.2		左下：32/65 city 467 中央下：MANHATTAN 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 469 City Center	不詳	シルクスクリーン、紙	39.5 / 48.0	52.0 / 59.7		左下：28/50 中央下：city 469 City Center 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	City 472	不詳	シルクスクリーン、紙	49.8 / 57.4	38.6 / 45.9		左下：10/50 中央下：city 472	
木村利三郎	City 491 A YOKOHAMA	不詳	シルクスクリーン、紙	42.5 / 50.0	52.3 / 57.3		左下：A.P. city 491A YOKOHAMA 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	THE JEWISH CHURCH -NEW YORK-	不詳	エッチング、 水彩絵具、紙	22.4 / 33.3	18.3 / 26.4		左下：13/20 THE JEWISH CHURCH -NEW YORK- 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	MAIL STAND	不詳	シルクスクリーン、 コラーージュ、紙	40.8 / 52.8	42.5 / 51.0		左下：33/50 MAIL STAND 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	CENTRAL PARK	不詳	シルクスクリーン、紙	53.0 / 61.2	42.6 / 51.1		左下：49/70 CENTRAL PARK 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	I♡NEW YORK	不詳	シルクスクリーン、紙	42.3 / 50.2	48.3 / 57.5		左下：a.p. 中央下：I♡NEW YORK 右下：Risaburo Kimura	
木村利三郎	未来がある	不詳	シルクスクリーン、紙	37.5 / 48.7	42.8 / 50.5		左下：city a.p. 中央下：未来がある 右下：Risaburo Kimura	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
木村利三郎	A INFORMATION (C)	不詳	シルクスクリーン、紙	41.3 / 49.8	50.6 / 58.1		右下: 3/50 A INFORMATION (C) Risaburo Kimura	
木村利三郎	SOHO II	不詳	シルクスクリーン、紙	38.5 / 48.8	40.5 / 49.7		左下: A.P. SOHO II 右下: Risaburo Kimura	
木村利三郎	SOHO NEW YORK	不詳	シルクスクリーン、紙	38.4 / 48.8	40.4 / 49.2		左下: A.P. 中央下: SOHO NEW YORK 右下: Risaburo Kimura	
木村利三郎	B' WAY N.Y.C	不詳	シルクスクリーン、紙	35.8 / 37.7	51.0 / 55.3		左下: A.P. B' WAY N.Y.C. 右下: Risaburo Kimura	
木村利三郎	LOOK OUT of THE WINDOW	不詳	シルクスクリーン、紙	40.5 / 51.0	55.7 / 60.0		左下: A.P. 中央下: LOOK OUT of THE WINDOW 右下: Risaburo Kimura	
木村利三郎	42th ST NEW YORK (MANHATTAN)	不詳	シルクスクリーン、紙	39.0 / 43.3	32.0 / 35.6		左下: A.P. 中央下: 42th ST NEW YORK (MANHATTAN) 右下: Risaburo Kimura	
木村利三郎	INFORMATION	不詳	シルクスクリーン、紙	22.0 / 26.5	48.6 / 57.3		左下: 45/50 INFORMATION 右下: Risaburo Kimura	
木村利三郎	SUN RISE	不詳	シルクスクリーン、紙	21.8 / 30.9	23.9 / 33.1		左下: A.P. SUNRISE II 右下: Risaburo Kimura	
木村利三郎	WHITNEY MUSEUM OF AMERICAN ART	不詳	シルクスクリーン、紙	30.0 / 47.3	21.1 / 36.1		下部: A.P. WHITNEY MUSEUM OF AMERICAN ART Risaburo Kimura	
木村利三郎	W.T.C. 9.11	不詳	シルクスクリーン、紙	47.0	60.8 / 61.0		左下: 5/50 W.T.C. 9.11 右下: Risaburo Kimura	

〈逸見勝亮氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

砂澤ビッキ	無題	1983	アクリル絵具、紙	37.0	50.0		右下: BIKKY 83	
砂澤ビッキ	無題	不詳	アクリル絵具、紙	65.0	50.3			

〈加納光於氏寄贈〉

素描・水彩画など

加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (1)	1996	インク、紙	63.3	91.5		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (2)	1996	インク、紙	63.3	91.5		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (3)	1996	インク、紙	63.3	91.5		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (4)	1996	インク、紙	82.0	57.3		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (5)	1996	インク、紙	86.7	63.3		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (6)	1996	インク、紙	92.0	63.3		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (7)	1996	インク、紙	93.8	63.3		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (8)	1996	インク、紙	92.0	63.1		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	サークルー波打つ眉をしずめよ (9)	1996	インク、紙	91.8	63.3		右下: '96 左下: M. Kano	
加納光於	水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れ(エスキース)	1997	油彩、鉛筆、紙	9.8 / 18.5(台紙)	16.5 / 23.0(台紙)		左下: M.K'97	
加納光於	《水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れ》のための素描	1997	油彩、鉛筆、紙	26.5 / 38.0(台紙)	37.2 / 50.8(台紙)		右下: M. K. 左下: '97	

版画

加納光於	How to Flyの偏角に沿って No.XY	1974	併用技法、紙	30.3	23.8		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste	
加納光於	色彩石版画集《稲妻捕り》(PF-No.1-12)	1977	カラー・リトグラフ、紙	59.5-63.0	46.0-50.5		各右下: M. Kano 各左下: Artist Proof I	12点組 刊: 南画廊 限定30部 文: 瀧口修造 「稲妻と徘徊抄—加納光於に」、大岡信「彎曲と感應—加納光於に」
加納光於	〈波動説〉 prologue	1985	カラー・インタリオ、紙	33.0	50.2		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste	
加納光於	〈波動説〉—intaglioをめぐる (No.1)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	49.4 / 66.3	30.0 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 25/30	
加納光於	〈波動説〉—intaglioをめぐる (No.2)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	41.8 / 66.0	34.8 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 25/30	
加納光於	〈波動説〉—intaglioをめぐる (No.3)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	45.1 / 65.8	42.3 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 25/30	
加納光於	〈波動説〉—intaglioをめぐる (No.4)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	45.0 / 66.0	42.3 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 25/30	
加納光於	〈波動説〉—intaglioをめぐる (No.5)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	35.0 / 58.8	30.7 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 25/30	
加納光於	〈波動説〉—intaglioをめぐる (No.6)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	43.2 / 66.0	42.2 / 50.3		右下: M. Kano 左下: 25/30	
加納光於	〈波動説〉—intaglioをめぐる (No.7)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	44.3 / 65.7	28.8 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 25/30	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.8)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	49.8 / 65.7	29.8 / 50.5		右下: M. Kano 左下: 25/30	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.9)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	34.7 / 66.0	30.7 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 10/30	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.10)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	42.4 / 56.8	56.5 / 76.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.10	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.11)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	44.6 / 66.0	29.2 / 50.0		右下: M. Kano 左下: 5/26	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.12)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	42.0 / 57.0	56.8 / 66.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.12	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.13)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	56.8 / 76.0	42.1 / 57.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.13	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.14)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	44.5 / 57.0	61.8 / 76.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.14	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.15)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	54.2 / 76.0	44.2 / 56.7		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.15	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.16)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	60.0 / 76.0	42.0 / 56.7		右下: M. Kano 左下: ap. No.16	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.17)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	59.7 / 76.0	41.7 / 56.5		右下: M. Kano 左下: ap. No.17	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.18)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	44.5 / 57.0	61.7 / 76.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.18	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.19)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	44.7 / 57.0	58.5 / 76.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.19	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.20)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	56.7 / 76.3	41.8 / 56.8		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.20-F	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.21)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	59.8 / 76.0	42.3 / 57.3		右下: M. Kano 左下: ap. No.21	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.22)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	42.3 / 57.1	61.8 / 76.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.22	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.23)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	40.5 / 57.3	62.0 / 76.2		右下: M. Kano 左下: ap. No.23	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.24)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	44.8 / 57.0	61.8 / 76.2		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.24	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.25)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	29.8 / 50.5	49.7 / 66.2		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.25	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.26)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	56.8 / 76.3	42.1 / 57.0		右下: M. Kano 左下: ap. No.26	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.27)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	42.1 / 56.5	62.0 / 76.1		右下: M. Kano 左下: ap. No.27	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.28)	1985	カラー・インタリオ、紙	69.2 / 91.0	50.0 / 63.0		右下: M. Kano 左下: 24/30	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.29)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	61.7 / 76.2	44.3 / 56.8		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.29	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.30)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	62.0 / 76.3	24.7 / 57.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.31)	1984-85	カラー・インタリオ、紙	61.8 / 76.3	30.7 / 56.5		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.31	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.32)	1985	カラー・インタリオ、紙	69.3 / 91.0	49.7 / 63.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste. No.32	
加納光於	〈波動説〉- intaglioをめぐって (No.33)	1985	カラー・インタリオ、紙	69.3 / 91.5	49.7 / 63.0		右下: M. Kano 左下: 14/30	
加納光於	〈波動説〉- addendum I	1986	カラー・インタリオ、紙	50.0 / 63.0	69.3 / 91.0		右下: M. Kano 左下: ép.d'artiste	
加納光於	風のールカ・バチオウリに (I)-(III)	1987	カラー・インタリオ、紙	31.5-48.7 / 50.0-65.8	31.8-49.5 / 50.0-65.8		各右下: M. Kano 各左下: 20/23	3点組
加納光於	汽水よ、ゆるやかに そして速く (I)-(V)	1990	カラー・インタリオ、紙	59.8-75.3 / 76.0-91.0	39.8-50.5 / 57.0-63.0		(I,II)各右下: M. Kano (III-V)各左下: 27/30 各右下: M. Kano 各左下: 28/30	5点組
加納光於	開け、遮るものよ (I)-(V)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	各60.7 / 82.5	各50.4 / 63.0		各右下: M. Kano 各左下: ép.d'artiste	5点組
加納光於	目覚めよ白兔 (I)-(V)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	55.7-60.0 / 各63.1	55.5-55.8 / 各91.0		各右下: M. Kano 各左下: ép.d'artiste	5点組
加納光於	散種あるいは〈月研ぎ〉 (I)-(VI)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	各49.0 / 80.8	各49.0 / 63.0		各右下: M. Kano 各左下: 15/30	6点組
加納光於	暁によばれて (I) (II)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	60.5 ; 61.0 / 各82.0	50.5;45.6 / 各63.0		各右下: M. Kano 各左下: ép.d'artiste	2点組
加納光於	〈しし座〉- 偶像と変容 (I)-(V)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	50.4-50.5 / 各75.8	39.3-39.6 / 各57.0		各右下: M. Kano 各左下: 25/30	5点組
加納光於	ポートフォリオ《青ライオンあるいは〈月・指〉》 (I)-(VII)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	各39.5 / 71.0	各39.3 / 56.5		各右下: M. Kano 各左下: 25/30	7点組 刊: KANO&ARTIUM 限定30部
加納光於	〈引潮〉- ユークリッドへ (I)-(IX)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	16.5-41.6 / 各66.0	11.3-29.8 / 各50.0		各右下: M. Kano 各左下: 12/30	9点組
加納光於	遠い手- 時空を隔てて (II) (II)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	96.3 ; 95.4 / 各106.0	49.7;48.7 / 各75.0		各右下: M. Kano 各左下: ép.d'artiste	2点組
加納光於	寄り添うもの…フラグメント (I)-(VI)	1991-92	カラー・インタリオ、紙	18.0-25.2 / 各45.0	16.8-23.7 / 各33.0		(IV)各右下: M. Kano (VI)各左下: 25/30 右下: M. Kano 左下: 20/30	6点組

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
加納光於	Maple, maple [1]-[9]	1995	カラー・インタリオ、紙	各34.2 / 50.2	各50.3 / 65.5		各右下: M. Kano 各左下: 15/23	9種9点
〈河野恒人氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
河野通勢	蒙古襲来之図	1926	油絵具、カンヴァス	109.8	191.8			
河野通勢	ABC教育	1936	油絵具、カンヴァス	115.8	89.5			
〈気谷陽子氏寄贈〉								
版画								
歌川国芳	助六郭花見時	1850	木版、紙	各37.7	各25.4			大判錦絵三枚続
三代 歌川豊国	三人吉三廓初賀	1860	木版、紙	各35.2	各35.2			大判錦絵三枚続
—	版画集『ジュール・ド・ゴンクールの版画』 <i>Eaux-Fortes de Jules de Goncourt</i>	1876	エッチング、紙	14.4-35.5 / 各44.5	10.7-23.7 / 各30.7			刊: Librairie de l'art, Charles Delagrave, Paris 限定200部(当該作品: 31番) 文: フィリップ・ビュルティ「ジュール・ド・ゴンクール」(挿図11点)、リスト 銅版画: フランソワ・レオナルド(マルシル嬢のスケート)(20点組)
[図案: マリウス=ミッシェル, アンリ]	『マリウス=ミッシェル製本・装幀図案集』 <i>Marius Michel Dessins</i>	[図案]: 1910 -20年代頃、 [製本]: 不詳	革(表紙)、紙、鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、インク、ペンなど	書籍: 38.8 図案頁: 17.7 -32.7	書籍: 30.0 図案頁: 11.7 -43.9			手製本 20図
メリヨン, シャルル	小さな給水塔	1854	エッチング、紙	10.7 / 48.9	7.8 / 32.3		画面内: MDCCC LIV 左下: Méryon	
詩: ラベ, ルイーズ 版画: ジャポール	詩画集『ルイーズ・ラベのソネット』 <i>Sonnets de Louise Labé</i>	1947	アクアティント、紙	15.1-24.0 / 各47.4	14.9-30.0 / 各36.7		各左下: Chabor 各右下: Paris1947	アクアティント10点 限定53部(当該作品27番)
ロタ, マルティン	【『最期の審判』 ミケランジェロに基づく】	1569	エンブレイヴィング、紙	31.2	23.3		画面内左下: Martinus Rota Sebenicensis F 1569	
ゴルティエ, レオナルド	【『最期の審判』 ミケランジェロに基づく】	1595頃	エッチング、エンブレイヴィング、紙	31.1	23.2		画面下: Laronardus gaultier fecit	
書籍資料								
ギルピン, ウィリアム	『版画について』 <i>An Essay on Prints</i>	1792	書籍	22.4	14.7			刊: R. Blamire, London 第4版
ギルピン, ウィリアム	『絵画的景観について、絵画的景観の旅、および風景画についての3評論』 <i>Three Essays: on Picturesque Beauty; on Picturesque Travel; and on Sketching Landscape; with a Poem, on Landscape Painting.</i>	1808	書籍	23.1	14.5			3冊 Printed for T. Cadell and W. Davies 第3版
ユーゴー, ヴィクトル	『ヴィクトル・ユーゴー全集(8)-(10): 「ノートル=ダム・ド・パリ」I-III』 <i>Oeuvres de Victor Hugo. 8-10 Notre-dame de Paris. I-III</i>	1832	書籍	各21.2	各13.7			刊: Eugène Renduel Paris 第8版
デルヴォー, アルフレッド	『パリジェンヌの24時間』 <i>Les Heures Parisiennes</i>	1882	書籍	20.0	15.3			刊: C. Marpon et E. Flammarion 銅版画25点: エミール・ベナシ
文: アンデルセン, ハンス・クリスチャン 装幀・版画: ルノワ, アレクサンドル	『史譚と冒険譚』 <i>Histoires et Aventures</i>	1909	書籍	29.0	19.8			刊: E. FEQUET 限定146部(当該作品: 76番) エッチング52点 序文: ウージェーヌ・ロドリグ
—	『イエズス会の肖像』 <i>Retrato Dos Jesuitas</i>	1761	書籍	20.4	14.7			刊: Miguel Rodrigues, Lisboa
〈久保歩氏寄贈〉								
日本画								
久保歩	ファウンデーション	2011	綿布彩色、パネル	227.0	475.0			
〈栗田政裕氏寄贈〉								
版画								
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第42号	2014	印刷物、木口木版、紙	22.0(表紙)	18.0(表紙)			刊: ボックスウッドクリエーション、限定99部(当該作品: 36番) 木口木版2点: (バゴダ(塔)のある街)、《ヒマールの見える村》
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第43号	2014	印刷物、木口木版、紙	21.9(表紙)	18.0(表紙)			刊: ボックスウッドクリエーション、限定99部(当該作品: 36番) 木口木版2点: 《天空に立つ》、《画像》
〈小林眞砂子氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
砂澤ビッキ	王と王妃	1988	木(胡桃、桂)	110.5; 69.5	24.0; 24.0	23.0; 24.5	底面(王): 1988.2 BIKKY.S	2点組

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
砂澤ビッキ	木面	1988	木(胡桃、桂)	76.0	17.5	9.0		

〈坂倉富代氏寄贈〉

油彩・アクリル画など

坂倉新平	無題	1963-64	油絵具、カンヴァス	131.4	162.7			
坂倉新平	無題	1970	油絵具、カンヴァス	100.0	81.5			
坂倉新平	バトモス	1983以降	油絵具、カンヴァス	49.5	72.0			
坂倉新平	木と内なる光ー朝	1987	油絵具、カンヴァス	162.0	130.0			
坂倉新平	内なる光ーエジプトの日々(1)	1990	油絵具、カンヴァス	146.5	114.7			
坂倉新平	内なる光ーエジプトの日々(2)	1990	油絵具、カンヴァス	146.3	114.3			
坂倉新平	内なる光ーブラウン(1)	1992	油絵具、カンヴァス	116.9	91.3			
坂倉新平	内なる光ーブラウン(2)	1992	油絵具、カンヴァス	117.0	91.5			
坂倉新平	内なる光ーエネルギー・プラン	1992	油絵具、カンヴァス	146.1	114.0			
坂倉新平	内なる光ートルコブルー(1)	1992	油絵具、カンヴァス	146.1	113.9			
坂倉新平	内なる光ー金色の僧院	1992	油絵具、カンヴァス	162.2	130.5			
坂倉新平	黒の中、ピンクと白	1992	油絵具、カンヴァス	146.1	113.9			
坂倉新平	開いた扉ー朝の光	1990-94	油絵具、カンヴァス	72.0	53.0			
坂倉新平	開いた扉ー山上の光	1995	油絵具、カンヴァス	72.0	53.0			
坂倉新平	東方ー白の音	1995	油絵具、カンヴァス	146.1	113.9			
坂倉新平	開いた扉ー午後の光	1995頃	油絵具、カンヴァス	72.0	53.0			
坂倉新平	東方ー遠い昔	1995頃	油絵具、カンヴァス	72.0	53.0			
坂倉新平	赤の根源I	1998	油絵具、カンヴァス	114.6	146.2			
坂倉新平	黒の根源	1998	油絵具、カンヴァス	162.0	130.0			
坂倉新平	光を揺さぶる	2000	油絵具、カンヴァス	195.5	267.5			
坂倉新平	心の裡に	2002	油絵具、カンヴァス	114.0	146.0			
坂倉新平	Viva,シャンパン!(赤)	2003	油絵具、カンヴァス	114.0	146.0			
坂倉新平	Viva,シャンパン!(緑)	2003	油絵具、カンヴァス	114.0	146.0			
坂倉新平	バトモス	不詳	油絵具、カンヴァス	72.0	90.0			

素描・水彩画など

坂倉新平	グリーンの木	不詳	水彩絵具、紙	50.0	65.0			
坂倉新平	ボート:みどり	不詳	水彩絵具、紙	23.0	31.0			
坂倉新平	バトモス	不詳	水彩絵具、紙	47.0	63.0			
坂倉新平	バトモス:青と墨	不詳	水彩絵具、墨、紙	31.0	23.0			
坂倉新平	バトモス	不詳	墨、紙	23.5	46.0			
坂倉新平	バトモス	不詳	墨、紙	23.5	31.0			
坂倉新平	バトモス	不詳	墨、紙	24.0	35.0			
坂倉新平	バトモス	不詳	墨、紙	33.5	24.0			
坂倉新平	樹	不詳	墨、紙	66.0	51.0			
坂倉新平	樹	不詳	墨、紙	65.0	49.0			
坂倉新平	樹	不詳	墨、紙	65.0	49.0			

〈佐藤タイ氏寄贈〉

素描・水彩画など

木内克	裸婦	1967	パステル、紙	52.0	36.7		右下:克 1967	
木内克	裸婦	1970	パステル、紙	53.2	37.4		右下:克 1970	

〈三条万里子氏寄贈〉

版画

加納光於	『現代版画・加納光於』	1970	印刷、併用技法、紙	42.0	29.7			刊:筑摩書房 限定500部(当該作品:非 売品ed.2/12)併用技法1 点:《オーロラへの応答》 平版印刷10点、文:武満 徹『加納光於』
加納光於	『葡萄弾ー遍在方位について』	1973	印刷、レリーフプ リント、紙	46.7	30.5	1.7		刊:美術出版社 限定1035部(当該作品: 252番)レリーフプリント 1点、文:瀧口修造『雲の 取巻 彷徨観想者の手稿 加納光於『葡萄弾ー遍在 方位について』とともに』 ほか
加納光於	『PTOLEMAIOS SYSTEM 翼・揺れる黄緯へ』	1975	印刷、レリーフプ リント、紙	42.9(本)/ 46.6(箱)	30.8 / 34.3	3.1 / 4.5		刊:筑摩書房 限定版110部、エブルー ズ版10部(当該作品:非 売品)レリーフ・プリント 3点[無 題](林グラフィックプレ ス制作)、平版作品40点(精 興社)

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
加納光於	塩の柱、あるいは舞踏衣装のためのCODEX	1978	カラー・インタリオ、紙	各35.1	各20.4		奥付：m.kano	2分冊 刊：林グラフィックプレス 1978年 限定97部(当該作品：No.AP,2)

素描・水彩画など

加納光於	[無題][1]-[3]	1978	エンコスティック、紙	各36.5	各26.5			3種3点
------	-------------	------	------------	-------	-------	--	--	------

装幀・挿画・書籍資料

挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所発表会」リーフレット(中野公会堂 1955年11月)	1955	印刷、紙	21.2	19.2			
挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所発表会」リーフレット(成城母の館 1956年11月)	1956	印刷、紙	21.1	18.9			
挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所 勉強会」リーフレット(宝仙ホール 1956年4月)	1956	印刷、紙	21.2	18.9			
挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所 7月の会」リーフレット(中野公会堂 1957年7月)	1957	印刷、紙	21.3	18.7			
挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所発表会」リーフレット(日本青年館 1959年4月)	1959	印刷、紙	21.2	18.8			
挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所発表会」リーフレット(日本青年館 1960年4月)	1960	印刷、紙	20.9	18.7			
挿画：加納光於	「650 EXPERIENCEの会(第2回6人のアバンギャルド)」リーフレット(第一生命ホール 1960年)	1960	印刷、紙	29.5	39.3			
挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所発表会」リーフレット(日本青年館 1961年6月)	1961	印刷、紙	21.2	18.7			
挿画：加納光於	「三条万里子舞踊研究所発表会」リーフレット(杉並公会堂 1962年6月)	1962	印刷、紙	20.7	18.7			
挿画：加納光於	「第19回芸術祭参加 三条万里子帰国ダンス・リサイタル」リーフレット(草月会館ホール 1964年11月)	1964	印刷、紙	17.8	17.2			
挿画：加納光於	「第19回芸術祭参加 三条万里子帰国ダンス・リサイタル」チケット(草月会館ホール 1964年11月)	1964	印刷、紙	6.8	17.9			
挿画：加納光於	「三条万里子ダンスリサイタル1965」リーフレット(草月会館ホール 1965年11月)	1965	印刷、紙	18.2	18.1			
挿画：加納光於	「三条万里子 ダンスコンサート」プログラム(VoiceABC会館ホール 1977年7月；鳥上智大学講堂 1977年8月)	1977	印刷、紙	15.0	15.0			
加納光於	『Tokyo 1977』：三条万里子 ダンスコンサートVoice鳥の舞台美術についての創作ノート	1977	印刷、ペン、紙	37.5	26.5			
挿画：加納光於	『点』No.4	1972	印刷、紙	7.5	7.5			刊：点発行所 編集ほか：馬場駿吉
挿画：加納光於	『点』No.6	1976	印刷、紙	7.5	7.5			刊：点発行所
文：瀧口修造、 画：加納光於	『掌中破片』	1979	印刷、紙	8.5	8.5			書肆山田(煌文庫1) 1979年 限定279部 (当該作品：195番)
加納光於	『粒子と雷鳴 瀧口修造に』	1979	印刷、紙	34.0	25.5			手製冊子 1979年 限定7部 (当該作品：2番)
加納光於	『語りえぬもののための變容 encaustics, 1978』	1981	印刷、紙	34.0	25.0			刊：小沢書店 1981年 限定350部(当該作品：2番)

〈鈴木凱子氏寄贈〉

日本画

伝 渡辺華山	老子出関図	不詳	紙本淡彩	33.2 / 133.0	49.8 / 61.5			軸装 原三溪旧蔵
--------	-------	----	------	--------------	-------------	--	--	----------

〈砂澤涼子氏寄贈〉

素描・水彩画など

砂澤ビッキ	[われ北に生れ北に死せり]	1988	墨、紙	420.0	19.5		左下：ビッキ	卷子 「われ北に生れ北に死せり 一九八八年 ビッキ」と記されたメモあり
砂澤ビッキ	不詳	1988	鉛筆、アクリル絵具、紙	24.9	78.1		左下：BIKKY 1988 TOKYO	卷子
砂澤ビッキ	不詳	1988	鉛筆、紙	25.1	88.0		右下：1988.3.9 旭医大9階の 病窓ヨリ、BIKKY.	卷子
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、紙	25.1	2110.0			卷子
砂澤ビッキ	[風をみたり]	不詳	墨、紙	113.3	24.8			卷子
砂澤ビッキ	[願わくば俺は最も激しい風と…]	不詳	鉛筆、紙	117.5	24.9		上：願わくば 俺は最も激しい風と 中：風よ お前は四頭四脚の獣。お前は	卷子
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、水彩絵具、紙	293.7	24.8			卷子
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、パステル、紙	34.5	136.7			卷子
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、水彩絵具、紙	25.1	68.5			卷子
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、紙	25.0	2077.0			卷子
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、紙	25.0	587.0			卷子

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、紙	25.0	100.5			卷子
砂澤ビッキ	不詳	不詳	鉛筆、パステル、水彩絵具、紙	40.6	95.5			卷子

版画

砂澤ビッキ	不詳	不詳	木版(多色)、紙	17.0 / 24.8	31.5 / 44.3			
-------	----	----	----------	-------------	-------------	--	--	--

〈澄川喜一氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

澄川喜一	MASK	1975	木(樺)	82.5	70.0	89.0		
澄川喜一	MASK	1975	木(樺、カラントス)、彩色、アクリル	211.2	33.3	88.1		

〈ジャン・ピエール・タブチ氏寄贈〉

素描・水彩画など

海老原喜之助	不詳	不詳	ペン、紙	25.5	36.4			海老原盛樹書簡 田淵安一宛(昭和151年3月27日付)
佐藤敏	無題	1962	グアッシュ、紙	32.0	39.1			左下: Key Sato
田淵安一	無題	1953	水彩絵具、紙	65.0	50.2			右下: yasse53
田淵安一	コペンハーゲンにて	1954	水彩絵具、クレヨン、紙	43.0	54.8			右下: 1954 yasse tabuchi à copenhagen
田淵安一	無題	1954	水彩絵具、紙	51.0	36.3			右下: yasse54
田淵安一	無題	1954	墨、ペン、紙	51.0	65.2			右下: 安 yasse54
田淵安一	不詳	1954	鉛筆、紙	51.0	33.2			右下: 安 yasse54 裏右下: No.4
田淵安一	火の大地	1955	水彩絵具、クレヨン、紙	47.0	61.9			右下: yasse tabuchi55 裏右下: La terre de feu yasse tabuchi1955
田淵安一	聖なる山	1955	水彩絵具、紙	20.5 / 44.0	15.2 / 21.5			裏右下: Mont Sacré yasse tabuchi55
田淵安一	昼の月(3点組)	1955	水彩絵具、紙	13.8 / 17.0 / 13.0	8.5 / 8.9 / 8.4			右下: yasse55 右下裏: yasse tabuchi 1955 La lune au jour
田淵安一	不詳	1955	水彩絵具、紙	56.4	45.5			右下: yasse tabuchi 55
田淵安一	水一地	1956	水彩絵具、紙	65.0	50.0			右下: yasse tabuchi 56 裏右下: EAU-TERRE YASSE TABICHI 1956
田淵安一	不詳	1957	水彩絵具、紙	26.8	35.5			右下: yasse tabuchi 57
田淵安一	不詳	1958	水彩絵具、ペン、紙	16.0	30.6			右下: 1958 裏右下: 1958 l'expo Lucien Durand
田淵安一	花の核	1959	水彩絵具、紙	50.0	65.2			裏右下: Les noyaux des fleurs yasse TABUCHI 1959
田淵安一	秋の晴天の日	1959	水彩絵具、紙	50.0	66.0			裏右下: un beau jour d'automne ensoleillé 1959 yasse tabuchi
田淵安一	無題	1950年代	水彩絵具、クレヨン、紙	50.0	65.0			
田淵安一	不詳	1950年代	墨、ペン、紙	14.7	19.5			
田淵安一	不詳	1950年代	墨、ペン、紙	13.5	15.6			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	49.9	57.2			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	18.6	10.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	29.6	20.5			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	30.3/7.0	2.0/8.4			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	27.3	11.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	25.1	17.5			
田淵安一	不詳	1950年代	墨、紙	25.0	32.5			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	26.0	32.5			
田淵安一	不詳	1950年代	墨、紙	29.0	47.9			
田淵安一	不詳	1950年代	色鉛筆、紙	38.7	32.1			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、ペン、紙	17.7	65.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	24.5	19.8			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、ペン、紙	38.2	24.9			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	32.7	45.7			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	25.0	32.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	44.6	41.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	64.2	50.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	63.5	43.7			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	63.3	48.0			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	65.1	50.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	63.8	47.5			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	50.0	60.2			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	38.8	57.6			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	50.0	65.0			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	50.0	65.5			
田淵安一	不詳	1950年代	水彩絵具、紙	44.0	50.0			
田淵安一	不詳	1961	水彩絵具、紙	46.5	72.5		右下: tabuchi61	
田淵安一	虐殺のためのバイクと頭を切断するブランコ	1962	水彩絵具、紙	50.0	65.2		右下: yasse tabuchi 62 moto à massacrer et balançoire-coupe-tête	
田淵安一	習作 戦い	1962	水彩絵具、紙	50.0	65.2		右下: yasse tabuchi 62	
田淵安一	無題	1962	水彩絵具、 コラージュ、紙	65.2	50.0		右下: yasse tabuchi62	
田淵安一	無題	1962	水彩絵具、紙	50.0	65.2		右下: yasse tabuchi62	
田淵安一	無題	1962	水彩絵具、紙	62.5	50.0		右下: yasse62	
田淵安一	無題	1962	水彩絵具、紙	76.0	56.0		右下: yasse tabuchi62	
田淵安一	不詳	1962	水彩絵具、紙	48.5	33.2		右下: tabuchi62	
田淵安一	不詳	1962	墨、ペン、紙	62.5	50.0		右下: yasse62	
田淵安一	不詳	1962	墨、ペン、紙	62.5	50.0		右下: yasse62	
田淵安一	不詳	1962	墨、ペン、紙	65.2	50.0		右下: yasse62	
田淵安一	不詳	1962	水彩絵具、紙	50.0	65.2		右下: tabuchi62	
田淵安一	不詳	1962	水彩絵具、紙	50.0	65.4		右下: 62	
田淵安一	不詳	1962	水彩絵具、紙	32.5	56.2		右下: 1962	
田淵安一	不詳	1962	水彩絵具、紙	32.0	41.0		右下: yasse62	
田淵安一	習作 戦い	1962頃	水彩絵具、紙	50.0	65.2		右下: yasse tabuchi esquisse pour la bataille	
田淵安一	不詳	1963	水彩絵具、紙	50.0	64.8		右下: 63	
田淵安一	不詳	1963	水彩絵具、紙	27.0 / 30.0	33.5 / 47.0		右下: yasse63	
田淵安一	不詳	1963	墨、紙	32.6	50.2		右下: 63	
田淵安一	不詳	1963	墨、紙	49.7	33.0		右下: 63	
田淵安一	不詳	1963	ペン、紙	32.2	50.1		右下: 63	
田淵安一	尻軽なカタツムリ	1964	水彩絵具、紙	33.0	56.2		右下: Escargot de la petite vertu tabuchi64	
田淵安一	不詳	1964	ペン、紙	38.2	45.7		右下: yasse64	
田淵安一	不詳	1964	水彩絵具、紙	50.0	65.0		中央: yasse64	
田淵安一	不詳	1964	水彩絵具、紙	20.9	20.0		右下: 64	
田淵安一	不詳	1964	墨、紙	25.0	33.3		右下: 64	
田淵安一	不詳	1964	墨、紙	50.0	33.0		右下: 64	
田淵安一	不詳	1964	墨、紙	32.9	50.0		右下: 64	
田淵安一	不詳	1964	色鉛筆、紙	28.0	28.0		右下: yasse64	
田淵安一	不詳	1964	色鉛筆、紙	28.0	28.0			
田淵安一	不詳	1964頃	ペン、紙	32.2	24.0		右下: vers64	
田淵安一	無題	1965	水彩絵具、紙	50.0	64.8		右下: 65	
田淵安一	無題	1965	ペン、紙	44.2	55.9		右下: 65	
田淵安一	不詳	1965	水彩絵具、紙	31.9	47.4		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	31.0	47.0		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	31.3	47.0		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	水彩絵具、紙	47.0	31.7		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	墨、紙	49.7	65.0		右下: tabuchi65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	32.0	47.0		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	墨、ペン、紙	50.0	65.4		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	23.0	17.7		右下: 65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	32.4	47.4		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	31.0	47.2		右下: 65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	24.9	33.0		右下: 65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	24.6	33.0		右下: 65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	25.1	33.1		右下: 65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	24.7	33.0		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	33.8	22.0		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	31.8	28.8		右下: 65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	31.6	47.0		右下: yasse 65	
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	40.0	49.4		右下: yasse 65	
田淵安一	不詳	1965	墨、紙	28.2	36.0		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965	墨、紙	28.7	40.5		右下: yasse65	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1965	ペン、紙	31.3	37.2		右下: tabuchi65	
田淵安一	不詳	1965	水彩絵具、ペン、紙	27.6	29.8		右下: yasse65	
田淵安一	不詳	1965頃	水彩絵具、紙	24.7	25.0			
田淵安一	不詳	1965頃	ペン、紙	24.7	26.9		右下: v.1965	
田淵安一	不詳	1965頃	ペン、紙	31.3	37.2			
田淵安一	不詳	1965頃	水彩絵具、紙	24.7	25.0			
田淵安一	不詳	1965頃	ペン、紙	24.7	26.9		右下: v.1965	
田淵安一	不詳	1965頃	ペン、紙	31.3	37.2			
田淵安一	不詳	1966	鉛筆、紙	49.8	66.0		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	44.7	55.6		右下: tabuchi66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	42.2	56.0		右下: tabuchi66	
田淵安一	不詳	1966	コンテ、紙	50.0	65.2		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	29.0	40.5		右下: 19.12.66	
田淵安一	不詳	1966	水彩絵具、紙	31.0	31.0		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	水彩絵具、紙	31.4	47.0		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	水彩絵具、紙	45.5	56.2		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	50.0	66.0		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	50.0	66.0		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	50.0	66.0		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	56.0	76.5		右下: 22-12-66	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	56.0	76.5		右下: 22-12-66	
田淵安一	不詳	1966	ペン、紙	25.2	49.9		右下: 1966	
田淵安一	不詳	1966	水彩絵具、紙	19.3	34.3		中央下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	ペン、紙	19.2	29.6		右下: 66	
田淵安一	不詳	1966	ペン、紙	33.0	50.0		右下: 1966	
田淵安一	不詳	1966	墨、ペン、紙	27.0	40.4		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	水彩絵具、紙	28.2	40.5		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	水彩絵具、紙	31.6	47.2		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1966	水彩絵具、紙	36.5	65.0		右下: yasse66	
田淵安一	不詳	1967	墨、ペン、紙	34.0	31.7		中下: yasse67	
田淵安一	不詳	1967	墨、ペン、紙	47.0	31.8		右下: tabuchi67	
田淵安一	不詳	1967	墨、ペン、紙	39.8	56.0		右下: tabuchi67	
田淵安一	不詳	1967	ペン、紙	33.0	50.0		右下: 5-1-67	
田淵安一	不詳	1967	ペン、紙	25.0	33.0		右下: 5-1-67	
田淵安一	不詳	1967	ペン、紙	32.7	50.0			
田淵安一	不詳	1967	ペン、紙	32.7	50.0		右下: 5-1-67	
田淵安一	不詳	1967	水彩絵具、紙	71.0	63.5.0			
田淵安一	不詳	1966-67	ペン、紙	29.6	19.5		右下: vers66.67	
田淵安一	無題	1968	水彩絵具、紙	39.0	50.0		右下: yasse tabuchi68 裏左上: yasse tabuchi 1968	
田淵安一	不詳	1968	水彩絵具、紙	50.0	65.2		右下: yasse68	
田淵安一	不詳	1968	水彩絵具、ペン、紙	50.0	65.2		右下: yasse68	
田淵安一	不詳	1968	水彩絵具、ペン、紙	50.0	65.2		右下: yasse68	
田淵安一	不詳	1968	水彩絵具、紙	39.4	49.5		右下: tabuchi68	
田淵安一	不詳	1968	ペン、紙	39.4	50.0		右下: tabuchi68	
田淵安一	不詳	1968	墨、紙	49.7	65.0		右下: tabuchi68	
田淵安一	不詳	1968	墨、ペン、紙	43.3	59.2		右下: yasse68	
田淵安一	「レイモン・クノーの詩の朗読会」のための舞台装置(模型)	1968頃	水彩絵具、厚紙、木	27.0	27.0	4.0(可変)		レイモン・クノーの詩の朗読会(アミアン市文化センター、1968年)
田淵安一	アーチアルトゥ教会の壁画スケッチ	1960年代	水彩絵具、紙	56.0	76.5			
田淵安一	アーチアルトゥ教会の壁画スケッチ メダイオン	1960年代	水彩絵具、紙	56.0	76.5			
田淵安一	アーチアルトゥ教会の壁画スケッチ ダニエルとライオン	1960年代	水彩絵具、紙	56.0	76.5			
田淵安一	無題	1960年代	水彩絵具、紙	105.0	70.7			
田淵安一	不詳	1960年代	水彩絵具、紙	32.0	47.3		右下: yasse	
田淵安一	不詳	1960年代	墨、ペン、紙	45.0	34.0		右下: yasse	
田淵安一	不詳	1960年代	墨、ペン、紙	27.2	40.6		右下: 19-12	
田淵安一	不詳	1960年代	ペン、紙	24.7	50.0		右下: 31-10	
田淵安一	不詳	1960年代	ペン、紙	24.7	50.0		右下: 31-10	
田淵安一	不詳	1960年代	ペン、紙	24.7	50.0		右下: 12-11	
田淵安一	不詳	1960年代	ペン、紙	32.8	50.0			
田淵安一	不詳	1960年代	ペン、紙	33.0	49.8			
田淵安一	不詳	1960年代	ペン、紙	32.8	49.8			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	版画集『Augures』原画 [2]	1971	コンテ、紙	50.0	44.2			
田淵安一	魅惑的な眺め [1]	1971	色鉛筆、水彩絵具、紙	24.9	32.5		右下: tabuchi71	
田淵安一	魅惑的な眺め [2]	1971	色鉛筆、水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	魅惑的な眺め [3]	1971	色鉛筆、水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	魅惑的な眺め [4]	1971	色鉛筆、水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1971	水彩絵具、紙	33.0	48.5		右下: Y.tabuchi71	
田淵安一	不詳	1971	ペン、紙	27.0	24.2			
田淵安一	不詳	1971	水彩絵具、紙	46.1	37.0		右下: tabuchi71	
田淵安一	不詳	1971	ペン、紙	15.3	32.0		右下: tabuchi71	
田淵安一	不詳	1971頃	ペン、紙	32.5	33.0			
田淵安一	不詳	1971頃	ペン、紙	32.5	33.0			
田淵安一	無題	1972	水彩絵具、紙	32.0	41.7		右下: Tabuchi72	
田淵安一	不詳	1972	水彩絵具、紙	31.0	37.0		右下: 72	
田淵安一	不詳	1972	水彩絵具、紙	31.0	47.5		右下: 72	
田淵安一	不詳	1972	墨、紙	47.0	32.0		右下: 72	
田淵安一	不詳	1972	墨、紙	32.0	47.0		右下: 72	
田淵安一	[果实]	1973	水彩絵具、紙	45	50.3		右下: Yasse73	
田淵安一	不詳	1973	墨、紙	10.6	45.2		右下: 1973 Y.Tabuchi	
田淵安一	不詳	1973	墨、紙	32.5	46.7		右下: 73	
田淵安一	不詳	1973	ペン、紙	30.0	41.3		右下: 73	
田淵安一	不詳	1973	ペン、紙	29.5	41.5		右下: 73	
田淵安一	不詳	1973	墨、紙	29.0	49.3		右下: 73	
田淵安一	不詳	1973	墨、紙	29.0	49.3		右下: 73	
田淵安一	不詳	1973	水彩絵具、紙	61.3	46.0		右下: Tabuchi73	
田淵安一	不詳	1973	水彩絵具、紙	40.5	55.4		右下: Yasse73	
田淵安一	不詳	1973	水彩絵具、紙	40.5	55.4		右下: Yasse73	
田淵安一	無題	1974	墨、紙	45.5	61.3		左下: 1974	
田淵安一	不詳	1974	水彩絵具、紙	45.8	61.7		右下: Tabuchi74	
田淵安一	不詳	1974	水彩絵具、紙	31.3	46.5		右下: 74	
田淵安一	不詳	1974	墨、紙	50.5	32.0		右下: t74	
田淵安一	不詳	1974頃	墨、紙	45.5	61.3			
田淵安一	不詳	1974頃	墨、紙	45.5	61.3			
田淵安一	不詳	1974頃	墨、紙	45.5	61.3			
田淵安一	無題	1974頃	墨、紙	45.5	61.3			
田淵安一	不詳	1974頃	墨、紙	45.5	61.3			
田淵安一	不詳	1974頃	墨、紙	45.5	61.3			
田淵安一	[樹]	1975	色鉛筆、紙	65.7	50.4		右下: 10X75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	30.5	22.5		右下: t75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	32.9 / 39.8	26.4 / 30.0		右下: t75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	32.0 / 37.5	26.8 / 32.2		右下: t75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	26.6	45.6		右下: 75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	25.0	47.0		右下: 75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	25.0	47.0		右下: 75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	25.0	47.0		右下: 75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	13.0	33.0		右下: 印[t]75	
田淵安一	不詳	1975	墨、紙	26.3 / 40.0	23.0 / 30.0		右下: 75	
田淵安一	不詳	1975	水彩絵具、紙	35.6	45.5		右下: 75	
田淵安一	不詳	1975	墨、紙	31.7	24.3		右下: 75	
田淵安一	[樹]	1975頃	色鉛筆、紙	65.7	50.4			
田淵安一	[樹]	1975頃	色鉛筆、紙	65.7	50.4			
田淵安一	不詳	1975頃	水彩絵具、紙	25.0	47.0			
田淵安一	不詳	1975頃	水彩絵具、紙	39.0	49.6			
田淵安一	不詳	1975頃	水彩絵具、紙	39.0	49.6			
田淵安一	不詳	1975頃	水彩絵具、紙	39.0	49.6			
田淵安一	不詳	1975頃	色鉛筆、紙	65.7	50.4			
田淵安一	不詳	1975頃	色鉛筆、紙	65.7	50.4			
田淵安一	不詳	1977	墨、紙	14.8	20.0		右下:1977 t	
田淵安一	不詳	1977	墨、紙	14.8	20.0		右下:1977 t	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	45.5	30.5		右下: t79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	31.0	46.6		右下: t79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	29.5	41.0		右下: Yasse79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	31.5	32.5		右下: 79	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1979	ペン、紙	41.0	27.5		右下:79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	45.8	33.3		右下:79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	47.0	31.4		右下:Yasse79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	31.5	46.0		右下:79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	39.5	47.3		右下:Yasse79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	59.0	40.5		右下:Yasse79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	30.5	46.5			
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	30.5	46.5		右下:tabuchi79	
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	30.5	46.5			
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	32.0	31.0			
田淵安一	不詳	1979	墨、紙	32.0	31.0		右下:79	
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	32.8	24.5		右下:モノグラム[□]	
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	20.0	34.0		右下:モノグラム[□]	
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	33.0	40.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	33.0	40.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	33.0	40.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	33.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	33.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	33.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	33.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	26.0	25.5			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	34.0	40.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	34.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	34.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	34.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	34.0	40.0			
田淵安一	[曼荼羅]	1970年代	墨、紙	93.1	63.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	40.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	31.0	45.3			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	31.0	47.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	45.0	38.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	45.5	37.5			
田淵安一	不詳	1970年代	クレヨン、セロハン	55.0	43.0			
田淵安一	不詳	1970年代	クレヨン、セロハン	55.0	43.0			
田淵安一	不詳	1970年代	クレヨン、セロハン	55.0	43.0			
田淵安一	[浮世絵のスケッチ]	1970年代	墨、紙	47.5	31.3			
田淵安一	[浮世絵のスケッチ]	1970年代	墨、紙	47.5	31.3			
田淵安一	[スケッチの切り抜き]	1970年代	色鉛筆、紙	25.5	32.5			
田淵安一	無題	1970年代	クレヨン、紙	33.0	51.3			
田淵安一	無題	1970年代	水彩絵具、紙	65.0	74.8			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	93.0	63.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	36.3			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	34.0	32.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	31.0	35.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	35.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	31.3	37.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	28.0	35.7			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	28.0	35.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	28.0	35.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	28.2	35.6			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	27.8	31.3			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	31.6	47.3			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	32.3	44.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、ペン、紙	15.4	32.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、ペン、紙	33.0	40.4			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	39.9	50.1			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	47.5	64.3			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	47.5	64.3			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	47.5	64.3			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	56.0	76.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	40.7	57.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	40.6	58.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	40.6	58.2			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	69.0	71.0			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	69.0	71.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	65.2	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、ペン、紙	41.5	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	50.0	57.0			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	35.6	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	35.6	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	35.6	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	31.7	20.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、墨、紙	31.5	39.5			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙、セロハン	38.0	26.5			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	32.0	44.0			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	31.0	34.5			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	26.7	33.3			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	26.4	33.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	33.0	54.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.6	34.3			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.6	34.3			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.6	34.3			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.6	34.3			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	26.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	17.0	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	34.5	17.4			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	34.5	17.4			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	26.5	22.3			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	41.9	26.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、墨、紙	29.0	40.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	32.0	39.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	21.0	26.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	33.0	24.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	24.0	31.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	31.2	31.2			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	31.8	46.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	16.0	35.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	16.0	35.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	29.4	41.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	31.5	46.1			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	37.8	28.6			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	39.0	28.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	32.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	32.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	37.0	46.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	31.5	47.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	33.7	49.5			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	41.0	33.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	36.6	64.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	31.6	46.7			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	30.9	47.5			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	38.0	45.9			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、色鉛筆、紙	17.8	30.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	23.8	25.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	29.3	33.7			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	28.9	24.6			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	28.9	24.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、色鉛筆、紙	32.0	40.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	28.6	32.2			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	29.5	33.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙、	20.5	34.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、色鉛筆、紙	28.0	23.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	30.0	44.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	37.6	31.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	30.0	45.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、色鉛筆、紙	32.5	24.8			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	19.3	19.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	23.0	24.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	20.0	26.4			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	29.0	34.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、ペン、紙	32.2	15.4			
田淵安一	不詳	1970年代	鉛筆、紙	25.0	25.0			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、鉛筆、紙	38.0	47.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、色鉛筆、紙	50.0	40.1			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	24.5	25.3			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	24.5	25.3			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	41.8	50.2			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	39.6	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	31.0	33.7			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	31.0	56.0			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	31.9	46.9			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	32.2	47.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	46.7	48.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	46.7	48.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	19.8	26.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	21.3	25.1			
田淵安一	不詳	1970年代	鉛筆、紙	26.0	31.8			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	40.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	鉛筆、紙	65.2	50.2			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	47.0	32.0			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	47.2	64.3			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	47.2	64.3			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	47.2	64.3			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	43.0	54.6			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	47.2	63.5			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	13.0	42.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	40.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	42.0	50.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、色鉛筆、紙	65.2	50.3			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	66.0	50.3			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	65.4	50.2			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	65.4	50.2			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	65.4	50.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	15.0	8.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	11.2	3.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	9.2	25.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、ペン、紙	15.5	12.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	12.0	17.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	56.2	76.5			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	56.0	76.5			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	32.0	23.5			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	32.0	27.3		左上: Silver	
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	31.5	37.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	27.9	38.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	33.1	25.2			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	29.7	22.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	29.7	22.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	29.7	22.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	31.3	27.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	30.9	10.9			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	13.8	21.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	13.2	18.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	18.6	28.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	28.1	20.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	32.8			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	69.0	70.7			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	29.5	25.6			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	24.5	20.3			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、色鉛筆、紙	23.2	28.0			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	32.0	23.9			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	32.0	23.9			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	32.0	23.9			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	34.0	46.5			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	34.0	46.5			
田淵安一	不詳	1970年代	色鉛筆、紙	39.6	34.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	32.5	36.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	45.0	32.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	37.2	35.0			
田淵安一	不詳	1970年代	ペン、紙	47.3	30.6			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	50.1	32.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	31.1	40.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、ペン、紙	33.0	40.3			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	25.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.5	30.5			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	25.0	36.1			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	32.0	40.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	32.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	32.0	50.0			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	18.7	28.2			
田淵安一	不詳	1970年代	水彩絵具、紙	38.7	47.1			
田淵安一	不詳	1970年代	墨、紙	36.7	49.6			
田淵安一	不詳	1970年代頃	水彩絵具、紙	41.3	49.5			
田淵安一	不詳	1970年代頃	ペン、紙	50.2	66.0			
田淵安一	[果実]	1980	コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	39.7	32.5		右下: IV・80	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	39.7	32.5		右下: IV80	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	39.7	32.5		右下: IV80	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	39.7	32.5		右下: IV80	
田淵安一	[樹]	1980	色鉛筆、コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	[樹]	1980	コンテ、紙	32.5	39.8		右下: IV80X7	
田淵安一	不詳	1982	水彩絵具、紙	48.8	50.2		右下: yasse82	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1980-90年代	墨、紙	32.5	49.6			
田淵安一	不詳	1980-90年代	墨、紙	29.6	41.5			
田淵安一	不詳	1980-90年代	水彩絵具、紙	31.0	46.6			
田淵安一	不詳	1980-90年代	水彩絵具、紙	37.6	46.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	色鉛筆、紙	54.2	43.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	色鉛筆、紙	54.2	43.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	色鉛筆、紙	54.2	43.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	色鉛筆、紙	54.2	43.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	色鉛筆、紙	54.2	43.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	墨、紙	45.0	63.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	墨、紙	45.0	63.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	墨、紙	45.0	63.0			
田淵安一	不詳	1980-90年代	墨、紙	63.0	49.5			
田淵安一	不詳	1980-90年代	水彩絵具、紙	94.7	64.0			
田淵安一	不詳	1990	水彩絵具、紙	31.0	23.0		右下: Tabuchi90	
田淵安一	不詳	1990	水彩絵具、紙	51.0	36.0		右下: Tabuchi90	
田淵安一	不詳	1990	水彩絵具、紙	41.0	31.0		右下: tabuchi90	
田淵安一	不詳	1990	水彩絵具、紙	51.0	36.0		右下: tabuchi90	
田淵安一	不詳	1990	水彩絵具、紙	50.8	36.0		右下: tabuchi90	
田淵安一	不詳	1990	水彩絵具、紙	50.8	36.0		右下: tabuchi90	
田淵安一	そよ風	1991	水彩絵具、紙	31.8	24.0		右下: La brise Tabuchi 91	
田淵安一	不詳	1991	水彩絵具、紙	31.5	24.3		右下: t91	
田淵安一	不詳	1991	水彩絵具、紙	31.5	24.3		右下: t91	
田淵安一	不詳	1991	墨、紙	35.0	25.3		右下: t91	
田淵安一	不詳	1991	墨、紙	35.0	25.3		右下: t91	
田淵安一	不詳	1991	墨、紙	27.5	26.1		右下: Yasse91	
田淵安一	不詳	1991	水彩絵具、紙	41.0	31.0		右下: tabuchi91	
田淵安一	不詳	1991	水彩絵具、紙	31.8	24.0		裏面: l'été tabuchi'91	
田淵安一	不詳	1992	水彩絵具、紙	36.0	26.0		右下: tabuchi92	
田淵安一	不詳	1993	水彩絵具、ボード	29.5	40.8		右下: Tabuchi93	
田淵安一	不詳	1993	水彩絵具、紙	31.0	23.0		右下: Yasse93	
田淵安一	不詳	1993	水彩絵具、紙	31.0	23.0		右下: Yasse93	
田淵安一	不詳	1993	水彩絵具、紙	53.7	22.8		右下: Tabuchi93	
田淵安一	不詳	1993	水彩絵具、紙	44.0	50.0		右下: Tabuchi93	
田淵安一	不詳	1993	水彩絵具、紙	53.8	23.0		右下: tabuchi93	
田淵安一	不詳	1995	ペン、紙	39.3	50.0		右下: vers 1995	
田淵安一	不詳	1995頃	ペン、紙	39.8	50.0		右下: vers 1995	
田淵安一	不詳	1997	水彩絵具、紙	36.0	26.0		右下: Tabuchi97	
田淵安一	不詳	1997	水彩絵具、紙	36.0	26.0		右下: Tabuchi97	
田淵安一	不詳	1997	水彩絵具、紙	26.0	36.0		右下: tabuchi97	
田淵安一	不詳	1997	水彩絵具、紙	41.0	31.0		右下: tabuchi97	
田淵安一	不詳	1997	水彩絵具、紙	51.0	36.0		右下: tabuchi97	
田淵安一	不詳	1997	水彩絵具、紙	41.0	31.0		右下: tabuchi97	
田淵安一	不詳	1998	水彩絵具、紙	35.0	32.5		右下: tabuchi98	
田淵安一	不詳	1999	水彩絵具、紙	29.6	21.0		右下: tabuchi99	
田淵安一	不詳	1999	水彩絵具、紙	29.6	21.0		右下: tabuchi99	
田淵安一	不詳	2000	水彩絵具、ボード	28.0	25.0		右下: Tabuchi l'Art2000	
田淵安一	不詳	2000頃	水彩絵具、紙	29.7	21.0			
田淵安一	不詳	2000頃	水彩絵具、紙	29.7	21.0			
田淵安一	不詳	2000頃	水彩絵具、紙	29.7	21.0			
田淵安一	巖山の夜明けに	不詳	水彩絵具、紙	48.8	62.7		右下: à l'aube du pay du Gazan Tabuchi	
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	32.2	36.0			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	32.2	36.4			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	40.0	49.8			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	49.9	39.5			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	49.7	39.2			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	37.8	30.8			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	31.0	38.0			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	42.0	50.0			
田淵安一	不詳	不詳	水彩絵具、紙	39.4	52.5			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
スケッチブック								
田淵安一	スケッチブック No.[1]-[43]	1968-93頃	鉛筆、水彩絵具、墨、紙など	20.0-45.0	8.9-38.6			計43冊
版画								
鬼頭暉	不詳	1963	リトグラフ、紙	19.5 / 25.3	27.5 / 32.2		左下：h.c. 右下：kito.	
鬼頭暉	不詳	1963	リトグラフ、紙	19.5 / 25.3	27.5 / 32.2		左下：E.A. 右下：kito.	
駒井哲郎	月の兎	1951	アクアティント、エッチング(雁皮刷：青雁皮)、紙	11.7 / 25.0	8.0 / 16.7		左下：19/35 右下：Tetsuro Komai	
駒井哲郎	人形と小動物	1951	アクアティント、エッチング(雁皮刷)、紙	17.7 / 25.2	10.0 / 16.7		左下：Ep. d'Artiste 右下：Tetsuro Komai	
駒井哲郎	風景	1954	エッチング、アクアティント、サンドペーパーによるエッチング、紙 *ルルーレット、ベルソー	18.0 / 28.0	27.3 / 38.2		左下：Ep. d'Artiste 右下：Tetsuro Komai	
田淵安一	版画集『Augures』	1971	リトグラフ、紙	50.8	43.0	3.0		6点組 刊：Atelier Clot, Bramsen et Georges éd.:70/80
田淵安一	版画集『峨山國奇畫譜』 <i>Rochers Fantastiques au Pays de Gazan</i>	1986	エッチング、紙	各26.7 / 50.3	各20.6 / 26.0		(1)各左下：7/30 各右下：tabuchi86 (2)各左下：14/30 各右下：tabuchi86	15点組 2冊あり 刊：Clot, Bramsen et Georges par Vincent Moreau, Paris
田淵安一	版画集『L'arbre solitaire』	1987	リトグラフ、紙	各47.7	各33.3		各左下：E.A.7/7 各右下：tabuchi87	6点組 刊：Atelier Clot, Bramsen et Georges, Paris
詩：ケネス・ホワイト 版画：田淵安一	詩画集『Premières esquisses des Iles de l'Amérique』	1990	エッチング、紙	各34.3 / 36.0	各32.0 / 33.5		奥付：Kenneth White tabuchi 30/45	3点組 刊：Edition Gazan éd.:30/45
田淵安一	版画集『Aux îles de l'Amérique』	1990	エッチング、紙	各34.6 / 57.0	各32.2 / 44.3		各左下：18/30 各右下：tabuchi	5点組
田淵安一	鳥の中の鳥	1971	リトグラフ、紙	65.5	48.8			
田淵安一	不詳	1971	リトグラフ、紙	49.7	42.4		左下：E.A. 右下：Tabuchi71	
田淵安一	不詳	1971	リトグラフ、紙	48.7	65.6		左下：VI-Z 右下：tabuchi71	
田淵安一	不詳	1971	リトグラフ、紙	38.6	57.0		左下：E.A. 右下：tabuchi71	
田淵安一	陰陽樹	1973	リトグラフ、紙	47.7	66.0		左下：97/100 右下：tabuchi73	
田淵安一	世界の樹	1973	リトグラフ、紙	64.6	49.7			
田淵安一	不詳	1973	リトグラフ、紙	65.4	50.0		左下：54/60 右下：tabuchi73	
田淵安一	不詳	1973	リトグラフ、紙	58.0	40.0		左上：tabuchi73 右下：tabuchi 20/50	
田淵安一	不詳	1973頃	リトグラフ、紙	58.3	38.7			
田淵安一	不詳	1973頃	リトグラフ、紙	50.0	65.0			
田淵安一	不詳	1973頃	リトグラフ、紙	47.5	66.0			
田淵安一	不詳	1973頃	リトグラフ、紙	76.5	56.2		左下：E.A. 右下：tabuchi	
田淵安一	不詳	1973頃	リトグラフ、紙	44.0	64.0		左下：II/IX 右下：tabuchi	
田淵安一	不詳	1977頃	リトグラフ、紙	76.0	56.2		右下：10/50	
田淵安一	不詳	1977頃	リトグラフ、紙	80.0	60.0		左下：1977	
田淵安一	不詳	1979	リトグラフ、紙	34.5	48.0		左下：E.A. 右下：tabuchi79	
田淵安一	不詳	1970年代	リトグラフ、紙	42.2	34.6			
田淵安一	不詳	1970年代	リトグラフ、紙	55.5	44.0		左下：97/100 右下：tabuchi	
田淵安一	不詳	1970年代	リトグラフ、紙	55.5	66.0			
田淵安一	不詳	1981	リトグラフ、紙	49.8	40.0		左下：233/250 右下：tabuchi81	
田淵安一	不詳	1983	リトグラフ、紙	48.6	39.0		左下：E.A. 右下：tabuchi83	
田淵安一	不詳	1985	リトグラフ、紙	42.2	34.3		左下：E.A. 右下：tabuchi85	
田淵安一	不詳	1986	エッチング、紙	53.8	42.1		左下：28/30 右下：tabuchi86	
田淵安一	黒い岩に生える樹	1986	エッチング、紙	54.0	42.5		左下：E.A. 右下：Arbre au rocher noir tabuchi86	
田淵安一	不詳	1987	シルクスクリーン、紙	25.0	46.0		右下：26/80 tabuchi87	
田淵安一	不詳	1987	シルクスクリーン、紙	25.0	46.0		右下：24/80 tabuchi87	
田淵安一	不詳	1987	シルクスクリーン、紙	25.0	46.0		右下：61/80 tabuchi87	
田淵安一	不詳	1980年代	リトグラフ、紙	32.9	40.9			
田淵安一	不詳	1990	リトグラフ、紙	36.1	36.3		右下：100/100 tabuchi90	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
田淵安一	不詳	1990	リトグラフ、紙	36.1	36.3		右下: 97/100 tabuchi90	
田淵安一	無題	1992	リトグラフ、紙	90.0	63.5		左下: E.A. 右下: tabuchi'92	
田淵安一	不詳	不詳	リトグラフ、紙	66.0	48.6		左下: 38/50 右下: tabuchi	
田淵安一	不詳	不詳	リトグラフ、紙	65.1	48.6		左下: E.A. 右下: tabuchi	
田淵安一	不詳	不詳	リトグラフ、紙	66.1	50.5			
トロヰック, ウルフ	不詳(1)-(6)	不詳	銅版、紙	各11.0 / 35.4	各10.0 / 27.0		左下: (1),(3)15/50 (2)13/50 (4)14/50 (5)8/50 (6)18/50 右下: Trotzig	6点
野見山暁治	鬼頭暉像 渡佛船中にて	1953	鉛筆、紙	27.0	21.0		右下: Nomi	
ヨルン, アスガー	不詳	1971	木版、紙	32.0 / 56.4	24.6 / 45.0		左下: pour tabuchi 右下: Jorn 71	
ヨルン, アスガー	不詳	1971	木版、紙	24.5 / 45.0	32.3 / 56.2		左下: à la famille Tabuchi 右下: Jorn 71	

その他(資料)

—	田淵安一旧蔵 個展、グループ展ポスター一式	1956-82	印刷、紙	52.0(最大寸)	73.0(最大寸)			21種35点 「イリス・クレール 画廊開廊記念展」(田淵、アスガー・ヨルン他、1956年)他
—	田淵安一旧蔵 他作家作品一式	不詳	版画、紙	65.5(最大寸)	54.0(最大寸)			
—	田淵安一旧蔵 資料一式	不詳	ファイル、紙など	23.0(最大寸)	13.0(最大寸)			

〈田中良氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

田中岑	男	1948	油絵具、コラーージュ、紙	39.1	27.5			
田中岑	色光	2001	油絵具、カンヴァス	144.0	88.0			

素描・水彩画など

田中岑	無題	2000	パステル、紙	78.0 / 85.0	32.6 / 37.5			
-----	----	------	--------	-------------	-------------	--	--	--

〈中野和明氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

中野和高	姉妹	1958	油絵具、カンヴァス	130	96.8			
------	----	------	-----------	-----	------	--	--	--

〈長澤伸徳氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

長澤伸徳	Torso IV	1981	テラコッタ	103.0	45.0	25.0		
------	----------	------	-------	-------	------	------	--	--

〈橋秀文氏寄贈〉

素描・水彩画など

本多錦吉郎	相州鎌倉由井濱	1896	水彩絵具、紙	24.0	34.2		左下: (22) 右下: 明治廿九年八月写 相州鎌倉由井濱 K.Honda	
-------	---------	------	--------	------	------	--	---	--

〈早房響子氏寄贈〉

作品資料

藤牧義夫	藤牧義夫、末松正樹、長谷川和巳差出 佐藤哲三宛葉書(1934年5月2日)	1934	水彩絵具、インク、紙	13.9	9.0			
藤牧義夫	藤牧義夫、長谷川和巳差出 佐藤哲三宛葉書(1934年5月3日)	1934	水彩絵具、インク、紙	14.0	9.0			

〈浜田知明氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

浜田知明	杖をつく老人	2013	ブロンズ	24.0	16.3	19.4	下部: Chimei / H.C.	
------	--------	------	------	------	------	------	-------------------	--

〈水沢智子氏寄贈〉

日本画

神坂雪佳	雛人形之図	不詳	絹本着彩	77.3 / 165.5	37.5 / 50.3		右下: 雪佳筆 [印]	
神坂雪佳	社頭杉	不詳	絹本着彩	141.3 / 198.3	26.4 / 38.2		左下: 雪佳筆 [印]	

〈溝口百合子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

青山義雄	チューリップのある静物	1934頃	油絵具、カンヴァス	59.8	72.5			
------	-------------	-------	-----------	------	------	--	--	--

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
〈村田清氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
木村忠太	少女像	不詳	油絵具、カンヴァス	33.2	24.3		左下: CHUTA.KIMURA 右下: 忠	
〈森光子氏寄贈〉								
版画								
森光子	角と曲線(赤)	1999	シルクスクリーン、紙	75.7 / 89.9	75.7 / 89.9		右下: Mori 左下: 3/15 中下: Angle et Curviligne	
森光子	角と曲線(黄)	1999	シルクスクリーン、紙	75.7 / 89.9	75.7 / 89.9		右下: Mori 左下: 2/15 中下: Angle et Curviligne, Jaune	
森光子	無題 (1)-(3)	2014	シルクスクリーン、紙	各28.0 / 37.5	各28.0 / 53.5		右下: Mori 左下: (1)1/30 (2)、(3)2/30	3種3点
〈柳原操氏寄贈〉								
彫刻								
柳原義達	裸婦 座る	1958	ブロンズ	64.5	41.0	137.0		
〈吉村洋子氏寄贈〉								
写真資料								
吉村弘	記録写真資料 一式		35mmカラーリバーサルフィルム(マウント付)、紙焼き写真など				ファイル計3冊:[ファイル記録1 緑1-322],[ファイル記録2 緑323-702],[ファイル記録3 緑703-988 URBAN Guiro Tokyo Scene]	
吉村弘	作品写真資料 一式		35mmカラーリバーサルフィルム(マウント付・無)など				ケース2箱[プラスチックケース1 自身の作品の記録4 989-1290, 1291-1399][プラスチックケース作品6 1276-1386], ファイル5冊[ファイル作品1 白1-230][ファイル作品2/その他 白231-498][ファイル作品3 白499-723][ファイル作品4 白724-1069][ファイル作品5 白1070-1275]	
吉村弘	個展資料 一式		35mmカラーリバーサルフィルム(マウント付)、紙焼き写真、紙(印刷)、インク				[ファイル「吉村弘の世界 音のかたち かたちの音」展(2005年)図録原稿類]	

館外貸出作品一覧

開催初日が2014年4月1日から2015年3月31日までの展覧会に限る
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1～6	錦木清方《お夏清十郎物語》(6点組)	「追憶の美人 日本画家・錦木清方」佐野美術館(4月5日～5月11日)
2	7	佐藤敬《少年像》	「リニューアル記念特別展 わねこ・猫・ネコ」渋谷区立松濤美術館(4月5日～5月18日)
3	8～49	マルク・シャガール《『ダフニスとクロエ』》(42点組)(望月富昉コレクション)	「マルク・シャガール—版画の奇跡 無限大の色彩」目黒区美術館(4月12日～6月8日)
	50～87	マルク・シャガール《『サーカス』》(38点組)(望月富昉コレクション)	
	88～105	マルク・シャガール《『馬の日記』》(18点組)(望月富昉コレクション)	
4	106	福王寺法林《朝》	「日本画家 福王寺法林回顧展 遺志を継ぐ者 福王寺一彦」鶴岡アートフォーラム(4月26日～5月25日)
5	107	上村松篁《杜若》	「上村松篁展」京都国立近代美術館(5月27日～7月6日)、富山県水墨美術館(7月11日～8月10日)
	108	上村松篁《鶴》	
6	109	山口蓬春《模写・徽宗水仙鶴図》[前期]	「山口蓬春生誕120周年記念展I 蓬春モダンの夏—修復後初公開《十二ヶ月風俗図》とともに」山口蓬春記念館(前期:6月17日～7月13日、後期:7月15日～8月10日)
	110	山口蓬春《スケッチブック(10)》より《ペンギン》[前期]、《山湖》[後期]	
	111	山口蓬春《夏の印象(下図)》[前期]	
	112	山口蓬春《スケッチブック(11)》[後期]	
	113	山口蓬春《鳥(白頭翁)》[後期]	
	114	山口蓬春《青沼スケッチ(1)》[後期]	
	115	山口蓬春《ひまわり一輪》[後期]	
116～117	図書資料(山口蓬春文庫)2点: 『五作家新作画展覧会』より2図《竹秋》《彩鯉》[ともに前期]		
7	118	寄託作品(油彩1点)	「奇なるものへの挑戦 明治大正/異端の科学」岐阜県博物館(7月4日～8月31日)
8	119	片岡球子《面構 東洲斎写楽》	「挑戦する日本画:1950～70年代の画家たち」名古屋美術館(7月5日～8月24日)
	120	片岡球子《面構 葛飾北斎》	
	121	片岡球子《幻想》	
	122	山口蓬春《宴》	
	123	吉岡堅二《群鶴》	
124	若橋英遠《仙》		
9	125	熊谷守一《きんけい鳥》	「守一のいる場所 熊谷守一展」岐阜県美術館(9月5日～10月19日)
10	126	野中ユリ《ナンセンス詩人の肖像 A Round Table Affair》	「20世紀検証シリーズ No.4 種村季弘の眼 迷宮の美術家たち」板橋区立美術館(9月6日～10月19日)
	127	野中ユリ《ナンセンス詩人の肖像 13 Members at Table》	
	128	マックス・クリンガー《『手袋』II.行為》	
	129	マックス・クリンガー《『手袋』VII.不安》	
	130	マックス・クリンガー《『手袋』IX.誘拐》	
	131	マックス・クリンガー《『手袋』X.キュービッド》	
	132	田中岑《陰影—白》	
11	133	田中岑《丘原》	「いろいろ、そうそう—田中岑展」川崎市市民ミュージアム(9月6日～11月3日)
	134	田中岑《ヴェトナム それからI》	
	135	田中岑《ヴェトナム それからII》	
	136	田中岑《女の一生(習作3)》	
	137	田中岑《女の一生(習作5)》	
12	138	河野次郎編集『画学階梯』初編(青木文庫)	「河野次郎と明治・大正の画人ネットワーク」足利市立美術館(9月6日～10月5日)、栃木県立美術館(2015年1月10日～3月22日)
13	139	萩原英雄《石の花(黒)》	「深沢幸雄と萩原英雄の1960年」市原湖畔美術館(9月6日～12月14日)
	140	萩原英雄《石の花(赤)》	
	141	萩原英雄《石の花(灰)》	
	142	萩原英雄《浮游》	
14	143	寄託作品(水彩1点)	「『青雲画士』物語 太平洋に馳せる夢—若き日本人画家たちの冒険と浪漫」丸山晩霞記念館(9月13日～11月3日)
15	144	マルク・シャガール《『ラ・フォンテーヌ寓話集』(9) 狐とこうのとりの》(望月富昉コレクション)	「おいしいアート 食と美術の出会い」横須賀美術館(9月13日～11月3日)
	145	マルク・シャガール《『ラ・フォンテーヌ寓話集』(33) 酔っぱらいとその奥さん》(同上)	
	146	マルク・シャガール《『ラ・フォンテーヌ寓話集』(35) 狐と葡萄》(同上)	
	147	マルク・シャガール《『ラ・フォンテーヌ寓話集』(36) 白鳥と料理人》(同上)	
	148	マルク・シャガール《『ラ・フォンテーヌ寓話集』(81) 主人の食事を首にぶらさげた犬》(同上)	
	149	マルク・シャガール《『ラ・フォンテーヌ寓話集』(82) おどけ者と魚》(同上)	
	150	中谷泰《実らぬ桶》	
16	151	草間彌生《かぼちゃ》	「1974 第2部 1974年—戦後日本美術の転換点」群馬県立近代美術館(9月13日～11月3日)
	152	草間彌生《かぼちゃ軍団》	
	153	草間彌生《畑》	
	154	草間彌生《幻の野》	
	155	保田春彦《街の一隅、閉ざされた祠》	
17	156	李禹煥(From point)	「From All Sides: Tansaekhwa on Abstraction」プラム・アンド・ポー、ロサンゼルス(9月13日～11月8日)
	157	李禹煥《点より》	
18	158	山本鼎《奇路》	「開館記念特別展 山本鼎のすべて」上田市立美術館(10月2日～11月9日)
19	159～174	柚木沙弥郎《夜の絵》(16点組)[第3期]	特別展示「いのちの旗じるし 柚木沙弥郎」岩手県立美術館(常設展第3期:10月4日～2015年1月18日、第4期:2015年1月24日～4月19日)
	175	柚木沙弥郎《型染布(広巾布)》[第3期]	
	176	柚木沙弥郎《型染布》[第3期]	
	177	柚木沙弥郎《萌》[第4期]	
	178	柚木沙弥郎《地紋》[第4期]	
	179	柚木沙弥郎《型染布》[第4期]	
	180	柚木沙弥郎《広巾布》[第3期]	
181	柚木沙弥郎《雉女房(上下巻)》[第4期]		

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)	
20	182	永瀬義郎(沈鐘)(青木文庫)	「永瀬義郎と川上澄生」鹿沼市立川上澄生美術館(10月4日～12月23日)	
	183	永瀬義郎(裸女)(青木文庫)		
21	184	浅井忠(河合辰太郎肖像)	「印刷と美術のあいだーキヨッソーネとフォンタネージと明治の日本」印刷博物館(10月18日～2015年1月12日)	
	185	中村不折(根岸御行松附近夜景)		
	186	山口蓬春(九龍碼頭)		
22	187	山口蓬春(さより)	「山口蓬春生誕120周年記念展Ⅲ 山口蓬春の日本画と写生ー造形の基礎を探る」山口蓬春記念館(10月24日～12月23日)	
	188	山口蓬春(三彩箱(二))		
	189	山口蓬春(飛天大同雲崗第二十洞)		
	190	山口蓬春(波)		
	191	山口蓬春(鉄仙)		
23	192～197	寄託作品(油彩5点、水彩1点)	「没後60年 佐藤哲三展～晩年の風景～」落谷虹児記念館(11月1日～11月30日)	
24	198	高松次郎(世界の壁)	「高松次郎ミステリーズ」東京国立近代美術館(12月2日～2015年3月1日)	
	199	渡辺豊重(かがやけモクモク)	「画業60年 渡辺豊重展」岩手県立美術館(12月20日～2015年2月15日)、川崎市市民ミュージアム(4月4日～6月21日)、栃木県立美術館(7月11日～9月23日)	
	200	渡辺豊重(静物)		
	201	渡辺豊重(自画像)		
	202	渡辺豊重(習作 59-11)		
	203	渡辺豊重(かたち No.701)		
	204	渡辺豊重(かたち No.704)		
	205	渡辺豊重(かたち No.706)		
	206	渡辺豊重(さまざま)(12点)		
	207	渡辺豊重(庭 9.17 I(雨は音を立ててやって来た))		
	208	渡辺豊重(KUNASE(もうすぐ「雷さまがやって来る」))		
	209	渡辺豊重(作品)		
	210	渡辺豊重(作品)		
	211	渡辺豊重(ピクニック(パリ日記))		
212	渡辺豊重(ピクニック(パリ日記))			
213	渡辺豊重(ヤッコシイ会話(パリ日記))			
214	渡辺豊重(赤と緑の会話(パリ日記))			
26	215	片岡球子(火山(浅間山))[後期]	「阪神・淡路大震災から20年」兵庫県立美術館(前期：11月22日～2015年1月14日、後期：1月17日～3月8日)	
	216	本多錦吉郎(中禅寺湖夜景)	「夜の画家たちー蠟燭の光とテネプリスム」ふくやま美術館(2015年1月24日～3月22日)、山梨県立美術館(4月18日～6月14日)	
27	217	中村不折(根岸御行松附近夜景) ※山梨県立美術館のみ貸出		
	218	阿部展也(飢え)		
	219	中谷泰(実らぬ稲)		
28	220	斎藤義重(鬼)	「わが愛憎の画家たち 針生一郎と戦後美術」宮城県美術館(2015年1月31日～3月22日)	
	221	片岡球子(面構 徳川家康公)		
	222	海老原喜之助(友よさらば)		
29	222	海老原喜之助(友よさらば)	「生誕110年 海老原喜之助展ーエスプリと情熱」横須賀美術館(2015年2月7日～4月5日)	
	30	223		藤原吉志子(キャベツ畑で飛ぶ練習をした。うまくいかない…(G.G.マルクス『翼を持った老人』より))
		224		中村岳陵(気球揚がる(下図))
31	225～234	図書資料(山口蓬春文庫)10点：中村芳中[撰]『光琳畫譜』、中野其明[編]『尾形流百圖』上、谷口香嶋[編]『光琳畫譜』、田島志一[編]『審美書院』光琳派畫集』三、『宗達扇面屏風』、竹下弘編『琳派百華譜』第3集、日本美術協会編/審美書院『宗達畫集』、竹下弘編『琳派百華譜』第19集、山中定次郎[序]芸舞堂『時代屏風名畫集』、田島志一編/審美書院『光琳派畫集』1	「山口蓬春の琳派研究ー琳派400年記念によせてー」山口蓬春記念館(2015年3月28日～5月31日)	

当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1	猪熊弦一郎(相模ダム)	「金山康喜のパリー1950年代の日本人画家たち」神奈川県立近代美術館 葉山(2015年1月24日～3月22日)、富山県立近代美術館(5月16日～7月5日)、世田谷美術館(7月18日～9月6日)
	2	古茂田守介(後ろむきの裸婦)	
	3	古茂田守介(裸婦)	
	4	藤田嗣治(掃除婦(『小さな職業人たち』より))	
	5	佐野繁次郎(休憩しているピエロ)	
	6	佐野繁次郎(ニュー1)	
	7	佐野繁次郎(人物・自画像)	
	8	佐野繁次郎(室内)	
	9	佐野繁次郎(生活)	
	10	佐野繁次郎(生活A)	
	11	佐野繁次郎(画家の肖像(死んだ画家))	
	12	佐野繁次郎(パリの街角)	
	13	佐野繁次郎(アンリ・トロシュ画廊 個展ポスター)	
	14	佐藤敬(赤いノートルダム)	
	15	佐藤敬(尖塔のある風景)	
	16	佐藤敬(内部の殻)	
	17	佐藤敬(無題)	
	18	野見山曉治(ノルマンディーの子供)	
	19	田淵安一(母子像)	
	20	田淵安一(モンパルナス風景)	

21	田淵安一《神の手》
22	田淵安一《火神の戦車》
23	田淵安一《女の原形》
24	田淵安一《マンダラ》
25	田淵安一《沼に雨が降る》
26	田淵安一《激流》
27	今井俊満《蝕》
28	堂本尚郎《連続の溶解(5)》
29～33	図書資料(田淵文庫他)5点：金山康喜「佐野繁次郎宛書簡」、佐野繁次郎「田淵安一宛書簡」、「田淵安一の個展への寄せ書き」、「4人の画家—菅井、今井、田淵、ヴァロールス」招待状、「パリの日本人展」パンフレット
34	寄託作品(素描1点)

修復報告

修復報告(1)ーコラージュ

当館研究員 伊藤由美

作者：野中ユリ

作品名：

1)《ナンセンス詩人の肖像 A Round Table Affair》

材料：紙、写真、トレーシングペーパー、セロハンテープ

制作年：1969年

寸法(mm)：修復前315×505

修復後315×505

2)《ナンセンス詩人の肖像 13 Members at Table》

材料：紙、写真、トレーシングペーパー、透明フィルム、セロハンテープ

制作年：1969年

寸法(mm)：修復前293×470

修復後293×470

修復前の所見

両作品とも中厚のケント紙様の紙を台紙として、切り抜き写真、文字をタイプ打ちした紙片を張り付けた不定形帯状のトレーシングペーパーを配置、接着したコラージュ作品である。また、本作品は種村季弘の著書『ナンセンス詩人の肖像』(1969年初版)の口絵の原画である。

切り抜き写真や紙片はペーパーセメントのようなゴム系の接着剤を用いて接着されたと思われ、褐色化し接着力も弱っている。そのためコラージュ部材の周辺は浮き上がりや剥落しかけている箇所が見られる。また接着剤の変色が写真の表側にまで及んでいる箇所も見られる。特に《ナンセンス詩人の肖像 A Round Table Affair》に顕著に見られる。トレーシングペーパーは台紙上辺に沿った位置に、両端をセロハンテープで固定してある。《ナンセンス詩人の肖像 13 Members at Table》については、貼付した切り抜き写真の上から台紙の大ききの透明フィルムで全体を被い、その上にトレーシングペーパーを固定している。トレーシングペーパー、セロハンテープは経年により酸化黄変している。透明フィルムはやや硬さのあるポリエステルフィルムと思われ、台紙上辺の縁にセロハンテープで固定されている。セロハンテープは黄化と劣化がみられ、接着力も落ちている。処置前のマット装においては、マット台紙としている厚紙に作品をマス

キングテープで固定しているが、作品裏面の周辺部12箇所に、当初の固定に使用された接着剤痕があり、接着剤は褐色化しその変色痕は表面にまで及んでいる。

修復処置

2点とも、同様の損傷が生じており、概ね同様の処置を行った。

1. 刷毛、ケミカルスポンジで埃を除去した。
2. 写真や紙片の浮き上がりをメチルセルロースで接着した。
3. 作品台紙裏面の表層に残っている接着剤痕は有機溶剤のテトラヒドロフランを用い除去した。紙に染み込んだ接着剤の変色痕は、溶剤や吸着剤などで除去を試みたが、コラージュ部材の位置の重なりや接着の弱さがあり、修復作業の動きが作品に及ぼす影響を鑑みて軽減処置に留めた。
4. 《13 Members at Table》の透明フィルムやコラージュ部材を固定に使用しているセロハンテープに関しては、劣化が進んでいたがテープ基材の耐久性が残っていると判断し、除去はせずにオリジナルのテープは残し、BEVA371(エチレン・酢酸ビニル共重合樹脂型接着剤)シートを用いて接着の改善を図った。
5. 新調したブック型マットに固定し、アクリル保護板付きオリジナル額に納めた。

修復後の所見

本作品は制作から半世紀近くを経ており、セロハンテープやペーパーセメントのような、材料の経年劣化やそれに伴う接着力の低下、変色を免れない素材を使用した作品に起こりうる問題が顕著に現れている。

剥落しかけたコラージュの部材などは接着強化により、安定した状態になった。しかし、接着剤の変色痕除去の程度については視覚的な要素よりは作品保護を優先させた。また、セロハンテープは作品というよりは固定のための補助材であるが、作品の時代性や作家の制作工程を反映させる資料としてオリジナルの重要な要素でもあるので、接着力を持たせる処置をして残すことにした。

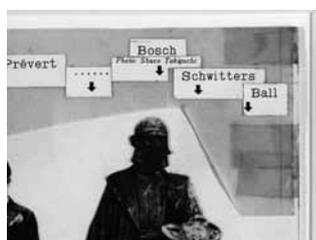
作品の材料劣化とオリジナル性の尊重については、資料的価値、鑑賞、保存上の問題において時として相容れない要素もあるが、修復に際しては慎重に検討する必要がある。本作品はその良い例といえる。



1. 《A Round Table Affair》修復前



2. 《A Round Table Affair》修復前 裏面 接着剤の変色と旧マット装の固定用マスキングテープが見られる



3. トレーシングペーパーやセロハンテープが経年劣化で変色している



4. 接着剤の変色がコラージュ部材の表面にも及んでいる



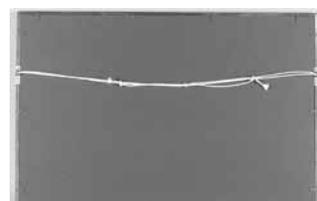
5. 修復後



6. 修復後 裏面 旧接着剤は表層のみを除去した



7. 修復後 額装



8. 修復後 額装裏面



9. 《13 Members at Table》修復後 コラージュ部材の表面にも接着剤の変色が見られる



10. 《13 Members at Table》修復後 裏面

修復報告(2)―版画集

紙・本保存修復 米倉乙世

作者名：ジョルジュ・ルオー、(ROUAULT, Georges)

作品名：《パッション(passion)》

種類：版画集(彩色銅版画17点・木版画82点)

材質：表紙、本紙共に紙(手漉きの洋紙と思われる)

刊行年：1939年

点数：1冊

付属品：桐箱・厚紙製タトウ・カバー

寸法(mm)：(本紙外寸)縦448×横342×厚49

修復前後で変化なし

(タトウ)縦463×横351×厚67

修復前の状態

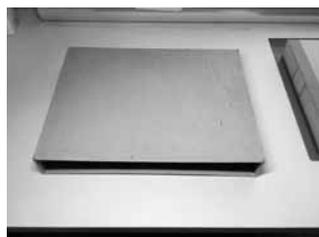
厚紙製のタトウ(ブックケース)に入った状態で桐箱に入れて保管されている。桐箱とタトウのサイズに隙間があるため、中で作品(版画集)が動くので傷む可能性がある。タトウは全体に汚れており、所々紙がめくれている。厚紙のカバーが目立った損傷は見られない。作品の紙製の表紙は全体に汚れと黄変が見られ、背表紙部分が大きく破れている。本紙と表紙は背表紙部分で膠によって接着されているが、本紙の重さと表紙の脆弱さのため背表紙が破れたと推測される。また、本紙の綴じ糸が部分的に切れており製本の形態を保っていない。紙のpHは5で酸性よりであった。

処置の立案

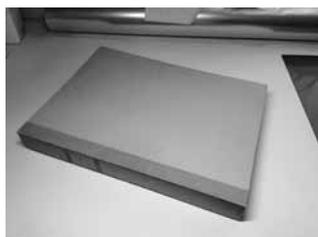
桐箱から作品を出し入れする際の不便さを解消するため、桐箱の内側を加工する。タトウ、カバーは汚れを除去し損傷を繕う。作品は綴じ直し、ブックキーパースプレーで脱酸処置する。表紙は洗浄し汚れと黄変を除去した後脱酸処置をし、背表紙の破れを内側から繕う。

施工処置

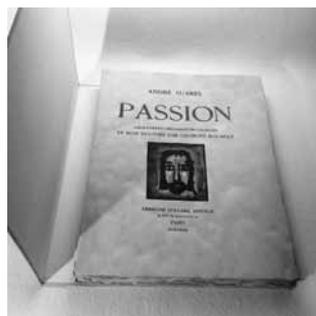
1. 厚紙製タトウ、厚紙製カバー共に練り消しゴムでドライクリーニングをした。
2. 厚紙製カバーの損傷部分を小麦粉澱粉糊で繕った。



1. 厚紙製のタトウ(ブックケース)



2. 厚紙製のカバー



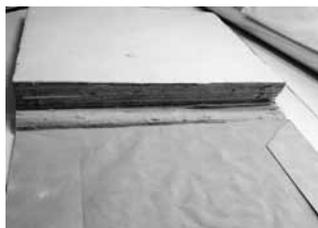
3. 画集と厚紙製のカバー



4. 表紙の背表紙部分が破れている



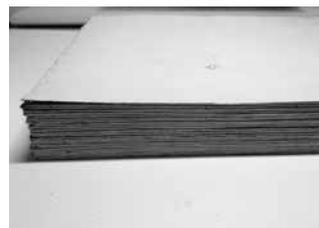
5. 綴じ糸が切れ、折り丁同士の接続が外れている



6. 表紙を剥がした状態 背表紙部分に残留した古い膠層がある



7. 綴じ糸を除去した



8. 背表紙に残留した膠層を除去し、クリーニングした

3. 作品の表紙を本紙から取り外した。本紙の背に残留した古い膠層をメスで除去した。
4. 綴じ糸を除去し、部分的に折り丁を繕い、オリジナルに近い太さ、材質の麻糸で綴じ直した。今後の保管に耐えうる強度にするため、綴じ方を少し変えた(詳細は図1.~4.を参照)。綴じ穴は極力、修復前のものを生かした。綴じ直した後、背全体を薄い楮で補強した。修復前と同様に、背の部分で本紙と表紙を接着すると本紙の重さによって再度背表紙が損傷する可能性があること、今後の使用に大きな支障はないため、接着の必要はないと判断した。
5. 作品の全てのページをブックキーパースプレーで脱酸処置した。pH5からpH7になり中性となった。
6. 表紙を濾過水で浸漬洗浄した後、水酸化カルシウム水溶液で脱酸処置をした。pH5からpH7になった。フラットニングのため吸取紙の間に挟み重しをして、吸取紙を取り替えて加圧乾燥した。
7. 表紙の破れた箇所を楮と小麦粉澱粉糊で内側から裏打ちした。
8. 桐箱の内側を加工した。中性のアーカイバルボードで、桐箱とタトウの隙間が埋まる程度の厚みで内側に丁度入る四角い箱状の入れ物を作製しはめ込んだ。
9. 中性のボードを布で包み真田紐(線製平テープ)の持ち手をつけたトレイを作製しその中に作品を入れ、出し入れの際はトレイごと引き上げられるようにした。
10. 作品を包んでいた風呂敷を洗浄した。

修復後の所見

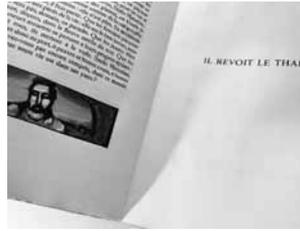
表紙を洗浄、脱酸することで紙の色調が明るくなった。表紙損傷箇所を内側から繕ったため取り扱いが容易になった。また、表紙の背表紙箇所と本紙背表紙を接着していない事により、今後の取り扱い時における表紙損傷のリスクを回避できると思われる。

本紙綴じ方を変更し背表紙側の折り丁の連結を2箇所から4箇所に増やしたため、ページの開閉時の背にかかる負担が軽減した。本紙の酸性化に対する処置としてブックキーパースプレーによる脱酸により、紙への負担、作業時間とコストをかなり軽減できた。

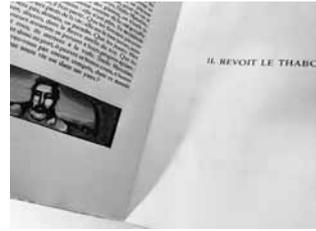
桐箱の内側を加工し、本のサイズと箱内寸の隙間を埋め、取り出す時に本を水平に持ち上げるトレイを作製することで、運搬時と取り扱い時の安全性が高まった。



9. 綴じ直した後



10. 修復前の綴じ(折り丁の内側)



11. 修復後の綴じ(折り丁の内側)

図1. (修復前の綴じの連結図解: 背表紙側)



折り丁が両端しか連結していない

図2. (修復後の綴じの連結図解: 背表紙側)



折り丁が4カ所で連結しており本の強度がある

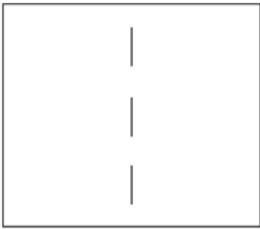


図3. (修復前の綴じの図解: 折り丁の内側)

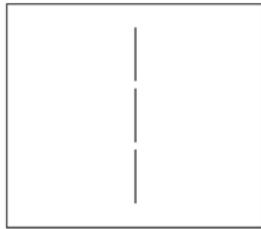


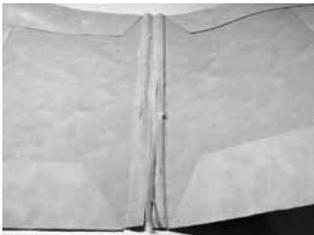
図4. (修復後の綴じの図解: 折り丁の内側)



12. 表紙を洗浄: 1回目の廃液



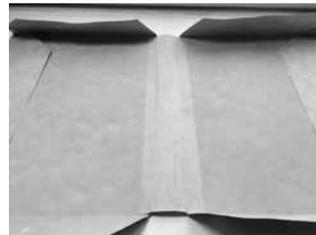
13. 表紙洗浄2回目の廃液→透明になるまで洗浄をくり前した。



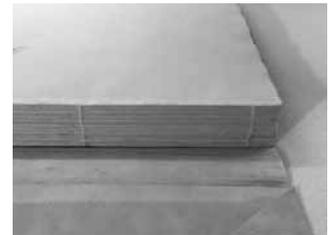
14. 洗浄、脱酸処置前の表紙内側



15. 洗浄、脱酸処置後、加圧乾燥した後の表紙内側



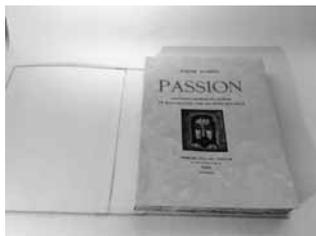
16. 背表紙部分を内側から裏打ちした



17. 本紙の背を楕と小麦粉澱粉糊で補強した。表紙とは接着しなかった



18. 修復後の背表紙側



19. 修復後の表紙



20. 加工した桐箱内側



21. 作品を乗せるトレイ



22. 桐箱の内側にアーカイバルボードの箱をはめ込む



23. トレイに作品を乗せた状態



24. 桐箱に全てを収納した状態

2014年度 修復作品一覧

*外部委託による修復は受託者を記した。標記のないものは当館修復担当者による。

作家名	作品名	寸法(mm) h×w	制作年	種別	修復者、備考
不詳	浄土曼荼羅変相之図	2234×1475	不詳	日本画	瑤春堂有限会社
牛田雞村	はこねの山	1182×1463	1922	日本画	増田絵画修復工房
ジョルジュ・ルオー	パッション	463×351×67	1935	版画集	米倉乙世
シルヴィア・ミニオ=バルウエルロ・保田	青空と鳥など 他2点[シートNo.69]	495×680	不詳	素描・水彩画など	
シルヴィア・ミニオ=バルウエルロ・保田	鳥(カラス) 他2点[シートNo.72]	505×663	不詳	素描・水彩画など	
野中ユリ	ナンセンス詩人の肖像 13 Members at Table	293×474	1969	コラージュ	
野中ユリ	ナンセンス詩人の肖像 A Round Table Affair	315×505	1969	コラージュ	
本多錦吉郎	相州鎌倉由井濱	253×355	1896	水彩画	
鳥海青児	顔に彩色のある埴輪	326×254	1959	水彩画	
西雅秋	大地の雌型より 「吉明丸」のフロッタージュ	4950×1500	2005	フロッタージュ	
田淵安一	習作 空一土	340×305	1955	水彩画	
田淵安一	芽吹く核一海の中で(2点組)	80×185; 10×184	1955	水彩画	
田淵安一	聖なる山	440×215	1955	水彩画	
田淵安一	火の大地	470×619	1955	水彩画	
田淵安一	昼の月(3点組)	138×85; 170×89; 130×84	1955	水彩画	
田淵安一	無題	763×573	1987	水彩画	
田淵安一	モンパルナッス風景	242×332	1954	油彩画	
四谷十三雄	人物	1160×908	1960頃	油彩画	
渡辺豊重	静物	910×1165	1958	油彩画	
渡辺豊重	習作 59-11	530×455	1959	油彩画	
渡辺豊重	自画像	910×731	1958	油彩画	
野見山暁治	ノルマンディの子供	728×540	1955	油彩画	
岡本半三	腰をおろす(横向)	1000×807	1958	油彩画	
岡本半三	パルテノン	727×1168	1956	油彩画	(個人蔵) 「金山康喜のバリ」展出品のための修復
岡本半三	ラ・テュルビ	1166×910	1954	油彩画	
岡本半三	トロノーエン(ブルターニュの教会)	807×998	1955	油彩画	

研究・調査報告

佐野繁次郎宛 金山康喜書簡 再考

橋 秀文

筆者は2011年度の年報のなかで佐野繁次郎宛金山康喜の書簡を一通紹介した^{註1)}。この書簡は、二人の画家に関することや1950年代当時のパリの日本人画家の状況など多くの情報を提供してくれ、とても貴重な資料であることをわれわれに教えてくれた。それから3年経つ間に、「金山康喜のパリ」展を企画する中で、同書簡の解釈を誤ったことに気がついたり、新しい発見があったりしたことから、再度、検討し、以前の考察に加筆、修正するというのが今回の報告の目的である。

まずはじめに、書簡の全文を掲載する。

[1枚目]

謹啓

前後二回に亘る御便り嬉しく拝見いたしました。カフェドラベイで佐野さんに御馳走になりそこねて残念です。それにしても第一のお便りの中に見えます「その買上げ書を紙はさみにはさんでそれを見せて、……」云々のくだりはまことに文中白眉とも申すべく、サノ・レアリスムでありまして、そのあまりにリアルなので実行する気が起こりません。何だかカフェでヴァンプランでも飲みながら佐野先生のお色気話を拝聴している様なものがあります。

今、毎日新聞から毎日新聞を送って来ました。どうせ例の買上事件が出ているものと覚悟しながら開いてみると、案定、覚悟していましたが、それよりも大げさに出ているので閉口であります。とたんに憂うつで何事もおっくうです佐野先生も苦い顔して居られると思ふと二重に憂うつです「ルーブル入り」等といふに至っては全く小生の知らない事です。外に書きようがないのでせうか。いつか新聞の人にお会いになりましたら、この買上げの意味、本当の所も説明していただければ幸いです。併しうちのおやじがこの新聞見たら少しは小生の絵を尊重してくれるかも知れんといふたった一つの利点がある

[2枚目]

だけで他は全く閉口です。もしこの新聞記事お目に止りましたら、「有田ドラッグ」の広告でも見るつもりでお見逃しください。但しこの誇大広告は小生の責任ではありません。

といふわけですすっかり憂うつでおっくうになりましたから今日はこれで失礼致します。

巴里はこの所、一週間といふもの、街中霧だらけ夜等三米先が見えません。今はよくダンフェール迄、モンソー公園を通過して散歩します。ダンフェールの交差点の便所となりマロン屋が店を出ています。小生は目下炭火の焔を静物の中に採用するため焔の状態を観察かたがた栗をよく買求に行きます。併し大抵は計畫倒れでこの静物画失敗してす。

それでは又お便りします。

敬具

金山康喜

佐野先生

[パリ1953年11月17日消印、東京1953年11月24日消印]

Monsieur S.SANO

chez PAPILIO

145, Azabuhonmura-cho

Minato-ku

Tokio

Japon

Exp. Y.Kanayama

Maison du Japon

9.Bd Jourdan

Paris 14ème

France

上記の書簡中、第2節の内容に筆者の解釈の誤りがあったので修正したい。

「今、毎日新聞から毎日新聞を送って来ました。(中略)といふわけですっかり憂うつでおっくうになりましたから今日はこれで失礼致します。」の部分である。この文面に対して、筆者は、2011年度の年報で、「毎日新聞の記事というのは、1953年11月17日付の『フランス文部省に買上げられた金山康喜氏の作品』の記事のことである。」^{註2)}と解釈を加えた。しかし、「パリ1953年11月17日消印、東京1953年11月24日消印」となっている封筒の消印を見れば、筆者の考えは誤りであったことに気付く。この書簡をパリで投函した日が11月17日であるのだから、問題にしなければならない毎日新聞は、11月17日より1週間ほど前のものでなくては話が成り立たない。この11月17日付の毎日新聞(大阪版)の見出しが「フランス文部省に買上げられた金山康喜氏の作品」となっており、この記事を読んでも、金山にしてみたらやはりこれは違うつぶやいたことだろう。実際には、それよりも8日前に発行された11月9日付の毎日新聞の記事が該当するのであり、見出しは「気をはく若き留学日本画家 フランス文部省が買上げ 金山君の作品 将来は“ルーブル入り”」であった^{註3)}。11月9日と17日の記事の内容がほとんど一緒なのは、同じ毎日新聞で同一人物が書いたと思われるからだ。パリに来て初めて新聞で取り上げられたのは、1952年11月にサロン・ドートンヌに初入選したときで、「サン写真新聞」にカメラマンの阿部徹雄撮影による入選作《アイロンのある静物》の前に立つ金山の姿が写った写真が掲載された。金山は初入選して穏やかにカメラの方を見つめている^{註4)}。ただ、今回のフランス国買い上げということが、展覧会に入選するということと意味合いが違うことに対して毎日新聞を見た日本の読者の目にどのように映るか、おそらく誤解されるであろうことに、金山は複雑な心境になったわけである。手紙だけを読むと金山をこれだけ憤らせているのだから、この記事を書いた記者は、美術ないしパリの美術界のことをそれほど認識していなかったのかと訝しがってしまう。

そこで毎日新聞の記事を書いたのが誰なのかという疑問が生じる。無論、美術にかかわる記者が記事を書いたのであろうが、記事を見る限り署名がない。ここで、金山康喜の記事や文章を多数書いた毎日新聞の美術記者だった船戸洪吉の存在が浮かびあがってくる。

しかし、迂闊にも今頃になって船戸の原稿を読み直してみ、記事を書いたのが船戸自身であることに気がついた。金山の追悼のために作られた金山康喜遺作展編集委員会編『金山康喜』画集(1960、求龍堂)の中に寄せた船戸の文章の中で、彼は次のように述べている。「彼(金山)がサロン・ドートンヌに出品した絵がパリ近代美術館に買上げられた、という

註2) 前掲(註1)、51頁。

註3) 「気をはく若き留学日本画家」『毎日新聞』1953年11月9日付と「フランス文部省に買上げられた金山康喜氏の作品」『毎日新聞』1953年11月17日付の記事を比較すると、内容がほとんど同じであることが分かる。

註4) 『金山康喜のパリー-1950年代の日本人画家たち』展図録、2015年、187頁。

註1) 拙論「一通の手紙から伝わる年齢差を越えた友情 資料紹介：佐野繁次郎宛金山康喜書簡」『神奈川県立近代美術館 年報2011年度』2013年、50-52頁参照。

手紙と一緒に作品のカラー・スライドが送られてきた。私はそれを記事にした。“扱いが大きすぎて、パリの一小事を天下の毎日新聞が四段見出しとは、いささか…”といった手紙が、私の送った掲載紙と引替えに来た。」註5)

この金山と船戸のやり取りはわれわれに奇妙な感じを与える。

先に引用した記事を書いたのは船戸であり、その記事を書かせるきっかけを作ったのは、金山本人であったというのに、記事が書かれると金山は憤りをみせている。こうしたことを見ただけでも、金山は、一筋縄ではない、繊細で気難しい性格の持ち主であったようだ。

金山としては、買い上げになったことが誇らしくもあつただろう。ただ、現状報告のつもりでも、以前付き合ひのあつた船戸に送った手紙とカラー・スライドが、このような形で日本の新聞に大々的に報じられるとは思ひもよらなかったのであろうか。実は金山がカラー・スライドを添えて手紙を送った人は、船戸一人ではなく数人にのぼる。その一人に恩師猪熊弦一郎がいた。その手紙は1953年11月3日付でパリから送られた。以下、引用する。「……どうした風の吹き廻しか フランス文部省によって国家買上げとなり 此の程 面倒な手続が漸く終り、この絵を近代美術館の下の倉庫に取めて来ました。倉庫に入ったからには当日の目を、或いは永久におくら入りで、見る事が出来ないかとも思いますのでこのスライドを記念にお送りいたします。」とあり、この手紙は現在、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に所蔵されている註6)。おそらく10月末から11月上旬に船戸にもカラー・スライドを添えて手紙を送ったことであろう。金山にしてみれば、親しい人たちにこの買い上げの事実を知っておいてもらいたかっただけだったのだ。複数の友人・知人に送ったスライドをみて、たまたま新聞記者だった船戸が記者魂に火がついて記事にしたと判断したい。

ただ、後年の1958年、金山が帰国し船戸と再会した時に、件の毎日新聞の記事について話題に上つたのであろうか。画家とその画業を評価する新聞記者との関係とはこのようなものなのか。

船戸洪吉が、金山康喜と初めて出会つたのはいつ頃であつたか。美術記者の船戸は、1952年3月10日から9月までの約7カ月間フランスやイタリアそれに周辺諸国を取材旅行している。記事が出た1953年11月には、船戸はすでに日本に戻っていたが、フランス滞在中に金山と交流はあつた。船戸の『画壇 美術記者の手記』(1957年、美術出版社)を見ると、1952年の渡欧に当たっては、ただの視察旅行だけではなく、毎日新聞社の社員として、フランスで開催されたサロン・ド・メの日本人画家の作品展示を主導したという註7)。

日本でのサロン・ド・メという、1951年2月に毎日新聞主催で日本橋高島屋において「現代フランス美術展 サロン・ド・メ日本展」が開催されている。これはその名の通り、当時の現代フランス画壇で活躍していたクートーやマネシエといった半具象半抽象の画家たちが主体となつた作品を選抜して日本に紹介した展覧会である。2月に開催されたこの展覧会をこの年の5月に日本を発つて6月にパリに到着した金山もおそらく日本で見ていたことであろう。ところで、日本で開催された「サロン・ド・メ展」というと1951年のものが知られているが、翌年の1952年1月にもやはり毎日新聞

主催で日本橋高島屋において「サロン・ド・メ展」が開催されている。同展には日本人画家も加わっており、その後、5月9日から当時セヌ河岸に面したところにあつたパリ国立近代美術館で開催されたパリでの「サロン・ド・メ展」では、日本人画家の作品のために一室が与えられ展示された。この年の同展の出品作家に関しては1950年に協議されていたとのことで、パリで開催される「サロン・ド・メ展」の外国セクションに日本が招待されたというものである。外国セクションとしては、日本以外にブラジル、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンが選ばれていた。そして、フランス在住の日本人画家のなかでは、荻須高德がフランス部の中に出選されていた。ちなみにその時選抜された日本人画家たちとは、梅原龍三郎、安井曾太郎以外1900年以降に生まれた麻生三郎ら19名の洋画家たちであつた註8)。

このときにパリ滞在中の船戸は、荻須高德、佐野繁次郎の中堅に加え、金山や田淵安一、西村計雄といった若い日本人画家たちの手を借りて、「サロン・ド・メ展」の日本人画家の部屋の展示を行ったというのである。つまり、金山は、フランスで行われた同展に出品する画家の側ではなく、展示を手伝う人手の一人であつた。

*

本格的に絵を描くというときの“本格”という形容詞は、金山に関しては、なかなか意味深長なものがある。日本にいたときから彼はすでに新制作派の展覧会に出品し新人賞をとっている。経済学を研究するためにパリに留学したとはいえ、それはほとんど名目上のことで、絵を描くことが主体の生活を送っていたようだし、パリでの生活を始めてから翌年には「アンデパンダン展」や「サロン・ドートンヌ展」に出品し、後者ではすでに初入選している。結核を患い療養生活を強いられその後退院して1957年にいよいよ本格的に絵を描き始めるというのもおかしな話である。ただ、画家と呼ぶにしても、筆一本で生活ができたかどうか、経済的なことで判断すれば、やはりフランスに来た当初は留学生であり、親からの仕送りだけでなく、上述の船戸の「サロン・ド・メ展」の手伝いなどにしても、何がしかの手当てをもらうなどしてパリでの創作活動を送っていたのであろう。そのことを念頭に入れながら、金山の画歴を1958年の文藝春秋画廊の最後の個展に至るまで見ていきたい。1951年の6月にパリにつき、半年後の12月に一緒に船でパリにやってきた関口俊吾、田淵安一との3人展を宿舎のあるシテ・ユニヴェルシテール(日本館)の中央ホールで開いている。1952年5月に、「サロン・ド・メ展」で船戸の手伝いをしながら「アンデパンダン展」に出品している。そして、同年の11月「サロン・ドートンヌ展」に早くも《アイロンのある静物》が初入選している。もう一点の《静物》は落選したが、この《静物》こそ、翌年の「サロン・ドートンヌ展」に再度出品して、フランス国買い上げとなつたものであり、件の手紙で問題になっている作品であつた。あとは、「パリ青年絵画展」に出品。1954年にも「パリ青年絵画展」「アンデパンダン展」「サロン・ドートンヌ展」と繰り返しグループ展に出品している。彼はやはり、公募展で入選を繰り返すことで頭角を現そうと考えていたのだろう。

続く年譜の1954年1月の項をみると、「この頃、個展を開きたい気持ちに駆られる」とある。そのようなおりに、交通事故と結核という不運が彼を続けて襲うことになる註9)。入院しているときも、過去に描いた作品を他人

註5) 金山康喜遺作展委員会編『金山康喜』、1960年、47頁。毎日新聞美術担当記者船戸洪(吉)が最初に金山と知り合つたのは、画家が1950年の新制作派協会展に《食前の祈り》を出品した時であつたと回想している。1951年に金山が渡仏する時に、彼が船戸に、自作の《食前の祈り》と《支那鍋のある静物》を置いていったという。画家と美術記者の関係以上に親しい関係になっていたようであり、職業柄船戸が金山の作品がフランス国買い上げになった時に記事にしたことで軋轢が生じたように思われるのも、金山の繊細さをよく表したエピソードと捉えるべきものなのかも知れない。

註6) この手紙の一部分が、2015年1月から9月にかけて開催された「金山康喜のパリ展」の図録(神奈川県立近代美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館、東京新聞共催)に掲載され、筆者はそこに掲載された部分抜粋から引用した。また、金山康喜の所蔵していたカラー・ポジについては、同図録所収の渡辺希利子「金山康喜の遺品調査を終えて」174-178頁を参照のこと。

註7) 船戸洪吉『画壇 美術記者の手記』1957年、美術出版社、248-258頁。船戸洪吉の1952年のヨーロッパ視察旅行それに同年のパリでのサロン・ド・メ展の日本人画家たちの展示に関して詳細に記されている。

註8) 同掲(註7)、251頁。出品された画家の名前を列挙しておく。麻生三郎、海老原喜之助、林武、猪熊弦一郎、川端実、香月泰男、駒井哲郎、三岸節子、森芳雄、棟方志功、村井正誠、岡本太郎、大沢昌助、岡鹿之助、梅原龍三郎、脇田和、山口薫、安井曾太郎、吉原治良の19名である。

註9) 同掲(註4)所収の金山康喜の年譜の1954年の項をみると結核になる前に交通事故に遭っていることとある。その直後と思われるが、モンパルナス、ドランプル街22番地の菅井波のアトリエに毎日のように通っている。菅井自身の回想を引用してみる。「菅井波の絵を、金山博士が診察に来ました」と言つて毎午前中、日課のように私のアトリエに立寄り、前日の私の仕事の進行状態を見て、私と共に喜んだり、真剣に考えこんだりしていたのは、それは、あなたの健康はすぐれず、そのために思うように制作もはかどらず、私のアトリエに来ることによって、自分も毎日、絵にかかわつた仕事を続けているという、あなた自身の気持ちごまかしだつたとも考えられます」(1984年に富山県立近代美術館で開催された「金山康喜、菅井波、田淵安一、野見山暁治」展図録所収の菅井波「金山康喜への手紙」からの引用)。交通事故に遭つたといっても絶対安静

に頼んでグループ展に出品している。しかし、病床にあった金山には欲求不満がたまったことであろう。年譜を基に、様々な情報を組み込むことで、その当時の金山の動向をより現実に近い状況にまで浮き上がらせることが可能になるだろう。従来、金山にとって1954年というのは、交通事故や結核で入院生活が重なり、散々な年であったと思われるが、本稿にあたり、金山と日本館で一緒だった友人で画家の岡本半三旧蔵の写真2枚(図1, 2)をご遺族から提供していただいた。これらの写真の裏には、ともに「Orléans 18 4 54」と記されている。1954年4月18日オルレアンにてということである。オルレアンは、パリの南に約100キロのロワール河沿いに位置し、車で2時間ほどのところにある古い町である。2枚の写真には4, 5人の男女が写っており、その中に、金山や岡本も入っている。(図1)では、ロワール河沿いで昼食をとる彼らの姿が捉えられ、右手前に金山の姿が映り、その奥の眼鏡をかけた人物が岡本である。(図2)の左端の人物が金山で、右端が岡本である。とくに金山に関していえば5月に結核で入院する男とも思われぬくらいに元気な姿で写っている。結核イコール瀕死の状態と思いがちであるが、現実の姿もこれらの写真を通して確認できる。いずれにしても、この年に金山は闘病生活を余儀なくされたのである。1954年の5月に開催された「アンデパンダン展」には、知人に手続きをしてもらって《静物》を2点出品している。そのうちの一点が岡本半三旧蔵の《静物[コーヒーポットのある静物]》(図3)で、ご遺族から当館に寄贈されたものである。この作品は、画集『金山康喜』の27頁No.31の《静物》として掲載されているもので、編集上の問題からか、「アンデパンダン展」出品当時の



3. 金山康喜《静物[コーヒーポットのある静物]》1954年(1955年から1956年にかけて加筆)、油彩、カンヴァス、神奈川県立近代美術館蔵



4. 金山康喜《静物[コーヒーポットのある静物]》の最初の画像



1. オルレアンのロワール河沿いで食事をとる金山康喜(右手前)、岡本半三(その後ろ)。1954年4月18日



2. オルレアンのロワール河沿いで食事をとる金山康喜(左端)、岡本半三(右端)ら。1954年4月18日

ですつと入院していたというわけではなく、一見平常の健康体のようであったが、やはり体調不良で自分の創作活動に集中できない日々が続いていたと考えることができる。ただ、結核に罹ってもオルレアンの写真を見る限りわれわれの眼には普通に振る舞う姿でしか映らないようだ。

画像がそのまま掲載されている。同展終了後、作品は作家の元に戻されたのであるが、金山は、結核療養が終わって退院したのち、つまり1955年の9月10日以降、加筆修正しようとしたのであった。結果として完成されたのか未完のままなのか定かではないが、この作品は、そのまま友人の岡本に譲渡された^{註10)}。金山も岡本も1956年に日本館を別々に引き払うが、その折に金山は岡本にこの作品を手渡したものと思われる。

《静物[コーヒーポットのある静物]》の当初の画像(図4)と現在の画像(図3)を比較すると、特に画面右奥の一脚の椅子の背もたれの部分を消去しようとしたようである。さらにその上の背景に修正を試みている。金山にしてみれば、フランス国作品買い上げ後の次に続けて満足のいく作品を描こうという意欲に満ちていた時期であったはずだ。この静物は、フランス国買い上げの作品から一連の構図をもって描かれ続けたと考えられる。画面の中央にテーブルがあり、籐の椅子のようなものが誇張して描かれている。天井から裸電球がぶら下がってくるのは、《アイロンのある静物》(1952)からのものである。

1954年6月上旬、すでに結核で入院している時期にキャトル・ヴァン・クラブで「日本人青年画家作品展」が開催され、日本館の仲間であった岡本半三、田淵安一、戸田吉三郎、野見山暁治と一緒に金山の作品が出品されている。

同年11月には、結核で8月からサナトリウムに長期入院していたこともあり、6月に「日本人青年画家作品展」で出品された同じ静物画が2点、西ドイツのレーヴァークーゼン市立美術館で開催された「パリの日本人展」(1954年11月22日-1955年1月22日)に出品されている。彼が入院中に友人たちが公募展などに作品を出品する手続きをしてくれたわけである。1955年9月10日に金山はサナトリウムを退院する。入院から1年半後のことであり、28から29歳という自由を謳歌したい時期であった。

そして、金山は1956年4月、日本館から通えるところにアトリエを借り、7月には、寄宿舎から出た。この年は、友人の岡本も日本館からオテル・ロ

註10) 2000年に富山県立近代美術館と小田急美術館で開催された「金山康喜展」図録105頁No.81《静物[コーヒーポットのある静物]》の解説を参照。なお、この作品については、岡本の帰国に際して、金山が与えたという話も伝わっているが、金山は1958年に帰国し、岡本が翌年に帰国していることから話の辻褄が合わなくなる。日本館を離れるに際して、金山が岡本にこの絵を与えたと考えた方が自然だ。



5. 個展会場・文藝春秋画廊での金山康喜 1959年



6. 金山康喜《アイロンのある静物》1952年、油彩、カンヴァス、東京国立近代美術館蔵



7. 金山康喜《静物M[水差しのある静物]》1955年、油彩、カンヴァス、個人蔵



8. 金山康喜《静物V[水差しのある静物]》1956年、油彩、カンヴァス、富山電気ビルディング株式会社蔵



9. 金山康喜《静物O[鏡の前の静物]》1956年、油彩、カンヴァス、富山県立近代美術館蔵



10. 金山康喜《静物[ドアとテーブル上の静物]》1956年、油彩、カンヴァス、中越バルブ工業株式会社蔵



11. 金山康喜《静物[天秤のある静物]》1958年、油彩、カンヴァス、個人蔵



12. 金山康喜《静物[煙草とマッチのある静物]》1958年、油彩、カンヴァス、個人蔵

一モンドに引っ越している。1951年6月に金山、田淵が日本館に寄宿し、1953年1月に野見山、岡本らも入居したが、5、6年するとみな本格的なアトリエを持つため、日本館を出ている。

1957年から1958年にかけての金山は、体調があまり良くなかっただろうし、さらに焦りもあったと思われる。そして、いろいろなめぐり合わせから、帰国して個展を開催することになっていく。1957年9月に帰国し、翌年の3月24日から4月5日まで銀座の文藝春秋画廊で個展を開催するのだが、その個展には、倍以上の作品を展示できたであろうに、たった7点というさびしすぎる点数しか飾られなかった。

このときの出品リストが残っておらず、出品作7点がどの作品だったのか、今もってすべてを確認することができない。ただ、2000年の「金山康喜展」の図録の出品リストには、展覧会歴が掲載されているものがあり、一部出品作が判明する(註11)。つまり同展出品番号No.85《静物O[鏡の前の静物]》(1956)、No.86《静物V[水差しのある静物]》(1956)、No.87《静物[ドアとテーブル上の静物]》(1956)、No.94《静物P[天秤のある静物]》(1958)の4点ということになる。

註11) 前掲(註10)の出品リストを参照。凡例によると展覧会歴は、主要な初出品展覧会歴を記載したことになっている。1959年の文藝春秋画廊の個展出品作として4点が記載されている。4点とは、同展出品番号のNo.85《静物O[鏡の前の静物]》、No.86《静物V[水差しのある静物]》、No.87《静物[ドアとテーブル上の静物]》、No.94《静物P[天秤のある静物]》である。

したがって残りは当時の美術批評や会場写真などから判断するしかない。まず、金山の生前からのよき理解者であった美術評論家の今泉篤男は展覧会評で「個展には、1952年、3年の比較的旧作も2、3点混じっていたが、大体が1958、9年の新作であった。7点の出品作は、点数としても多くないし…」と述べている註12)。

残された文藝春秋画廊の会場の写真(図5)を見ると《アイロンのある静物》(1952)が見られる。また、《静物P[天秤のある静物]》(1958)、《静物V[水差しのある静物]》(1956)がある。また、この個展で個人によって購入されたのが、《静物M[水差しのある静物]》(1955年)である。この作品は『金山康喜』画集所収の田村泰次郎の文章の中で「文春画廊の個展にだした牛乳びんの絵」と述べているものである註13)。また、針生一郎の展覧会評の文章註14)に掲載された図版に《静物[煙草とマッチのある静物]》

註12) 『みづゑ』No.648 1959年5月、66頁。

註13) 前掲(註5)(1960年)44-45頁。

註14) 『藝術新潮』1959年5月、213頁。

(1958)があり、これも出品されたと考えていい。ちなみに、針生の記事に掲載された図像は3点で、それ以外の2点は、《アイロンのある静物》(1952)と《静物P[天秤のある静物]》(1958)であった。そして、これで、5点になる。残り2点は2000年の「金山康喜展」図録の出品リストから判明しており、《静物O[鏡の前の静物]》(1956)、《静物[ドアとテーブルの上の静物]》(1956)の2点が該当する。

改めて制作年順に並べてみると、1952年の《アイロンのある静物》(図6)、1955年の《静物M[水差しのある静物]》(図7)、1956年の《静物V[水差しのある静物]》(図8)、《静物O[鏡の前の静物]》(図9)、《静物[ドアとテーブルの上の静物]》(図10)、1958年の《静物P[天秤のある静物]》(図11)、《静物[煙草とマッチのある静物]》(図12)ということになる。

今泉は、「1952年、3年の比較的旧作も2、3点混じっていたが、大体が1958、9年であった」と述べているのだが、実際には、旧作は1952年から1956年までの5点を指しており、新作は、1958年の2点だけということにある。そのうえ、今のところ金山の知られている作品の中で1959年に制作されたと思われる油彩画は見当たらない。金山は、1958年9月に帰国してから、翌年3月の個展までに、日本で油絵を制作することがなかったのかもしれない。それとも、《静物P[天秤のある静物]》、《静物[煙草とマッチのある静物]》は、帰国後描かれたもので、1959年の個展開催間際まで筆を入れていたと推測することもできる。

今泉は、この個展評を執筆した時に、金山との思い出から書き起こしている。1951年末と一緒にコルシカやニースに旅行したこと。1957年にブリュッセルに行った途中にパリに立ち寄って、絵を見たこと。そして、急に帰国して、個展を開催したことに驚きを持って接している。まさか、数ヶ月後に急死する予感も抱かずに。

船戸は、この個展の作品を「滞欧作と新作あわせて七点並べている」と記している^{註15)}。ここでも新作といている。つまり残りの2点が新作で個展開催間際まで筆を加えていたと考えるのが自然である。ただ、船戸の記事をよく読みなおすと、次のような記述にぶつかる。「全部が静物で、テーブルの上のあきビン、あきカン、コップ、時計、帽子、コーヒーひき、コーヒーポット、タバコ、マッチといったたぐいが主役である。ある絵にはドアが描かれていて、ドアにはカギ穴が黒ぐるとかきこまれているから、密室の静物たちとでもいったところである」。「ドアにはカギ穴が黒ぐるとかきこまれている」作品というのは、1958年の《静物[ドアとテーブルの上の静物]》ではなく1956年に描かれたほうの静物画である。こうしてみると滞欧作と新作という言い方がはたして適切であったかどうか疑わしくなってくる。新作が滞欧作でないとするなら、1958年の《静物P[天秤のある静物]》と《静物[煙草とマッチのある静物]》は、やはり帰国後に描かれたと考えたほうがいいのかもわからない。

今泉もそうだが、遺作展について述べている植村鷹千代にしても、金山の作品が寡作だったのは、病弱も一因しているが、創作に対して誠実であったからだと考えている^{註16)}。納得のいく作品を作るために誠実さをもって創作に臨むということ、それは真の芸術家であれば創作に対する態度としては当たり前のことである。ただ、そのハードルが高ければ高いほど寡作になるのも当然であろう。そうした態度は1958年の帰国時に限ったことではなく、先述した1954年に制作され、後年加筆修正された《静物[コーヒーポットのある静物]》(図3、当館蔵)についてもいえることである。かくも芸術とは厳しいものであり、金山もこの創作に対する姿勢の中で苦しみもがき苦悩し続けたといえる。

*2011年度に、佐野繁次郎の甥にあたる鹿海信也氏から佐野繁次郎の資料を寄贈された。その中に佐野繁次郎宛金山康喜書簡が1通含まれており、1950年代パリで制作活動に励んだ二人の画家の関係を明らかにする貴重な資料と判断したことから、2011年度の年報に公開した。この資料公開にあたり、提供いただいた鹿海信也氏をはじめ、公開許可の承諾を

下さった金山康喜のご遺族綿貫民輔・千重子ご夫妻、さらに、公開に向けて労をとって下さった富山県立近代美術館の杉野秀樹氏にまず感謝申し上げます。さらに、今回の金山康喜の調査を進める上で多大なる援助を惜しまれなかった岡本半三のご遺族岡本千榮子氏、山崎安佐氏、廣瀬日佐子氏、並びに2015年の「金山康喜のバリー1950年代の日本人画家たち」展開催にご尽力いただいた野見山曉治氏をはじめ同展で共催した富山県立近代美術館、世田谷美術館、東京新聞事業部の方々に感謝申し上げます。

註15) 「異色の画家 金山康喜作品展」『毎日新聞』1959年3月29日。

註16) 『みづゑ』No.664 1960年8月、70頁。

調査研究・執筆等の発表

1) 当館開催展覧会に伴う調査研究・発表

展覧会図録への発表：計24件（「展覧会活動」pp.4-16参照）

外部媒体への発表：下記ほか4件

- ・李美那「望郷／亡郷 日韓美術家の『朝鮮』」国際フォーラム「20世紀前半、二重空間の韓国に生きた日韓の美術家たち」（パネラー）、2014年10月11日、会場：韓国文化院ハンマダンホール（新宿）、主催：『朝鮮』を描く（仮称）展研究会
- ・李美那「神奈川県立近代美術館の成立と李王家美術館との関係－日韓近代美術家の眼『朝鮮』を描く展」（パネラー）、主催：国立台湾芸術大学芸術管理文化政策研究所、2014年12月26日、会場：国立台湾芸術大学
- ・靱山昌夫 国際ラウンドテーブル「眼に見えないものの可視化－他館における展示法、美術館の内と外のブリコワール（Визуальность незримого: Другие правила, Приговор в музее и вне музея）」（パネラー）、2014年11月8日、会場：ロシア国立トレチャコフ美術館新館（モスクワ）

2) 所蔵作品及び館内活動に関する調査研究・発表

当館の刊行物への発表：下記ほか2件

- ・橋秀文「野中ユリの現在」『神奈川県立近代美術館年報 2013年度』2015年3月、pp.48-49
- ・靱山昌夫「グラヴリートの検閲番号等から特定されるポスター発行時期とその考察の展開－旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化的研究（2）、同上書、pp.50-52

外部媒体への発表：下記他2件

- ・「そこに吊るされているのは『わたし』 宮崎進との対話」（インタビューア：水沢勉）、『冬の旅 宮崎進』新潮社、2014年4月、pp.30-37
- ・三本松倫代「作品・資料解説（村山知義「ヘルタ・ハインツェ像」「美しき少女等に捧ぐ」ほか／和達知男「謎」／仲田定之助「首」）」『日本美術全集 第17巻 前衛とモダン』小学館、2014年6月、pp.298-300、304-305

3) その他の調査研究・発表

外部媒体への発表：下記ほか2件

- ・長門佐季「特別記事 短期連載 V 画家の妻－山下菊二夫人・昌子さんに聞く」『あいだ』212号、『あいだ』の会、2014年4月20日、pp.2-10
- ・靱山昌夫『『平民新聞』で注目されたロシアの文豪トルストイと画家ヴェレシチャーギン』『戦争の教室』松本彩子：編、月曜社、2014年7月、pp.321-332
- ・水沢勉「色彩のヴェール－田中岑を包むもの」『いろいろ、そうそう（田中岑作品集）』喜安嶺：編纂、求龍堂、2014年9月、p.155
- ・橋秀文「第3章 美術：1950年代 伝統の継承と新しい創造力」『日本の20世紀芸術』東京美術倶楽部：編、平凡社、2014年11月、pp.202-205、「作家解説・コラム」（海老原喜之助／森芳雄／金山康喜ほか）、pp.206-235
- ・長門佐季 同上書「作家解説」（阿部展也／山下菊二／斎藤義重ほか）、pp.207、213、215、216-218、220-223、225、230
- ・西澤晴美 同上書「作家解説・コラム」（瑛九／山口勝弘／実験工房ほか）、pp.210-213、215、217-222、224-225

外部資金の活用

1) 外部資金を活用した調査研究

「旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化的研究」科研（2013年度から継続）（靱山昌夫）

「東欧4カ国の映像文化に関する比較研究－チェコ、ハンガリー、クロアチア、ポーランド」公益財団法人 ポーラ美術振興財団
研究代表者（靱山昌夫）

「20世紀前半における朝鮮半島と日本をめぐる芸術状況についてのデータベース拡充および当該データベースを活用した国際共同研究」
公益財団法人 ポーラ美術振興財団 共同研究者（李美那）

「若林奮 ドローイング調査」公益財団法人 ポーラ美術振興財団 共同研究者（朝木由香）

「若林奮 ドローイング調査」美術館連絡協議会 共同研究者（朝木由香）

2) 外部資金を活用した展覧会・事業

「東欧アニメをめぐる旅－ポーランド・チェコ・クロアチア」（公益財団法人 ポーラ美術振興財団）

「国際フォーラム『20世紀前半、二重空間の韓国に生きた日韓の美術家たち』（公益財団法人 ポーラ美術振興財団）

講師派遣・外部委員等就任

1) 講演会講師等派遣（当館主催の学校連携プログラム以外の講師派遣）

実施日	内容	対象	会場	参加者数 主催／共催	実施者
2014年5月21日	講演 教育人間科学部人間文化課程授業「人間文化基礎論ⅠA」	学生	横浜国立大学教育人間科学部	156 横浜国立大学	長島彩音

2) 外部委員等就任

職員名	内 容	
	団体名	職 名
水沢勉	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	公益財団法人ポーラ美術振興財団	助成事業選考委員
	福岡市	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
	熊本市	熊本市美術品等収集審査委員会委員
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会委員
	岡山県立美術館	岡山県立美術館美術品評価委員会委員
	鎌倉市	鎌倉市教育委員会美術工芸作品収集選定委員会委員
	東京藝術大学	客員教授
	広島県立美術館	広島県立美術館評価委員会委員
	京都国立近代美術館	美術作品購入等選考委員会委員
	長野市	長野市野外彫刻賞選考委員
橋秀文	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
	世田谷区	世田谷区立世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館作品評価委員会委員
	山口蓬春記念館	山口蓬春記念館美術品評価委員
榎山昌夫	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
長門佐季	神奈川県	神奈川県美術展審査員
	公益財団法人日本美術協会	VOCA美術展推薦委員
	摘水軒記念文化振興財団	柏市美術展審査員

運営・管理報告

概況

(1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館
昭和41年 3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年 3月31日	学芸員室を増設
昭和49年 8月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く。
昭和59年 7月28日	別館を開館
平成 3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年 7月 5日	PFI事業契約の締結
平成15年 6月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる。
平成15年10月11日	葉山館を開館

(2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

(3) 施設の状況

ア 土地			
県有	(葉山館分)	面積	15,034.8㎡
		※生涯学習課管理	
	(鎌倉別館分)	面積	4,937.0㎡
借用	(鎌倉館分)	面積	4,243.1㎡
		(有償分)	1,547.2㎡
		(無償分)	2,695.8㎡
イ 建物			
県有		面積	4,034.0㎡
	(鎌倉館分)		2,435.0㎡
	(鎌倉別館分)		1,599.0㎡

PFI事業の概要

(1) 事業内容

PFI法に基づいて、PFI事業者が葉山館建設やその後の維持管理業務などを実施し、県は提供されたサービスの対価を30年間で事業者に支払う。PFI事業者が実施する主な業務は次のとおりである。

- ア 葉山館建設業務：葉山館新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
- イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理(修理を含まない)、清掃、警備、受付・監視など
- ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設(レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営
- エ 備品等整備業務：葉山館備品整備、美術作品等移転など

(2) 事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ
所在地：横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2
(落札した企業グループが設立した事業会社)

収入・支出の状況

収入		
科目	金額(千円)	内 訳
行政財産使用料	261	鎌倉館喫茶建物使用料等
使用料	27,664	観覧料収入
立替収入	2,038	レストラン他光熱水費
雑入	9,083	図録販売等
教育受講料収入	78	県立機関活用講座
計	39,124	

支出(人件費含まず)		
科目	金額(千円)	内 訳
維持運営費	54,987	維持管理
美術館事業費	81,007	展覧会開催費
調査研究事業費	360	調査研究資料購入
教育普及事業費	1,436	教育普及事業
美術作品整備事業費	3,902	美術作品購入・修復
特定事業費	415,134	PFI事業費
県立機関活用講座開催事業費	289	
計	557,115	

関係法規

神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日

条例第6号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 前2項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

附 則(昭和50年12月27日条例第58号抄)

1 この条例は、昭和51年4月1日から施行する。(後略)

附 則(昭和55年12月23日条例第60号抄)

1 この条例は、昭和56年4月1日から施行する。(後略)

附 則(昭和58年12月21日条例第41号抄)

(施行期日)

1 この条例は、昭和59年1月1日から施行する。ただし、(中略)第8条の規定は公布の日から起算して8月を超えない範囲内で神奈川県教育委員会規則で定める日から施行する。

附 則(平成4年12月22日条例第62号)

(施行期日)

1 この条例は、平成5年1月1日から施行する。ただし、第2条及び第5条から第9条までの規定は、同年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第1条、第3条、第4条及び第10条から第12条までの規定の施行の際現に申込みを受理しているものに係る神奈川県立音楽堂、神奈川県立相模湖漕艇場、神奈川県立体育センター、神奈川県立県央地区体育センター、神奈川県立西湘地区体育センター、神奈川県立武道館、神奈川県立スポーツ会館若しくは神奈川県立相模原球場(以下「神奈川県立音楽堂等」という。)の利用又は平成5年1月1日から同年3月31日までの間の神奈川県立音楽堂等の利用(相模湖漕艇場の艇庫の利用については、平成5年1月1日から同年3月31日までの間にその利用を開始し、かつ、その引き続き利用期間が平成5年4月1日以降にまたがる場合の当該平成5年4月1日以降の期間における利用を含む。)に係る使用料については、これらの規定に規定する各条例のこれらの規定による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成13年3月27日条例第22号)
この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月20日条例第43号)
この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。
(平成15年5月教育委員会規則第10号で、同15年6月1日から施行)

附 則(平成19年1月30日条例第3号)
この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年1月25日条例第1号)
この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成21年3月27日条例第25号)
この条例は、平成21年7月1日から施行する。

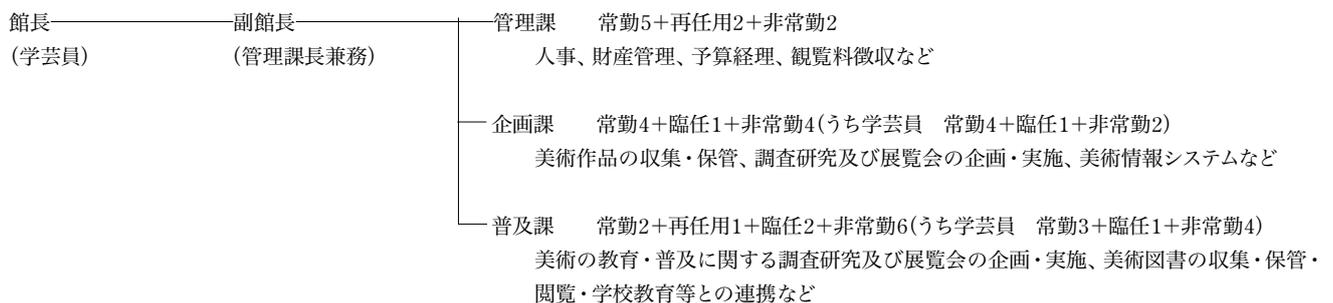
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成26年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 31人

常勤12人(うち学芸員6人)、再任用3人、臨任3人(うち学芸員2人)、非常勤13人(うち学芸員7人)

葉山館 22人<常勤8人(うち学芸員4人)、再任用2人、臨任2人(うち学芸員1人)、非常勤10人(うち学芸員5人)>

鎌倉館 9人<常勤4人(うち学芸員2人)、再任用1人、臨任1人(うち学芸員1人)、非常勤3人(うち学芸員2人)>

職員一覧

館長 水沢 勉

副館長 鈴木 豊

管理課	課長(兼)	鈴木 豊	普及課	課長(兼)	橋 秀文
	副主幹	佐藤 正俊		主任学芸員	糀山 昌夫
	副主幹	田中 博		主任学芸員	三本松倫代
	主査	野村いく子		臨時学芸員	土居 由美
	主査	沼田 洋子		非常勤学芸員	松尾子水樹
	主事	田口 真利子(4月12日まで)		非常勤学芸員	鈴木智香子
	臨時主事	仲原 智美(4月13日から6月7日まで日々雇用職員 6月24日から臨時主事)		非常勤学芸員	長島 彩音
	管理業務専門員	小神 敏行		非常勤学芸員	川人 未来
	管理業務専門員	小野 和子		[美術図書室]	
	非常勤事務補助員	篠崎千賀子		臨時司書	藤代 知子
	非常勤事務補助員	坂井 範代(6月8日まで)		図書業務専門員	市川 雄基
	非常勤事務補助員	渡邊 伸子(7月1日から)		非常勤司書	小川さよ子
				非常勤司書	大野 寿子
企画課	課長	橋 秀文			
	主任学芸員	李 美那			
	主任学芸員	長門 佐季			
	学芸員	西澤 晴美			
	臨時学芸員	朝木 由香			
	非常勤研究員	伊藤 由美			
	非常勤学芸員	酒井 一有			
	非常勤学芸員	喜代吉鏡子			
	非常勤事務嘱託	浦 日出夫			

年報 2014(平成26)年度

発行日: 2016年3月25日

編集・発行: 神奈川県立近代美術館

葉山 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 電話 0467-22-5000

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-7718

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

制作: 印象社

ANNUAL REPORT 2014

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2016

Produced by Inshosha

© The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2016